

## 4 . 医学系研究科

医学系研究科の教育目的と特徴 . . . . .	4 - 2
分析項目ごとの水準の判断 . . . . .	4 - 4
分析項目 教育の実施体制 . . . . .	4 - 4
分析項目 教育内容 . . . . .	4 - 19
分析項目 教育方法 . . . . .	4 - 32
分析項目 学業の成果 . . . . .	4 - 55
分析項目 進路・就職の状況 . . . . .	4 - 65
質の向上度の判断 . . . . .	4 - 73
別添資料 . . . . .	4 - 75

## 医学系研究科の教育目的と特徴

### 1. 教育目的

医学系研究科においては、人材の養成に関する目的を次のように定めている。  
(医学系研究科規程第1条の2)

博士課程：医学・生命科学領域において、高度な知識を有し、科学的・論理的な思考で独創的かつ国際的な研究を遂行できる研究者及び各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備えた臨床医を養成することを目的とする。

修士課程：看護学領域において豊かな人間性と幅広く高度な看護理論・技術を有し、高度専門的看護ケア実践能力を備え、地域保健医療福祉に貢献できる看護職および看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成することを目的とする。

上記の人材養成の目的を達成することにより、医学・看護学の進展、国民の健康増進、社会の福祉及び国際社会に貢献することを教育理念としている。

また、中期目標には大学の基本的目標として、「人々が健やかに暮らせるための学術文化や科学・技術に関する高度な教育を実施する」、「福井県域は、豊かな自然と文化に恵まれた良好な環境を維持しつつ、地域に根ざした個性的な産業を創生してきた。また、福井県は、多くの原子力発電所が立地する電源供給県である。このような創設の理念及び地域の特性を踏まえ、地域や国際社会にも貢献し得る人材を育成する」ことを掲げている。この基本的目標を踏まえ、「学部における基礎的知識及び実社会における実践的能力等の基盤の上に高度の専門的知識とともに優れた研究能力を備え、地域はもとより広く国際的な活動に貢献できる高い教育的資質を持つ人材及び高度な技術者・研究者を育成する。さらには、21世紀COEプログラムの推進により、世界をリードする創造的な人材育成に努める」ことを大学院の教育成果に関する目標としている。

### 2. 特徴

医学系研究科博士課程は、昭和61年4月に福井医科大学医学研究科博士課程として設置され、その基礎となる組織は医学部であるが、福井医科大学創設の基本理念でもある「原子力の平和的医学利用」を目的として平成6年5月に設置された高エネルギー医学研究センターの教員・設備が大学院教育にも活かされており、平成15年度の21世紀COEプログラム(医学系)に「生体画像医学の統合研究プログラム」が採択されている。また、平成20年度から国際的水準に見合うコースワークを充実させ、戦略的、組織的かつ体系的に教育課程を改組した。具体的には「医科学専攻」と「先端応用医学専攻」の2専攻を設置し、医科学専攻では自立して活躍する創造性と優れた研究・開発能力を有する研究者を養成すること、先端応用医学専攻では自立して研究を遂行できる能力と高度な専門的職能の両者を有する臨床医学研究者を養成することとしている。

修士課程は、平成13年4月に福井医科大学医学系研究科修士課程として設置され、地域で看護職に従事しつつ進学する社会人学生の比率が高いことが特徴となっている。このことは、社会人学生と学士卒業後そのまま入学する学生の相互学習により、高い臨床能力を基盤とした臨床的知見の中での課題を深く洞察し、課程での学びにより研究課題として焦点化し、さらに多様な研究方法による課題探求を遂行できている。その成果は、就業先においてリーダーシップ、指導教育能力が高く評価されており、地域の保健医療福祉への貢献度は高い。また、わが国の死亡率第1位の疾患であるがんを専門的にケアできるがん専門看護師の養成は全国的にも早急に解決すべき課題である。このような社会のニーズに対応して平成20年度からがん看護専門看護師教育科目を開講した。

なお、医学系研究科は、文部科学省の平成19年度「がんプロフェッショナル

養成プログラム」に北陸地区 5 大学で申請した「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」が採択されており，平成 20 年度から本格的にがん専門看護師のみならずがん専門医師の養成にも取り組むこととしている。

### 3 . 入学者の状況

博士課程では，入学定員 30 名（形態系（7），生理系（9），生化系（9），生態系（5））であり，年間 2 回の学生募集を行うと共に平成 13 年度から秋季入学生を受け入れている。設置以後平成 19 年までに 405 名の学生を受入れ，平成 20 年 3 月までに 283 名の修了生を輩出している。なお，平成 20 年度から改組する博士課程においては，入学定員 30 名（医科学（5），先端応用医学（25））としている。

修士課程では，入学定員 12 名（看護学専攻）であり，年間 2 回の学生募集を一般選抜と社会人特別選抜とで実施している。設置以後平成 19 年度までに 59 名の学生を受入れ，平成 20 年 3 月までに 56 名の修了生を輩出している。

#### [ 想定する関係者とその期待 ]

- 1 . 学生及びその保護者：優れた臨床能力と高度な医療技術・技能を備えた医療人，又は，高度の知識，科学的・論理的思考を備え，独創的な研究を遂行できる教育・研究者の養成
- 2 . 医療機関：優れた臨床能力と高度な医療技術・技能を備えた将来指導的役割を担うことが可能な医療人の養成
- 3 . 大学等の教育研究機関：高度の知識，科学的・論理的思考を備え，独創的な研究を遂行できる将来指導的役割を担うことが可能な教育・研究者の養成
- 4 . 地域社会：福井県地域の健康増進，社会福祉へ貢献し，地域医療の指導的役割を担う医療人の養成

分析項目ごとの水準の判断  
 分析項目 教育の実施体制

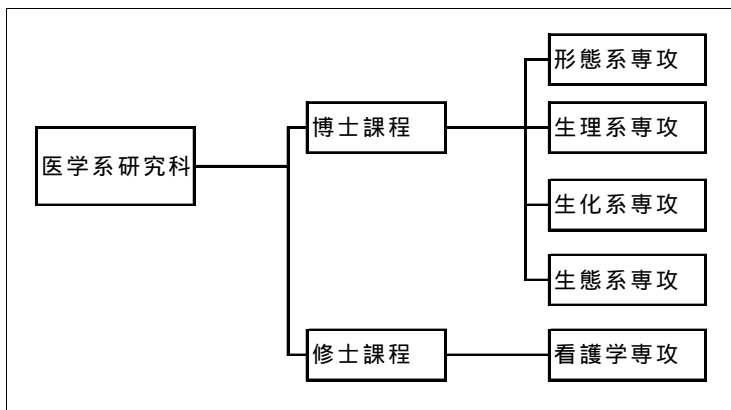
(1) 観点ごとの分析

観点 1-1 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

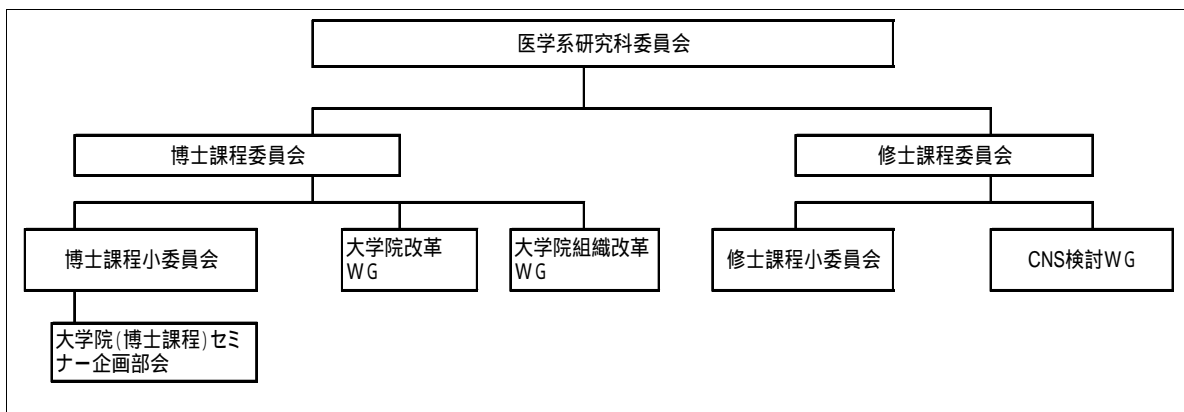
医学系研究科は博士課程及び修士課程から構成されている【資料 1-1-1】。医学系研究科の教員は医学部教員，高エネルギー医学研究センター教員及び総合実験研究支援センターバイオメディカル研究支援分野教員が兼務している。研究指導教員及び研究指導補助教員の配置数は，大学院設置基準第9条の規定に基づいて大学院の専攻ごとに置くものとする研究指導教員数並びにその他の教員組織（平成11年文部省告示第175号）に適合しており，大学院課程を遂行するために必要な教員が確保されている。また，教授については，公募制であり大学院教育を担当するのに必要な教育研究業績を有する優秀な教員を採用している【資料 1-1-2：P4～5, 資料 1-1-3:P5】。また，医学・看護学，医療へのニーズに応じた最新の知見等を教授する必要があるため，博士・修士の各課程とも精選した内容に関して学外から非常勤講師を招聘している【資料 1-1-4:P6】。

資料 1-1-1 医学系研究科の組織



(事務局資料)

資料 1-1-2(1) 医学系研究科の運営体制(1)



(事務局資料)

資料 1-1-2(2) 医学系研究科の運営体制(2)

<p><b>各委員会等の審議事項等</b> 医学系研究科委員会</p> <p>組織: 医学系研究科長及び医学系研究科担当の教授</p> <p>審議事項等: (1) 重要な規則の制定又は改廃に関する事項 (その他の事項については、博士課程委員会・修士課程委員会に審議を付託している。)</p> <p><b>博士課程委員会</b></p> <p>組織: 医学系研究科博士課程担当の教授</p> <p>審議事項等: (1) 医学系研究科委員会から付託された事項(＊) (2) その他該当課程の運営に関し必要な事項 ＊ 医学系研究科委員会から付託された事項は以下のとおり (1) 専攻・課程に係る規程、細則、内規等の制定又は改廃に関する事項 (2) 大学院担当教員の選考に関する事項 (3) 教育課程の編成及び研究指導に関する事項 (4) 試験及び単位の認定に関する事項 (5) 学位論文の審査及び最終試験に関する事項 (6) 学生の入退学、修了、賞罰等その身分に関する事項 (7) 学生の厚生及び補導に関する事項 (8) その他医学系研究科委員会が認める事項</p> <p><b>博士課程小委員会</b></p> <p>組織: (1) 博士課程担当の教授のうちから、医学系研究科長が指名する教授1名 (2) 博士課程担当の教授 各専攻から2名</p> <p>審議事項等: (1) 博士課程に関する専門的事項の調査検討</p> <p><b>大学院改革WG</b></p> <p>組織: 医学研究推進室長(博士課程担当教授)及び博士課程担当の教授 若干名</p> <p>検討事項等: 大学院(博士課程)改革の試案の策定(以下は主な検討事項) ・カリキュラムの見直し・指導教員の複数制・定員充足対策 ・論文博士制度の在り方・審議会答申、白書等の対応</p> <p><b>大学院組織改革WG</b></p> <p>組織: 医学系研究科長、博士課程担当の教授 若干名 及び総務室長・学務室長</p> <p>検討事項等: 大学組織改革(博士課程の改組)案の策定</p> <p><b>大学院(博士課程)セミナー企画部会</b></p> <p>組織: 博士課程担当の教授・准教授及び医学部の講師及助教 各若干名</p> <p>検討事項等: 大学院セミナーの企画・運営・実施</p>	<p><b>修士課程委員会</b></p> <p>組織: 医学系研究科修士課程担当の教授</p> <p>審議事項等: (1) 医学系研究科委員会から付託された事項(＊) (2) その他該当課程の運営に関し必要な事項 ＊ 医学系研究科委員会から付託された事項は以下のとおり (1) 専攻・課程に係る規程、細則、内規等の制定又は改廃に関する事項 (2) 大学院担当教員の選考に関する事項 (3) 教育課程の編成及び研究指導に関する事項 (4) 試験及び単位の認定に関する事項 (5) 学位論文の審査及び最終試験に関する事項 (6) 学生の入退学、修了、賞罰等その身分に関する事項 (7) 学生の厚生及び補導に関する事項 (8) その他医学系研究科委員会が認める事項</p> <p><b>修士課程小委員会</b></p> <p>組織: (1) 修士課程委員会委員長 (2) 修士課程担当の教授</p> <p>審議事項等: (1) 修士課程に関する専門的事項の調査検討</p> <p><b>CNS検討WG</b></p> <p>組織: 修士課程担当の教授 若干名</p> <p>検討事項等: CNSコース設置に係る調査・検討</p>
---	--

(事務局資料)

資料 1-1-3 医学系研究科における教員の配置状況

区分	平成11年文科省第175号に定める教員数		平成19年5月1日現在				合計	備考		
	研究指導教員数	その他の教員組織	教授	准教授	計	教授			准教授	講師
修士課程	6	研究指導教員数と均衡のとれた研究指導補助教員を置くことが望ましい。								
看護学専攻			6		6	6	1	7	13	
博士課程	30	研究指導教員数と研究指導補助教員数を合わせて60以上とする。								
形態系専攻			10		10	12		12	22	
生理系専攻			9		9	9		9	18	
生化系専攻			10		10	9		9	19	
生態系専攻			5		5	5		5	10	
計			34		34	35		35	69	

(事務局資料)

資料 1-1-4 非常勤講師一覧

博士課程						
	授業科目	氏名	本務先	開設期間	担当時間	
H16年度	医学研究総論	新井 賢一	財団法人東京都医学研究機構 理事	後期		2
	医学研究総論	井戸 達雄	東北大学サイロロジ アイトフセンター 教授	後期		2
	医学研究総論	改正 恒康	大阪大学微生物病研究所 助教授	後期		2
	医学研究総論	加藤 茂明	東京大学分子細胞生物学研究所 教授	後期		2
	医学研究総論	門脇 孝	東京大学大学院医学系研究科 教授	後期		2
	医学研究総論	坂口 志文	京都大学再生医科学研究所 教授	後期		2
	医学研究総論	谷口 直之	大阪大学医学部 教授	後期		2
	医学研究総論	中山 敬一	九州大学生体防御医学研究所 教授	後期		2
	医学研究総論	成宮 周	京都大学大学院医学研究科 教授	後期		2
	医学研究総論	宮園 浩平	東京大学大学院医学系研究科 教授	後期		2
10						
H17年度	医学研究総論	坂野 仁	東京大学大学院理学系研究科 教授	後期		2
	医学研究総論	竹市 雅俊	(独)理化学研究所神戸研究所 所長	後期		2
	医学研究総論	武藤 誠	京都大学大学院医学研究科 教授	後期		2
	医学研究総論	山村 博平	神戸大学大学院医学系研究科 教授	後期		2
	医学研究総論	吉村 昭彦	九州大学生体防御医学研究所 教授	後期		2
5						
H18年度	医学研究総論 (イオンチャネルの生理)	森 泰生	京都大学大学院工学研究科 教授	前期	2	
	医学研究総論 (グリ)の生化学)	児島 将康	久留米大学分子生命科学研究所 教授	前期	2	
	医学研究総論 (ヒトの性分化異常症)	緒方 勤	国立成育医療センター研究所 部長	後期		2
	医学研究総論 (ケムインプリンク)	石野 史敏	東京医科歯科大学難治疾患研究所 教授	後期		2
	医学研究総論 (転写制御)	田賀 哲也	熊本大学発生医学研究センター 教授	後期		2
5						
H19年度	医学研究総論 (細胞分子生物学)	三品 昌美	東京大学大学院医学系研究科 教授	後期		2
	医学研究総論 (細胞分子生物学)	貝淵 弘三	名古屋大学大学院医学系研究科 教授	後期		2
	医学研究総論 (細胞分子生物学)	竹縄 忠臣	神戸大学医学系研究科 特命教授	前期	2	
	医学研究総論 (細胞分子生物学)	長濱 嘉孝	自然科学研究機構基礎生物学研究所 教授	後期		2
	医学研究総論 (細胞分子生物学)	花岡 和則	北里大学理学部 教授	後期		2
	医学研究総論 (細胞分子生物学)	駒井 章治	奈良先端科学技術大学院大学 助教	前期	2	
	医学研究総論 (細胞分子生物学)	山中 伸弥	京都大学 物質・細胞統合システム拠点 教授	後期		2
7						
修士課程						
	授業科目	氏名	本務先	開設期間	担当時間	
H16年度	基礎・地域看護学特論	高野 順子	愛知医科大学看護学部 教授	前期	6	
	基礎・地域看護学特論	岡本 玲子	神戸大学医学部 助教授	前期	2	
	基礎・地域看護学特論	櫻井 尚子	東京慈恵会医科大学看護学科 助教授	前期	4	
	成人・老人看護学特論	水谷 信子	兵庫県立大学看護学部 教授	前期	6	
	成人・老人看護学特論	千崎 美登子	北里大学東病院 看護係長 (CNS)	前期	6	
	母子看護学特論	河合 優年	武庫川女子大学教育研究所 教授	前期	6	
6						
H17年度	基礎地域看護学特論	高野 順子	愛知医科大学看護学部 教授	前期	4	
	基礎地域看護学特論	桜井 尚子	東京慈恵会医科大学看護学科 助教授	前期	4	
	基礎地域看護学特論	岡本 玲子	神戸大学医学部保健学科 助教授	前期	2	
	老人看護学特論	沼本 教子	神戸市看護大学看護学科 教授	前期	6	
	成人看護学特論	千崎 美登子	北里大学東病院 看護係長 (CNS)	前期	6	
	母子看護学特論	河合 優年	武庫川女子大学教育研究所 教授	前期	4	
	母子看護学特論	末原 紀美代	大阪府立大学看護学部 教授	前期	4	
7						
H18年度	基礎地域看護学特論	近田 敬子	園田学園女子大学人間健康学部 看護学科長	後期		6
	基礎地域看護学特論	岡本 玲子	神戸大学医学部保健学科 助教授	前期	4	
	老人看護学特論	沼本 教子	神戸市看護大学 教授	前期	6	
	成人看護学特論	千崎 美登子	北里大学東病院 看護係長 (CNS)	前期	6	
	母子看護学特論	河合 優年	武庫川女子大学教育研究所 教授	前期	3	
	母子看護学特論	末原 紀美代	大阪府立大学看護学部 教授	前期	3	
6						
H19年度	生命倫理	山本 達	福井医療短期大学 教授	後期		14
	基礎看護学特論	野口 裕二	東京学芸大学教育学部 教授	前期	6	
	基礎看護学特論	尾崎フサ子	新潟大学医学部 教授	後期		6
	地域看護学特論	池田 直樹	大阪アドボカシー法律事務所 弁護士	前期	4	
	成人看護学特論	田墨 恵子	大阪大学医学部附属病院 看護師長 (CNS)	前期	6	
	老人看護学特論	沼本 教子	神戸市看護大学 教授	前期	6	
	母子看護学特論	河合 優年	武庫川女子大学教育研究所 教授	前期	3	
	母子看護学特論	末原 紀美代	大阪府立大学看護学部 教授	前期	3	
8						

(事務局資料)

医学系研究科の平成16年度～平成19年度の学生の定員充足率は、修士課程、博士課程とも概ね適切である【資料1-1-5】。

資料1-1-5 医学系研究科における学生数・定員充足率

区分	収容定員	(各年度5月1日現在)					備考
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均	
		学生数 定員充足率	学生数 定員充足率	学生数 定員充足率	学生数 定員充足率	学生数 定員充足率	
修士課程							
看護学専攻	24	18 75.0%	26 108.3%	25 104.2%	20 83.3%	22.3 92.7%	
博士課程							
形態系専攻	28	14 (1) 50.0%	13 (2) 46.4%	18 (4) 64.3%	16 (4) 57.1%	15.3 (2.8) 54.5%	
生理系専攻	36	39 (2) 108.3%	38 (1) 105.6%	33 (1) 91.7%	34 (2) 94.4%	36.0 (1.5) 100%	
生化系専攻	36	55 (1) 152.8%	51 (1) 141.7%	49 (1) 136.1%	42 (1) 116.7%	49.3 (1) 136.8%	
生態系専攻	20	9 45%	5 25%	7 35%	7 35%	7.0 35%	
計	120	117 (4) 97.5%	107 (4) 89.2%	107 (6) 89.2%	99 (7) 82.5%	107.5 (5.3) 89.6%	
医学系研究科計	144	135 (4) 93.8%	133 (4) 92.4%	132 (6) 91.7%	119 (7) 82.6%	129.8 (5.3) 90.1%	

(注) ( )内は留学生数で内数

(事務局資料)

## 観点1-2 教育内容，教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

博士課程では、平成15年度に大学院改革ワーキンググループ及び平成17年度に大学院組織改革ワーキンググループをそれぞれ設置し、これらワーキンググループを中心に教育内容、教育方法の改善に関する検討を実施してきている。その結果、副指導教員制度の導入等が行われた【資料1-2-1:P8】。また、医科学・生命科学の急激な進歩や国際化に適切に対応するため、組織改革の検討が進められ、平成20年度から従来の4専攻を医科学専攻及び先端応用医学専攻の2専攻に改組した【資料1-2-2:P8, 資料1-2-3:P9～11】。さらに、医学研究総論及び大学院セミナーにおいては、平成15年度から授業ごとに毎回受講学生によるアンケートを実施し、教育内容・方法の改善を図ることとしている。このアンケート結果については、授業担当教員にフィードバックされ、次年度の授業の改善に活かされており、19年度のアンケート結果をみると各授業に対する学生の満足度は高いことが伺われる【別添資料1-2-4:P75～76】。

資料 1-2-1 博士課程・大学院改革WGの主な検討内容

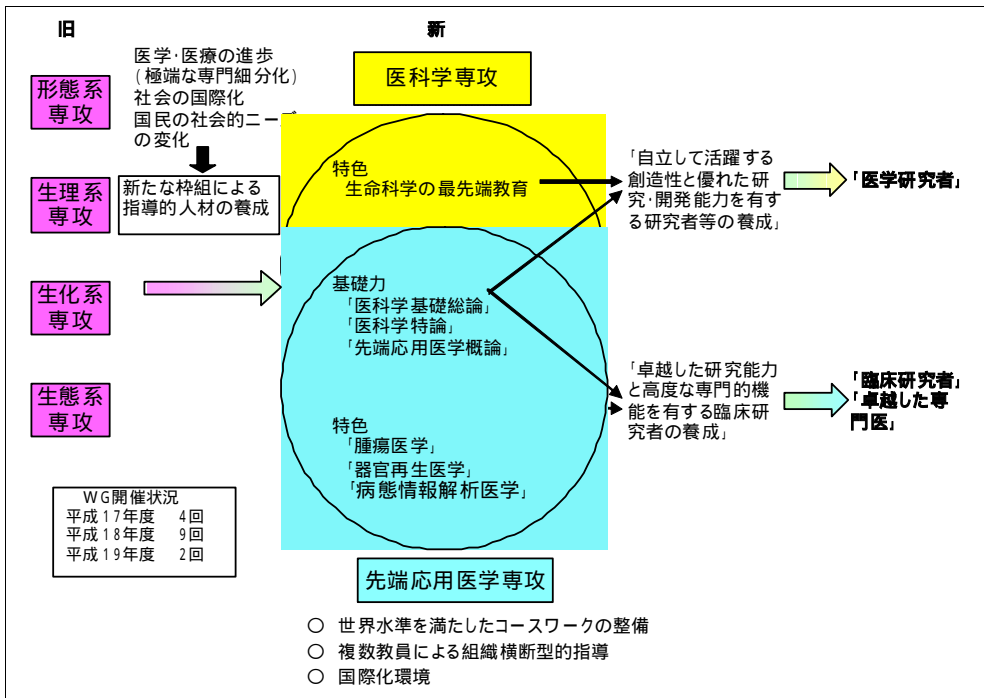
検討内容	結果
指導教員の複数(2人)制 「大学院博士課程の指導教員の2人制に関する申合せ」の策定	平成16年4月から指導教員2人制を適用
医学研究総論の見直し 「出席の取扱い、成績評価の申合せ」について検討	従前どおりとすることを決定
入学者数減への対応 「募集パンフレットの作成」の提言 「論文博士制度の在り方」の検討	募集パンフレットの作成については、博士課程小委員会で検討願う 論文博士制度については、現行どおり
課程博士の論文審査の取扱い 「学位論文審査に関する申合せの改正案」の策定	平成16年11月から施行
生命科学研究教育センター(仮)の設置 「生命科学研究教育センター(仮)の設置構想案」の策定	平成17年4月1日設置
『新時代の大学院教育』(中教審答申・中間報告)への対応 「大学院組織の見直しの必要性」を提言	大学院組織改革WGを設置

WG開催状況  
平成15年度4回  
平成16年度10回  
平成17年度1回

アンケート実施回数  
平成15年度1回(教員)  
平成16年度4回(院生1回、教員3回)

(事務局資料)

資料 1-2-2 博士課程の組織改革



(事務局資料)



資料 1-2-3(1) 改組後の博士課程授業開設表 ( 1 )

専攻	コース	部門	授業科目	配当年次	開設単位		履修時間数			履修方法	
					必修	選択	講義	演習	実習		
医 科 学 専 攻	医 科 学 コ ー ス	共通科目	医科学基礎総論	1~3	4		60			指導教員の指導により下記のとおり履修しなければならない。 共通科目（必修）18単位 所属する部門の講義及び演習8単位以上 医科学専攻、先端応用医学専攻の科目の中から4単位以上 計30単位以上を履修	
			実験基礎演習	1~3	2			30			
			医科学特論	1~3	6		90				
			先端応用医学概論	1~3	6		90				
		分子生命科学部門	分子生命医科学特論	1~3		2	30				
			生体分子構造・機能解析論	1~3		2	30				
			分子生命医科学演習	1~4		4		60			
		高次生命科学部門	高次生命医科学特論	1~3		2	30				
			生体統御学特論	1~3		2	30				
			高次生命医科学演習	1~4		4		60			
		生体情報学部門	生体情報医科学特論	1~3		2	30				
			生体情報医科学特論	1~3		2	30				
			生体情報医科学演習	1~4		4		60			
		感染防御学部門	感染防御医科学特論	1~3		2	30				
			免疫学特論	1~3		2	30				
			医動物制御学特論	1~3		2	30				
		機能画像学部門	機能画像医学特論	1~3		2	30				
			機能画像医学特論	1~3		2	30				
			機能画像医学演習	1~4		4		60			
		領域専門科目	病態遺伝生化学特論演習	1~4		1		15			
			病態遺伝生化学特論実習	1~4		1			30		
			分子生理学特論演習	1~4		2		30			
			分子生理学特論実習	1~4		2			60		
			分子生命化学特論演習	1~4		1		15			
			分子生命化学特論実習	1~4		1			30		
			人体解剖学・神経科学特論演習	1~4		2		30			
			人体解剖学・神経科学特論実習	1~4		2			60		
			組織細胞形態学・神経科学特論演習	1~4		2		30			
			組織細胞形態学・神経科学特論実習	1~4		2			60		
			分子遺伝学特論演習	1~4		2		30			
			分子遺伝学特論実習	1~4		2			60		
			薬理学特論演習	1~4		2		30			
			薬理学特論実習	1~4		2			60		
			統合生理学特論演習	1~4		2		30			
			統合生理学特論実習	1~4		2			60		
			分子生体情報学特論演習	1~4		2		30			
			分子生体情報学特論実習	1~4		2			60		
			微生物学特論演習	1~4		2		30			
			微生物学特論実習	1~4		2			60		
			免疫細胞学特論演習	1~4		1		15			
			免疫細胞学特論実習	1~4		1			30		
			寄生虫学特論演習	1~4		1		15			
			寄生虫学特論実習	1~4		1			30		
			分子イメージング特論演習	1~4		2		30			
			分子イメージング特論実習	1~4		2			60		
			生体イメージング特論演習	1~4		2		30			
生体イメージング特論実習	1~4			2			60				
腫瘍制御特論演習	1~4			1		15					
腫瘍制御特論実習	1~4			1			30				
実験動物手法学特論演習	1~4			2		30					
実験動物手法学特論実習	1~4			2			60				
合 計					18	96	-				

(事務局資料)

資料 1-2-3(2) 改組後の博士課程授業開設表(2)

専攻	コース	部門	授業科目	配当年次	開設単位		履修時間数			履修方法	
					必修	選択	講義	演習	実習		
先端応用医学専攻	共通科目	共通科目	医科学基礎総論	1~3	4		60			指導教員の指導により下記のとおり履修しなければならない。  共通科目(必修)18単位 所属するコースの講義及び演習6単位以上 医科学専攻、先端応用医学専攻の科目の中から6単位以上  計30単位以上を履修	
			実験基礎演習	1~3	2			30			
			医科学特論	1~3	6		90				
			先端応用医学概論	1~3	6		90				
	腫瘍医学コース	生殖・腫瘍・周産期・産科・腫瘍医学部門	分子腫瘍学特論	1~3		2	30				
			分子腫瘍学演習	2~4		4		60			
			臨床腫瘍学特論(腫瘍病理診断学)	1~3		4	60				
			臨床腫瘍学特論(腫瘍画像診断学)								
			臨床腫瘍学特論(腫瘍内視鏡診断学)								
			臨床腫瘍学特論(腫瘍外科治療学)								
			臨床腫瘍学特論(腫瘍薬物治療学)								
			臨床腫瘍学特論(腫瘍放射線治療学)								
			臨床腫瘍学演習Ⅰ(総論)	2~4		2		30			
			臨床腫瘍学演習(各論)	2~4		4		60			
	器官再生医学コース	成長発育部門	成長発達病態学	1~3		2	30				
			成長発達病態学演習	2~4		4		60			
		器官病態解析部門	器官再生生物医学	1~3		2	30				
			器官再生生物医学演習	2~4		4		60			
			神経運動分子生物学	1~3		2	30				
			神経運動分子生物学演習	2~4		4		60			
			呼吸循環器再生分子科学	1~3		2	30				
			呼吸循環器再生分子科学演習	2~4		4		60			
			心血管内分泌代謝学	1~3		2	30				
			心血管内分泌代謝学演習	2~4		4		60			
	病態情報解析	病態情報・画像医学部門	病態情報解析医学特論(生体画像情報解析学)	1~3		2	30				
			病態情報解析医学特論(臨床薬物治療学)	1~3		2	30				
			病態情報解析医学演習	2~4		4		60			
			病態情報解析医学演習	2~4		4		60			
			病態情報解析医学演習	2~4		4		60			
			病態情報解析医学演習	2~4		4		60			
	領域専門科目		腫瘍病理学特論演習	1~4		3	45				
			腫瘍病理学特論実習	1~4		3		90			
			分子病理学特論演習	1~4		2	30				
			分子病理学特論実習	1~4		2		60			
			環境保健学特論演習	1~4		3	45				
			環境保健学特論実習	1~4		3		90			
			法医学・人類遺伝学特論演習	1~4		2	30				
			法医学・人類遺伝学特論実習	1~4		2		60			
			内科学特論演習	1~4		2	30				
			内科学特論実習	1~4		2		60			
内科学特論演習			1~4		3	45					
内科学特論実習			1~4		3		90				
内科学特論演習			1~4		2	30					
内科学特論実習			1~4		2		60				
小児科学特論演習			1~4		2	30					
小児科学特論実習			1~4		2		60				
精神医学特論演習			1~4		2	30					
精神医学特論実習			1~4		2		60				
皮膚科学特論演習			1~4		2	30					
皮膚科学特論実習			1~4		2		60				
放射線医学特論演習			1~4		2	30					
放射線医学特論実習			1~4		2		60				
外科学特論演習			1~4		2	30					
外科学特論実習			1~4		2		60				
外科学特論演習			1~4		3	45					
外科学特論実習			1~4		3		90				
整形外科特論演習			1~4		2	30					
整形外科特論実習			1~4		2		60				

(事務局資料)

資料 1-2-3(3) 改組後の博士課程授業開設表 ( 3 )

専攻	コース	部門	授業科目	配当年次	開設単位		履修時間数			履修方法
					必修	選択	講義	演習	実習	
先端 応用 医学 専攻		領域 専門 科目	脳脊髄神経外科学特論演習	1~4		3		45		
			脳脊髄神経外科学特論実習	1~4		3			90	
			麻酔・蘇生学特論演習	1~4		2		30		
			麻酔・蘇生学特論実習	1~4		2			60	
			産科婦人科学特論演習	1~4		2		30		
			産科婦人科学特論実習	1~4		2			60	
			泌尿器科学特論演習	1~4		2		30		
			泌尿器科学特論実習	1~4		2			60	
			眼科学特論演習	1~4		2		30		
			眼科学特論実習	1~4		2			60	
			耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論演習	1~4		2		30		
			耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論実習	1~4		2			60	
			歯科口腔外科学特論演習	1~4		2		30		
			歯科口腔外科学特論実習	1~4		2			60	
			腎臓病態内科学特論演習	1~4		2		30		
			腎臓病態内科学特論実習	1~4		2			60	
			臨床薬理学特論演習	1~4		1		15		
			臨床薬理学特論実習	1~4		1			30	
		腫瘍 専門 科目	腫瘍薬物学特論	1~4	1	15			腫瘍専門科目は修了要件の単位数に算入しない。	
			腫瘍放射線医学特論	1~4	1	15				
			がん緩和医療学特論	1~4	1	15				
			腫瘍病理学特論	1~4	1	15				
			臨床腫瘍治療学特論	1~4	1	15				
			がん外科学特論	1~4	1	15				
		合計					0	42	-	

(注) 教育上必要があるときは、大学院博士課程委員会の議を経て、授業科目又は単位数を変更することがある。

(事務局資料)

修士課程では、教育内容、教育方法について平成 16 年度から修了予定学生に対してアンケートを実施している。その結果は、すべて修士課程小委員会及び修士課程委員会で周知、問題点が審議され、教育内容・方法の改善に反映させている。特に大学院教育の基盤として位置付けている共通科目については、種々の検討を経て改善を図っている。また、学生による教育評価アンケートは平成 19 年度から在学学生及び修了生を対象として実施した。このアンケート結果により対応が必要な事項については、修士課程小委員会において課題抽出および対応案を検討するなど有効な対応を図ることとしている【資料 1-2-5:P12~13, 資料 1-2-6:P13, 資料 1-2-7:P14】。また、平成 15 年から CNS 検討ワーキンググループを設置し、CNS コース設置に向け教育課程の検討を行い、平成 20 年度に同コースを設置した【資料 1-2-8:P14, 資料 1-2-9:P15】。

資料 1-2-5(1) 修士課程・大学院教育に関するアンケート様式(在学学生)(1)

修士課程・大学院教育に関する調査							
この調査は、大学院学生の皆さんから大学院教育について評価していただくためのものです。結果は、今後の教育の改善のために使用します。あなたが感じたままを教えてください。							
該当する番号に1つ をつけてください。							
学年	1. M1	2. M2	非常に当てはまる	かなり当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
<b>大学院教育全体について</b>							
1	大学院生としての生活に満足している。	5	4	3	2	1	
2	自分の学習目標は達成されている。	5	4	3	2	1	
3	自分のキャリア形成、向上に役立っている。	5	4	3	2	1	
<b>カリキュラム(教育課程・時間割)・シラバスについて</b>							
1	カリキュラムは学習しやすく編成されている。	5	4	3	2	1	
2	共通科目と専門科目の配置は満足している。	5	4	3	2	1	
3	2年間の学習過程(講義予定・研究に関する全体日程など)は問題がない。	5	4	3	2	1	
4	シラバス内容(教育内容・方法・評価・教材他)はわかりやすい。	5	4	3	2	1	
5	シラバスを活用している。	5	4	3	2	1	
(カリキュラムに関して意見がありましたら自由に書いてください。)							
<b>講義を中心とした教育活動について</b>							
<b>A 共通科目</b>							
1	教育内容・方法に関するオリエンテーションが充分である。	5	4	3	2	1	
2	シラバス内容と教育内容が一致している。	5	4	3	2	1	
3	教育内容は無駄がなく、順序だてて整理されている。	5	4	3	2	1	
4	学習目標が達成できる内容である。	5	4	3	2	1	
5	教育方法は教育内容に適している。	5	4	3	2	1	
6	教育内容は満足している。	5	4	3	2	1	
7	課題(レポートなど)は適切である。	5	4	3	2	1	
8	教員は講義の準備を充分している。	5	4	3	2	1	
9	講義中の雰囲気満足している。	5	4	3	2	1	
10	講義中の教員と学生の関係に満足している。	5	4	3	2	1	
11	学習内容について教員と学生の意見交換がなされている。	5	4	3	2	1	
12	学習内容について学生相互の意見交換がなされている。	5	4	3	2	1	
<b>B 特 論</b>							
1	教育内容・方法に関するオリエンテーションが充分である。	5	4	3	2	1	
2	シラバス内容と教育内容が一致している。	5	4	3	2	1	
3	教育内容は無駄がなく、順序だてて整理されている。	5	4	3	2	1	
4	学習目標が達成できる内容である。	5	4	3	2	1	
5	教育方法は教育内容に適している。	5	4	3	2	1	
6	教育内容は満足している。	5	4	3	2	1	
7	課題(レポートなど)は適切である。	5	4	3	2	1	
8	教員は講義の準備を充分している。	5	4	3	2	1	
9	講義中の雰囲気満足している。	5	4	3	2	1	
10	講義中の教員と学生の関係に満足している。	5	4	3	2	1	
11	学習内容について教員と学生の意見交換がなされている。	5	4	3	2	1	
12	学習内容について学生相互の意見交換がなされている。	5	4	3	2	1	

(事務局資料)

資料 1-2-5(2) 修士課程・大学院教育に関するアンケート様式(在学学生)(2)

修士課程・大学院教育に関する調査

C 演習

1 教育内容・方法に関するオリエンテーションが充分である。	5	4	3	2	1
2 シラバス内容と教育内容が一致している。	5	4	3	2	1
3 教育内容は無駄がなく、順序だてて整理されている。	5	4	3	2	1
4 学習目標が達成できる内容である。	5	4	3	2	1
5 教育方法は教育内容に適している。	5	4	3	2	1
6 教育内容は満足している。	5	4	3	2	1
7 課題(レポートなど)は適切である。	5	4	3	2	1
8 教員は講義の準備を充分している。	5	4	3	2	1
9 講義中の雰囲気は満足している。	5	4	3	2	1
10 講義中の教員と学生の関係に満足している。	5	4	3	2	1
11 学習内容について教員と学生の意見交換がなされている。	5	4	3	2	1
12 学習内容について学生相互の意見交換がなされている。	5	4	3	2	1

(教育内容・方法に関して意見がありましたら自由に書いてください。)

研究活動を中心とした教育活動について(特別研究) *現在の段階まで答えてください。*

1 特別研究(4単位)の指導は充分である。	5	4	3	2	1
2 研究準備の段階での支援は充分である。	5	4	3	2	1
3 データ収集の段階での支援は充分である。	5	4	3	2	1
4 データ分析の段階での支援は充分である。	5	4	3	2	1
5 論文作成の段階での支援は充分である。	5	4	3	2	1
6 口頭発表の段階での支援は充分である。	5	4	3	2	1
7 最終試験の段階での支援は充分である。	5	4	3	2	1
8 研究過程において主体的に学習した。	5	4	3	2	1

(研究指導に関して意見がありましたら自由に書いてください。)

学習環境について

1 講義室の環境は満足している。	5	4	3	2	1
2 院生室をよく使用している。	5	4	3	2	1
3 院生室の環境(備品、照明、広さ等)は満足している。	5	4	3	2	1
4 図書館は利用しやすい。	5	4	3	2	1
5 図書館をよく利用している。	5	4	3	2	1
6 図書館の蔵書に満足している。	5	4	3	2	1
7 図書館以外の学習資源に満足している。	5	4	3	2	1
8 パソコンの使用に満足している。	5	4	3	2	1
9 学習資源の印刷やコピーの機器に満足している。	5	4	3	2	1
10 学習環境に関して学生の意見が反映されている。	5	4	3	2	1
11 仕事と学業との両立ができている。	5	4	3	2	1
12 教員は学生の意見を反映して教育活動をしている。	5	4	3	2	1
13 履修や学生生活について相談できるシステムがある。	5	4	3	2	1
14 他領域の学生との交流や関係に満足している。	5	4	3	2	1

(学習環境に関して意見がありましたら自由に書いてください。)

その他

1 運営システムやカリキュラムについて仕事との両立でもっと充実してほしい内容があれば書いてください。

2 その他意見がありましたら自由に書いてください。

(事務局資料)

資料 1-2-6 修士課程・大学院教育に関するアンケート様式(修了生)

修士課程・大学院教育に関する調査

この調査は、福井大学医学系研究科修士課程を修了された皆さんから大学院教育について評価していただくためのものです。結果は、今後の教育の改善のために使用します。感じたままをお答えください。

修了年次	平成	年						
現在の職業(所属)								

右欄の該当する番号に1つ をつけてください。

1 大学院での学習は実践活動に役立っている。	5	4	3	2	1
2 現在研究活動を継続している。	5	4	3	2	1
3 大学院での学習は教育活動に役立っている。	5	4	3	2	1
4 大学院での学習に満足している。	5	4	3	2	1
5 大学院での学習はキャリアの向上に役立っている。	5	4	3	2	1

現在の仕事に役立っている教育内容(科目)とその理由を書いてください。(複数に可)

1.健康環境論 2.疾病科学論 3.疾病科学論 4.生命倫理 5.看護倫理  
 6.看護研究 7.看護理論 8.看護教育 9.看護管理 10.基礎・地域看護学特論  
 11.基礎看護学特論 12.地域看護学特論 13.成人・老人看護学特論 14.成人看護学特論  
 15.老人看護学特論 16.母子看護学特論 17.演習 18.特別研究  
 (その理由)

大学院に希望したい教育内容(科目)とその理由を書いてください。

大学院に希望したい教育環境(教室・院生室・教育機器・ほか)とその理由を書いてください。

(事務局資料)

資料 1-2-7 修士課程における教育内容・方法の改善の具体的取組例

<p>・教育内容では、学生のレディネスを知るために、基本知識の確認や、授業後にレポート課題を出してきている。又、どのような事を学びたいかについて、アンケートを実施したり学生に聞いている。また、映像教材を多く用いて、さらに授業内容の理解を深めている。</p> <p>・教育方法については、学生に積極的に参加してもらうために、質問をしたり、学生主体のプレゼンテーションの時間を設けて、理解を深めている。</p> <p>・看護研究、特論では、現実の実際のデータを示しながら、関心を持ってもらえる工夫をしている。</p> <p>・1対1の個別指導の充実化</p>	<p>基礎・地域</p>
<p>・院生の演習、特別研究はゼミ形式で行ない、教室員も参加して共に学びつつ院生を支援している。</p> <p>・院生の研究の推進に当たり、計画段階、途中経過報告など、修士課程の終了生を含む教室研究会に案内し、参加者からの多くの意見を反映している。</p> <p>・研究が継続し発展して行くことを視野に入れた研究テーマを推進し臨床看護に還元できることを目指している。</p>	<p>母子</p>
<p>・成人・老人看護学領域は研究テーマが広いため、院生の研究主題の専門性に合わせて、適切な研究指導ができるように工夫している。具体的には指導教員のみならず、准教授の専門性を生かし副指導教員として配置し指導の充実を図っている。</p> <p>・領域内の研究進捗状況報告会を適時開催し、領域所属教員全員で意見交換や助言をすることにより、幅の広い視野で研究指導ができるように工夫している。</p>	<p>成人・老人</p>

(事務局資料)

資料 1-2-8 CNSコース設置に関する検討経過

年度	検討内容等
平成16年度まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門看護師教育課程の検討の必要性の承認(中期目標・計画との関連)</li> <li>・修士課程小委員会メンバーで検討することを決定</li> <li>・専門看護師制度及び認定看護師制度の理解、実態把握</li> <li>・今期中期目標・計画内の設置の可能性の検討</li> </ul>
平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置する専門看護師教育課程の分野の検討(日本看護系大学協議会からの情報収集、文部科学省の最近の見解)</li> <li>・がん看護(CNS)分野での申請の可能性について検討(CNS説明会への出席)</li> <li>・平成20年度にCNSコース設置に向け、修士課程小委員会を設置準備の検討することを決定</li> <li>・米国・MDアンダーソンがんセンターにおいて海外先進事例調査</li> </ul>
平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CNSコースカリキュラム原案作成(日本看護系協議会総会・CNS説明会出席)</li> <li>・先行大学の事例調査</li> <li>・CNSコースに設置に関する看護学科教員全体説明会(検討経過、CNS教育課程と本学科の試案)</li> <li>・CNSコース設置の具体的検討・準備のため、修士課程小委員会のもとにCNS検討ワーキンググループを設置</li> <li>・平成20年度CNSコース設置、平成21年7月認定申請することを決定</li> <li>・履修規程、履修方法、カリキュラム、科目内容の検討</li> <li>・学内関連部署への報告、協力依頼</li> <li>・CNSコース修了者による講演会の実施</li> <li>・文部科学省がんプロフェッショナルGPへの北陸地域5大学連携申請の動き、CNSコースについては、石川県立看護大学、金沢大学、本学で対応</li> </ul>
平成19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省がんプロフェッショナル申請(CNSコースのシラバスについては本学も対応)</li> <li>・CNSコース担当教員の確保に関する検討、専攻専門科目の構造の検討・策定、専攻領域共通科目の検討・策定</li> <li>・平成20年度大学院入試要項の内容の検討・策定、科目担当教員・非常勤講師案の検討・策定、シラバス案の検討・策定</li> <li>・実習施設・計画の情報収集及び検討・策定</li> <li>・日本看護系大学協議会CNS認定委員との事前相談</li> <li>・平成20年度入学者選抜、CNS科目履修希望学生の審査</li> </ul>

(事務局資料)

資料 1-2-9 修士課程の授業開設表（平成 20 年度～）

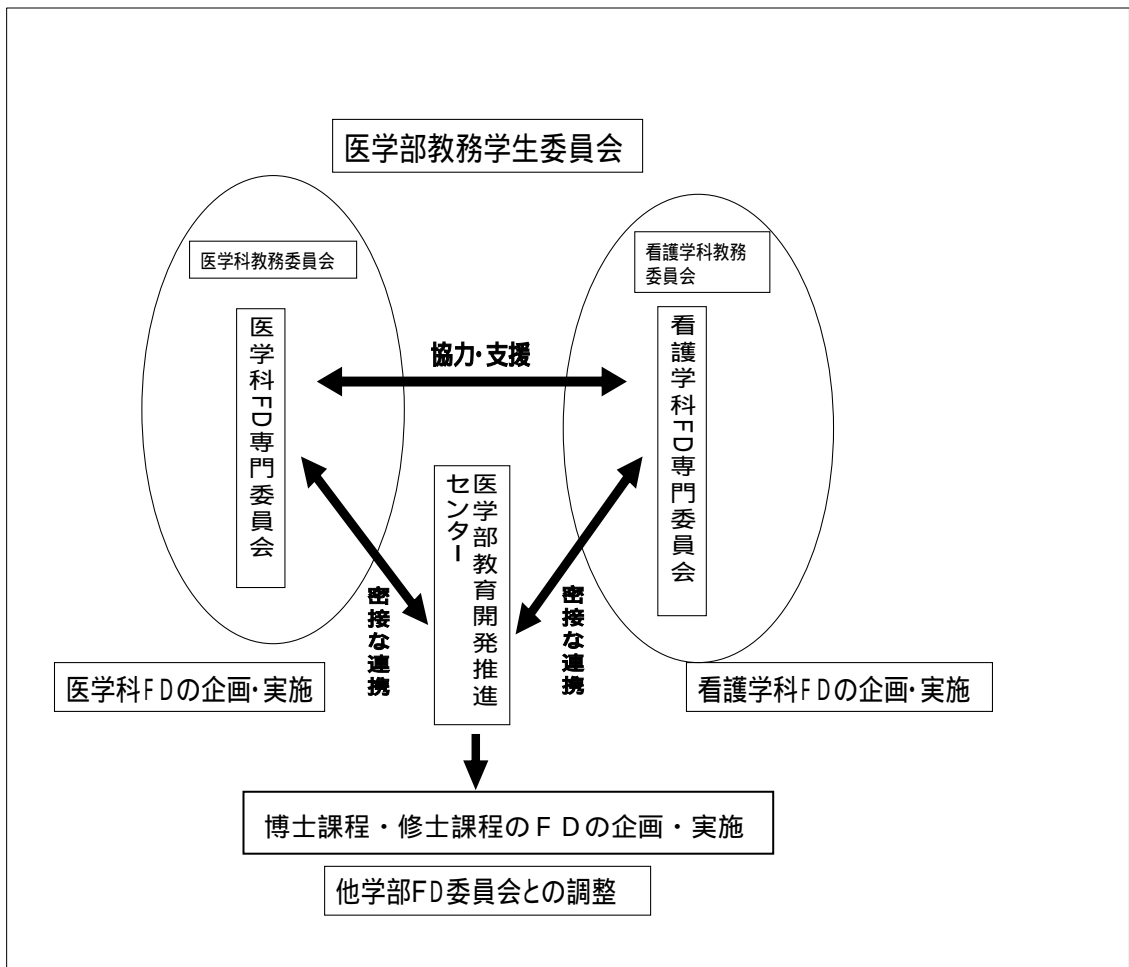
分野	教 育 領 域	授 業 科 目	配 当 年 次	開 設 単 位	履修時間数			履 修 方 法
					講 義	演 習	実 習	
共通科目		看護研究	1・2	2	30			指導教員の指導により下記のとおり履修しなければならない。  基礎看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 基礎看護学領域の3科目18単位 地域看護学特論2単位 共通科目又は他分野の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修  地域看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 地域看護学領域の3科目18単位 基礎看護学特論2単位 共通科目又は他分野の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修
		看護倫理	1	2	30			
		看護理論	1	1	15			
		看護教育論	1	2	30			
		看護管理政策論	1	2	30			
		コンサルテーション論	1	2	30			
		がん病態論	1	1	15			
		がん病態論	1	1	15			
		がん病態論	1	1	15			
基礎・地域看護学	基礎看護学	基礎看護学特論	1	2	30			成人看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 地域看護学領域の3科目18単位 基礎看護学特論2単位 共通科目又は他分野の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修
		基礎看護学演習	1	4		120		
		基礎看護学特別研究	2	12		360		
成人・老人看護学	地域看護学	地域看護学特論	1	2	30			成人看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 成人看護学領域の3科目18単位 老人看護学特論2単位 共通科目又は他分野の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修
		地域看護学演習	1	4		120		
		地域看護学特別研究	2	12		360		
成人・老人看護学	成人看護学	成人看護学特論	1	2	30			老人看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 老人看護学領域の3科目18単位 成人看護学特論2単位 共通科目又は他分野の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修
		成人看護学演習	1	4		120		
		成人看護学特別研究	2	12		360		
	老人看護学	老人看護学特論	1	2	30			
		老人看護学演習	1	4		120		
		老人看護学特別研究	2	12		360		
母子看護学	母子看護学	母子看護学特論	1	2	30			母子看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 母子看護学領域の3科目18単位 他分野の特論科目から2単位 共通科目又は他分野の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修
		母子看護学演習	1	4		120		
		母子看護学特別研究	2	12		360		
CNS（がん看護学）科目		がん看護学援助論 *	1	2	30			CNS(がん看護学)を専門とする学生 共通科目から、 看護研究2単位および がん病態論 ~ の4科目4単位 を含み12単位以上 成人看護学特論2単位 CNS(がん看護学)科目8科目16単位 計30単位以上を履修
		がん看護学援助論 *	1	1	15			
		化学療法看護演習 *	1	2		60		
		化学療法看護演習 *	1	2		60		
		がん看護援助実習 *	1	2			90	
		がん看護援助実習 *	2	2			90	
		がん看護援助実習 *	2	2			90	
がん看護学課題研究 *	2	3			90			

(注)教育上必要があるときは、大学院修士課程委員会の議を経て、授業科目又は単位数を変更することがある。

(事務局資料)

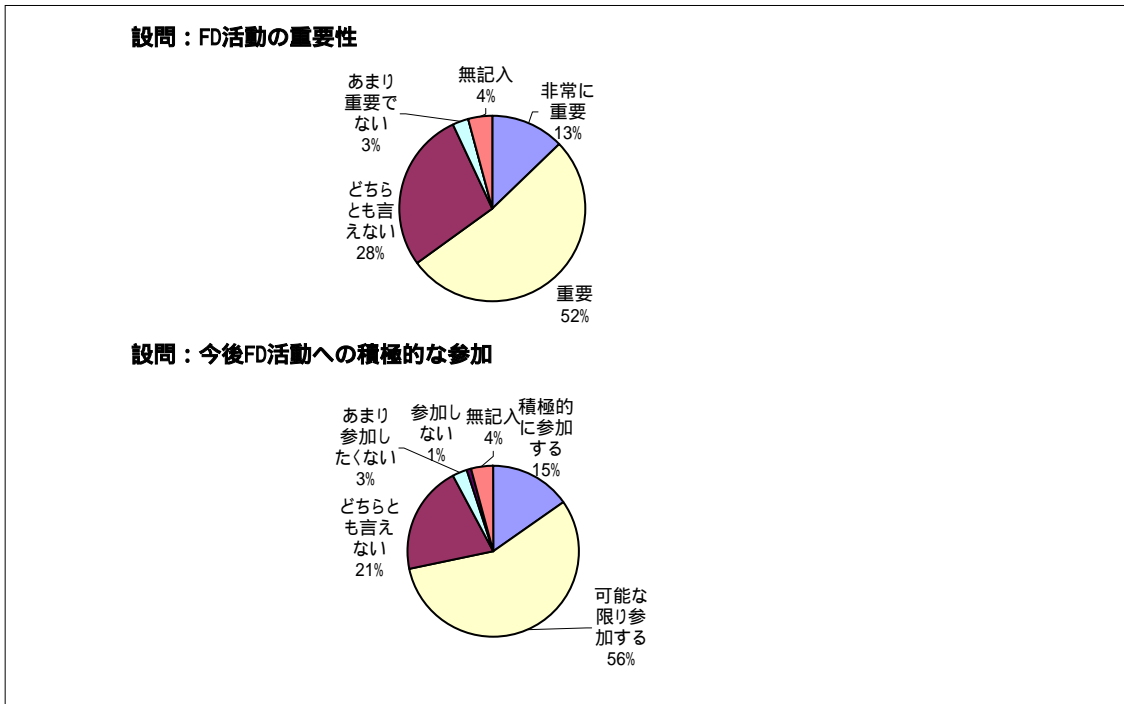
ファカルティ・ディベロップメントの体制は、医学部に構築されているが、医学系研究科の担当は学部教員の兼務であり、この体制は大学院教育についても包括して実施するものである【資料 1-2-10:P16】。さらに、本学教員はFD活動に対し高い意欲を有している【資料 1-2-11:P16】。

資料 1-2-10 F D 体制図



(事務局資料)

資料 1-2-11 教員のFD活動に対するアンケート結果



(資料「平成 19 年度 授業改善に係る教員アンケート集計結果・抜粋」から)



大学院教育に対する貢献を評価するため、平成 19 年度に教員個人評価を実施した。今後 3 年毎に実施予定であり、大学院教育に対する定期的な評価体制が整備された【資料 1-2-12】。

資料 1-2-12 教員個人評価における大学院教育に関する評価項目

## 1 教育活動領域

### 【評価項目】

(中略)

## 2 大学院教育の実績(科目毎に記入)

授業科目(等)名(A:博士課程・B:修士課程の別,一般・社会人の別,必修・選択の別)

履修者数

単位取得者数(優 名,良 名,可 名,不可 名)

授業形式(A:講義 B:セミナー C:実験・演習・実習 F:その他)

主な役割(A:全てを担当 B:分担 C:コーディネーター E:その他)

担当時間数

使用言語(A:日本語 B:英語 C:その他)

学生による授業評価アンケート結果

教育目標の達成状況(A:十分達成された B:大体達成された

C:ある程度達成されたが不十分な点もある D:あまり達成されていない)

においてそう判断する理由を簡潔に記載

特記事項(授業に対する取組や改善事項について,特記する事項があれば記載)

## 3 大学院学生の指導実績(学生毎に記入)

指導学生の氏名、学籍番号

学生種別(A:修士(主) B:修士(副) C:博士(主) D:博士(副)

E:その他(特別研究学生など)

指導法(A:実験の立案 B:実験技術の直接指導 C:実験技術の間接指導 D:論文作成の指導

E:その他)

指導学位論文

その他の指導論文

就職(ポスドク含む)、進学(博士課程)先

教育目標の達成状況(A:十分達成された B:大体達成された

C:ある程度達成されたが不十分な点もある D:あまり達成されていない)

においてそう判断する理由を簡潔に記載

特記事項(指導に対する取組や改善事項について,特記する事項があれば記載)

(中略)

### 【評価基準】

・ 上記の評価項目をデータ入力し,以下の5段階により自己評価する。

5:特に優れている

4:水準を上回っている

3:水準に達している

2:やや問題があり改善の余地がある

1:問題があり改善を要する

(事務局資料)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

教育目標達成のために、教育の質の維持向上及び研究能力の育成に向けての研究指導体制を担保する教員組織の適切な構成がなされている<sup>1)</sup>。

<sup>1)</sup> 資料 1-1-2: 医学系研究科の運営体制:P4~5

資料 1-1-3: 医学系研究科における教員の配置状況:P5

資料 1-1-4: 非常勤講師一覧:P6

ワーキンググループでの検討、定期的なアンケートの実施等により教育内容、教育方法の改善に取り組んでいる。これは、全ての関係者の期待「将来指導的役割を担うことが可能な教育・研究者及び医療人の養成」に応えるための基盤を形成するものである。とりわけ、平成 20 年度から博士課程の改組、及び CNS コース設置を検討・実施したことは特記できる<sup>2)</sup>。

<sup>2)</sup> 資料 1-2-1: 大学院改革 WG の主な検討内容:P8

資料 1-2-2: 博士課程の組織改革:P8

資料 1-2-3: 改組後の博士課程授業開設表:P9~11

資料 1-2-5: 修士課程・大学院教育に関するアンケート様式(在学生):P12~13

資料 1-2-6: 修士課程・大学院教育に関するアンケート様式(修了生):P13

資料 1-2-7: 修士課程における教育内容・方法の改善の具体的取組例:P14

資料 1-2-8: CNS コース設置に関する検討経過:P14

資料 1-2-9: 修士課程の授業開設表(平成 20 年度~):P15

ファカルティ・ディベロップメントの体制、教員の教育活動に関して定期的に個人評価を実施する体制が整っており適切である。<sup>3)</sup>。

<sup>3)</sup> 資料 1-2-10: FD 体制図:P16

資料 1-2-11: 教員の FD 活動に対するアンケート結果:P16

資料 1-2-12: 教員個人評価における大学院教育に関する評価項目:P17

以上のように、全ての関係者の期待に応えるための基盤となる適切な教育体制が極めて効果的、実質的に整備されており、期待される水準を上回ると判断した。

分析項目 教育内容

(1) 観点ごとの分析

観点 2-1 教育課程の編成

( 観点に係る状況 )

博士課程では、形態系専攻、生理系専攻、生化系専攻及び生態系専攻の4専攻ごとに「共通科目」及び「部門科目」により編成されている。医学教育・研究の学際化に伴い、従来の枠組みにとらわれず、広く最新の情報を学ぶ目的で医学研究総論を必修科目として設置しており、学生からも良好な評価を得ている【資料 2-1-1:P19~20, 資料 2-1-2:P21, 資料 2-1-3:P21, 別添資料 1-2-4:P75~76, その他医学研究総論については、分析項目 P32 参照】。正規カリキュラムのほかに大学院セミナーを年間 20 回以上開催し、最新かつ最高水準の研究に触れる機会を提供している【大学院セミナーについては、分析項目 P45 参照】。

資料 2-1-1(1) 博士課程の授業開設表 ( 1 )

区分	授業科目	開設単位					履修年次		
		必修	選択必修	選択					
		講義	講義	講義	演習	実習			
共通	医学研究総論	4					1~3		
	医学研究総論	4					1~3		
	計	8							
形態系専攻	共通	形態学研究法特論		4				1	
		組織化学特論		4				1	
		細胞増殖動態特論		4				1	
		画像解析特論		4				1	
	発生・分化部門	組織発生概論			2	1	2	1~2	
		染色体異常			2	2	2	1~2	
		性の分化機構			2	1	2	1~2	
		細胞分化の調節			2	2	2	1~2	
		神経細胞の構造と分化			2	2	2	1~2	
		胎児・周産期学			2	2	2	1~2	
	生殖・発育部門	絨毛性疾患			2	1	1	1~2	
		加齢・老化概論			2	2	2	1~2	
		年齢依存性脳疾患			2	2	2	1~2	
		腫瘍病理形態学			2	2	2	1~2	
		腫瘍診断学			2	2	2	1~2	
		皮膚腫瘍学			2	2	2	1~2	
	腫瘍部門	消化器腫瘍学			2	2	2	1~2	
		頭・頸部腫瘍学			2	2	2	1~2	
		脳・脊髄腫瘍学			2	1	2	1~2	
		造血臓器腫瘍学			2	1	2	1~2	
		核医学概論			2	1	2	1~2	
		心・肺・循環系画像診断学			2	2	2	1~2	
	画像診断部門	口腔画像診断学			2	2	2	1~2	
		画像診断治療学			2	1	2	1~2	
		計			16	40	33	39	
		生理系専攻	共通	分子生理学特論		4			
	神経内分泌学特論				4				1
呼吸・循環機能特論				4				1	
臨床薬理学特論				4				1	
臨床病態生理学特論				4				1	
神経科学部門	神経生理				2	2	2	1~2	
	神経伝達物質				2	1	2	1~2	
	形態学的神経科学				2	1	2	1~2	
	臨床脳波学				2	1	2	1~2	
	脳内ペプチドとその機能				2	2	2	1~2	
	視覚病態学				2	2	2	1~2	
	聴覚の病態				2	1	2	1~2	
呼吸・循環部門	呼吸管理学				2	2	2	1~2	
	微小循環動態				2	2	2	1~2	
	胸部外科学概論				2	1	2	1~2	
	血圧の調節と病態				2	1	2	1~2	
	集中治療医学				2	2	2	1~2	
	術後管理学				2	1	1	1~2	
病態生理部門	腎炎と腎不全				2	1	2	1~2	
	尿路疾患の病態生理				2	2	2	1~2	
	気道障害の病態生理			2	2	2	1~2		
	腫瘍の病態生理			2	2	2	1~2		
	脳・網膜血管の病態生理			2	2	2	1~2		
計			20	36	28	35			

( 事務局資料 )

資料 2-1-1(2) 博士課程の授業開設表(2)

区分	授業科目	開設単位					履修年次	
		必修	選択必修	選択				
		講義	講義	講義	演習	実習		
生化学系専攻	分子生理学特論		4				1	
	代謝調節機構特論		4				1	
	遺伝生化学特論		4				1	
	組織培養特論		4				1	
	細胞生化学部門	核酸の生化学			2	1	2	1~2
		細胞の情報認識と応答			2	2	2	1~2
		細胞膜の構造と機能			2	2	2	1~2
		細胞機能とリボ蛋白			2	2	2	1~2
		酵素化学概論			2	1	2	1~2
		神経生化学			2	1	2	1~2
	代謝・内分泌部門	内分泌と生体制御			2	2	2	1~2
		生殖内分泌学			2	2	2	1~2
		生殖科学概論			2	2	2	1~2
		分子医学概論			2	1	2	1~2
		糖尿病学			2	2	2	1~2
	遺伝部門	分子遺伝学			2	2	2	1~2
		遺伝子・細胞工学			2	1	2	1~2
		遺伝医学			2	1	2	1~2
		先天性代謝異常			2	2	2	1~2
	腫瘍動態部門	抗腫瘍剤の作用機序			2	2	2	1~2
		腫瘍の制癌剤感受性			2	2	2	1~2
		放射線腫瘍学			2	2	2	1~2
		がん温熱療法			2	1	2	1~2
		計		16	38	31	38	
	生態系専攻	生体防御機構特論		4				1
		免疫細胞学特論		4				1
免疫不全症特論			4				1	
衛生統計学特論			4				1	
生体力学特論			4				1	
動物実験科学特論			4				1	
感染・免疫部門		ウイルス・細菌感染症			2	2	2	1~2
		感染予防医学			2	1	2	1~2
		病原真菌感染症			2	1	2	1~2
		臨床免疫学			2	2	2	1~2
		腫瘍免疫学			2	1	2	1~2
環境・生態部門		環境汚染物質			2	1	2	1~2
		保健医療情報学			2	2	2	1~2
		産業医学概論			2	2	2	1~2
		微量栄養系			2	2	2	1~2
		法医学・法科学概論			2	1	2	1~2
		臨床アレルギー学			2	1	2	1~2
		運動器病態学			2	1	2	1~2
		リハビリテーション医学			2	2	2	1~2
災害外科学				2	1	2	1~2	
	計		24	28	20	28		
	合計	8	76	142	112	140		

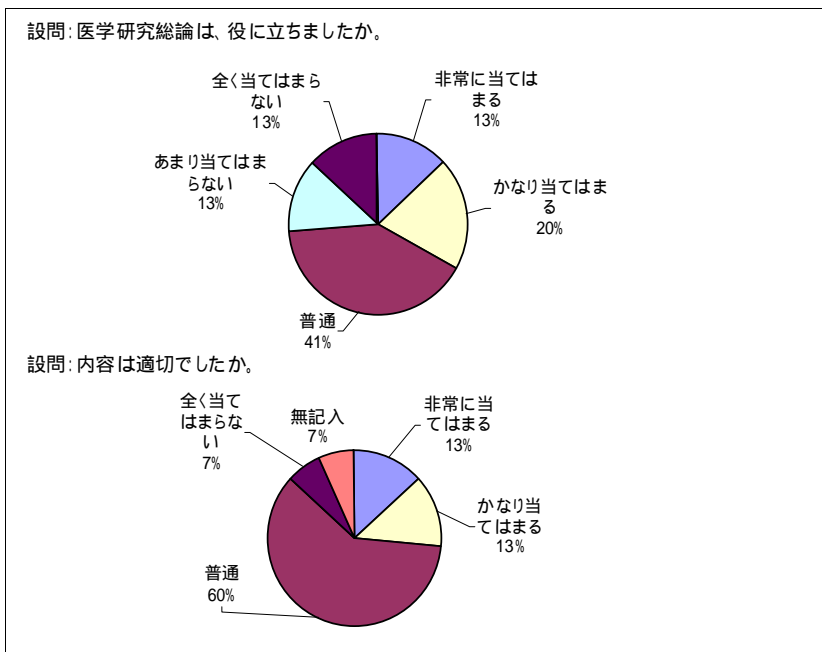
(事務局資料)

資料 2-1-2 博士課程・平成 19 年度「医学研究総論」授業日程

		院生棟1階セミナー室(6限目:18:00~19:30)		
月	日	曜日	講義等内容	担当領域等名
4	9	月	実験基礎 (実験概説)	分子生体情報学領域
4	16	月	実験基礎 (動物の倫理・患者標本の扱い)	法医学・人類遺伝学領域
4	19	木	ガイダンス (人数により2回に分ける)	総合実験研究支援センター
5	7	月	実験基礎 (医学統計)パラメトリックとノン・パラ検定法	環境保健学領域
5	14	月	1-Receptors in the Heart	特別講義(大学院セミナー)
5	21	月	薬物受容体の最近の話題	薬理学領域
5	28	月	アルドステロンの心血管作用と鉱質コルチコイド受容体	内科学(3)領域
6	11	月	実験基礎 (コンピューター・データベース)	総合実験研究支援センター
6	18	月	細胞の分化と増殖の制御機構	分子遺伝学領域
6	25	月	脊髄・馬尾血管閉門の超微構造と機能	整形外科学領域
7	2	月	実験基礎 (論文作成法1)	分子遺伝学領域
7	9	月	交感神経節内の局所神経回路の観察とその解析	人体解剖学・神経科学領域
7	23	月	糖尿病実験動物モデル	眼科学領域
7	30	月	PETの基礎と定量的生体機能測定への応用	高エネルギー医学研究センター生体イメージング部門
9	3	月	神経内分泌学研究の手法	統合生理学領域
10	5	金	染色体工学・発生工学的手法を用いた新しい筋ジストロフィーモデルマウスの作製と解析	特別講義(18:15~ 研究棟3階会議室)
10	15	月	イノシトールリン脂質結合ドメインを介するシグナリングネットワーク 膜の形、細胞の形の決定への関与	特別講義(17:30~ 研究棟3階会議室)
10	22	月	実験基礎 (論文作成法2)	高エネルギー医学研究センター分子イメージング
10	29	月	実験基礎 (発表方法・グラント執筆法)	組織細胞形態学・神経科学領域(研究棟3階会議室)
11	5	月	アダプター蛋白質の構造と機能	微生物学領域
11	12	月	卵巣機能調節のメカニズム	産科婦人科学領域
11	19	月	神経細胞の極性形成機構	特別講義(18:00~ 研究棟3階会議室)
11	26	月	バイオ関連データベース利用法	バイオ実験機器部門
12	3	月	イオンチャンネル研究法	分子生理学領域
12	10	月	大脳皮質形成・発達分子機構	組織細胞形態学・神経科学領域
12	17	月	内耳有毛細胞の電気生理	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域
1	7	月	ヒト症例に酷似した先天性水腎症モデルマウスとその解析	泌尿器科学領域
1	21	月	細胞周期と抗腫瘍剤	内科学(1)領域
2	4	月	大学院生研究発表会 (発表者:3年次生:5名)	大学院セミナー企画部会(中2講義室)
2	18	月	大学院生研究発表会 (発表者:3年次生:5名)	大学院セミナー企画部会(中2講義室)
2	25	月	NOと腎臓・血管生理	小児科学領域
3	3	月	大学院生研究発表会 (発表者:3年次生:5名)	大学院セミナー企画部会(中2講義室)
3	10	月	血小板由来内皮細胞成長因子を用いた重症虚血肢に対する遺伝子治療	外科学(2)領域
3	17	月	ベクター研究法	免疫学・寄生虫学領域

(事務局資料)

資料 2-1-3 博士課程・医学研究総論に対する修了生アンケート結果



(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

修士課程は、教育目的を達成するために共通科目、専門科目を編成し、共通科目は専門的看護実践における課題探求能力、研究者・教育者としての基盤理論を教授する科目を配置している。専門科目は専攻領域の特論・演習・特別研究で構成されている。特別研究の研究過程の有効な遂行のため、領域ごとに看護学の基盤理論、最先端の専門的知見、事例検討、プレゼンテーション、文献クリティークなどを段階的に教授する科目を配置している。【資料 2-1-4,別添資料 2-1-5:P77～78】。修士課程の教育課程に関する学生のアンケート結果では、カリキュラム編成・共通科目と専門科目の配置、シラバス内容等について高い評価であり、関係者の期待に応えている【資料 2-1-6 P23,資料 2-1-7:P24】。

資料 2-1-4 修士課程看護学専攻授業科目一覧表

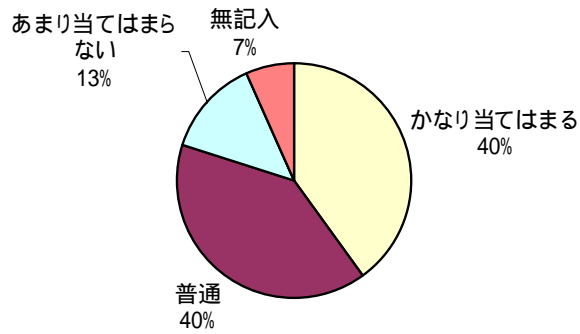
(平成19年度)						
領域	授業科目	開設単位			履修年次	備考
		必修 演習	選択必修			
			講義	演習		
共通科目	健康環境論		2		1・2	
	疾病科学論		2		1・2	
	疾病科学論		2		1・2	
	生命倫理		1		1・2	
	看護倫理		1		1・2	
	看護研究	2			1・2	
	看護理論		1		1・2	
	看護教育		1		1・2	
	看護管理		1		1・2	
基礎・地域看護学	基礎看護学特論		2		1	この領域に所属する学生は、「基礎看護学特論,同演習,同特別研究」又は「地域看護学特論,同演習,同特別研究」のいずれかを選択し、基礎看護学特論を履修する場合は、地域看護学特論も履修することとし、地域看護学特論を履修する場合は、基礎看護学特論も履修することとする。
	基礎看護学演習			4	1	
	基礎看護学特別研究			12	2	
	地域看護学特論		2		1	
	地域看護学演習			4	1	
	地域看護学特別研究			12	2	
成人・老人看護学	成人看護学特論		2		1	この領域に所属する学生は、「成人看護学特論,同演習,同特別研究」又は「老人看護学特論,同演習,同特別研究」のいずれかを選択し、成人看護学特論を履修する場合は、老人看護学特論も履修することとし、老人看護学特論を履修する場合は、成人看護学特論も履修することとする。
	成人看護学演習			4	1	
	成人看護学特別研究			12	2	
	老人看護学特論		2		1	
	老人看護学演習			4	1	
	老人看護学特別研究			12	2	
母子看護学	母子看護学特論		2		1	この領域に所属する学生は、「基礎看護学特論」、「地域看護学特論」、「成人看護学特論」、「老人看護学特論」の中から1科目を選択し、履修することとする。
	母子看護学演習			4	1	
	母子看護学特別研究			12	2	
合計		2	21	80		

(注) 教育上必要があるときは、関係委員会の議を経て、授業科目又は単位数を変更することがあります。各授業科目の概要等については、「授業科目紹介」を参照してください。

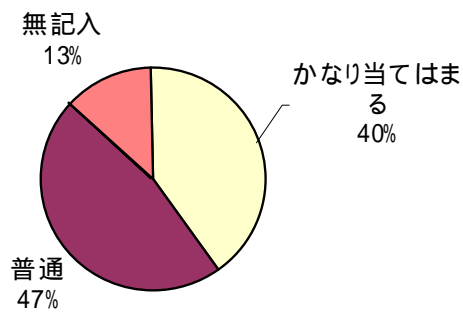
(事務局資料)

資料 2-1-6 修士課程・カリキュラムに対する在学生アンケート結果

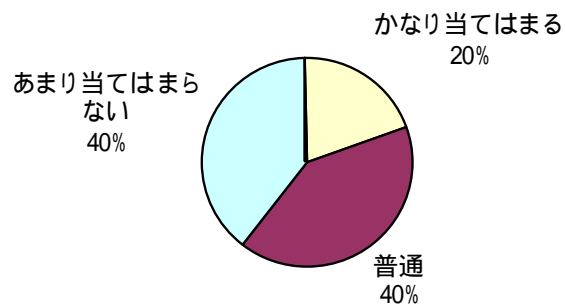
設問:カリキュラムは学習しやすく編成されている



設問: 共通科目と専門科目の配置は満足している

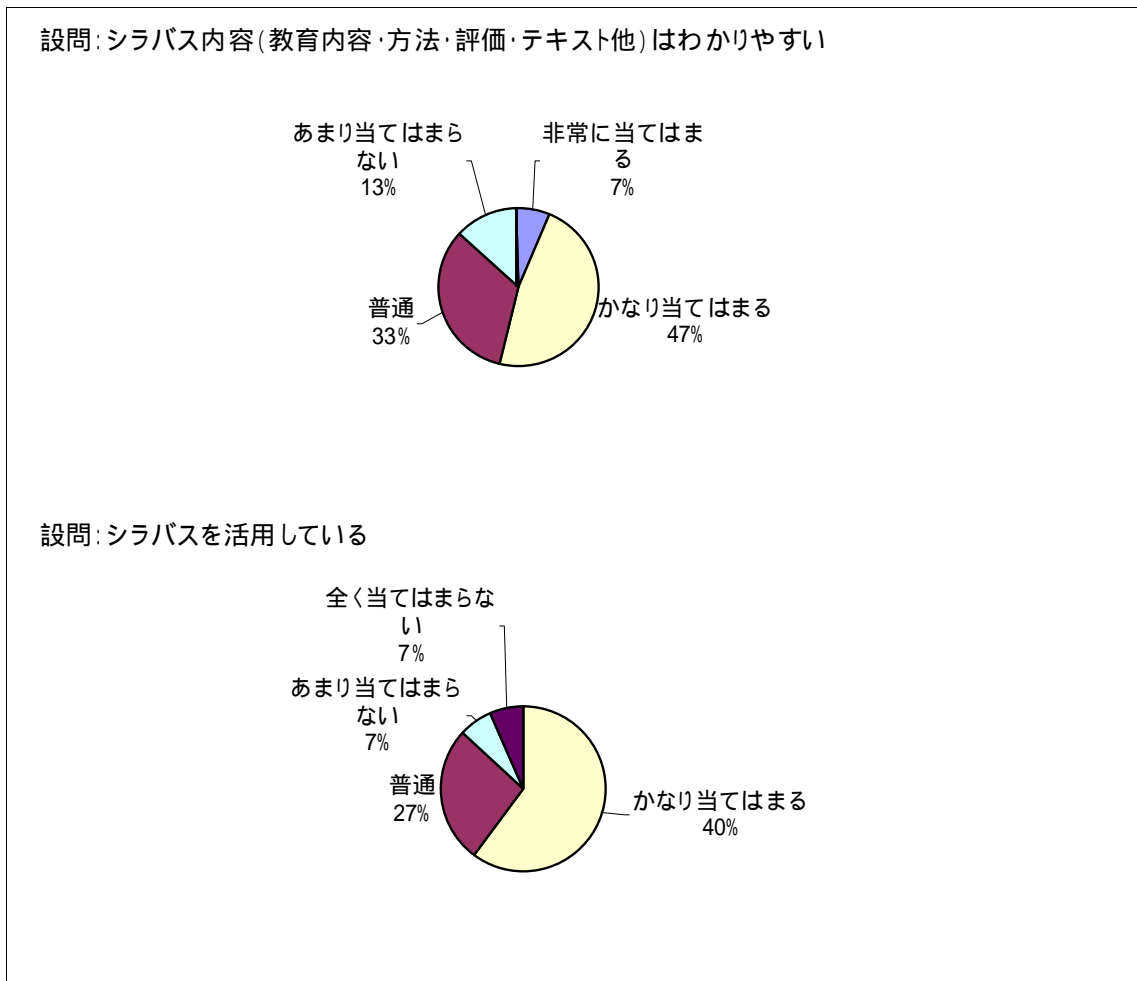


設問: 2年間の学習過程 (講義予定・研究に関する全体日程など) は問題がない



(資料「在学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 2-1-7 修士課程・シラバスに対する在学学生アンケート結果



(資料「在学学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

両課程とも、文部科学省のがんプロフェッショナル養成プランに採択された「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」の実施機関の1つであり、この養成プログラムに対応したカリキュラムともなっている【資料 2-1-8:P25,資料 1-2-3(3):P11,資料 1-2-9:P15】。

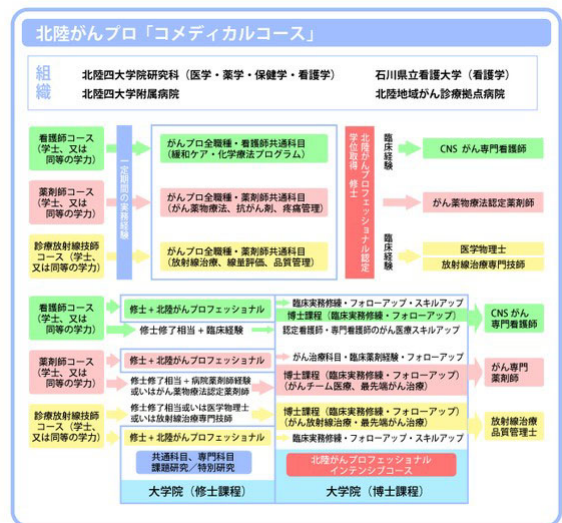
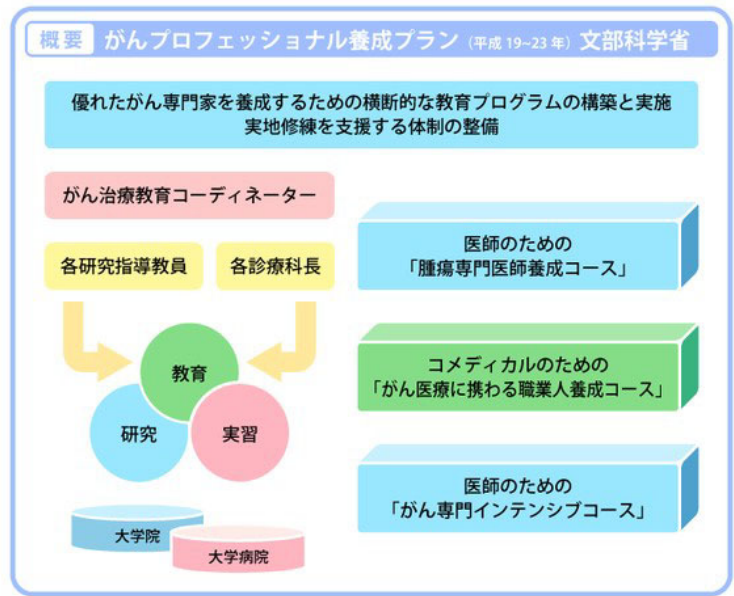


資料 2-1-8 北陸がんプロの概要とコンセプト

平成19年4月から施行された「がん対策基本法」の第14条には「国及び地方公共団体は、手術・放射線療法その他のがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の養成を図るために必要な施策を講ずるものとする」と記載されている。この趣旨に基づき、文部科学省が「がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがんに関わるコメディカル等、がんに特化した医療人の養成を行うための大学(大学病院、大学院)の優れた取組を支援する」目的で平成19年度から創設した計画が「がんプロフェッショナル養成プラン」です。

本プログラムには3つのコースが設定されています。つ目は「北陸がんプロフェッショナル専門医養成コース」であり、高い臨床能力と研究能力を併せ持った臨床医を養成するために、大学院博士課程4年間の間に、がん臨床とがん研究との教育指導の両者をバランスよく按分することによって、効率的な環境下(充実した教育指導と高度な機器)で学位の取得とともに各科専門医資格、腫瘍専門医認定が得られることを目指す一石三鳥のプログラムです。

つ目はがん専門コメディカルの養成を目的とした「北陸がんプロフェッショナルがん専門薬剤師養成コース」、「北陸がんプロフェッショナルがん専門看護師養成コース」、「北陸がんプロフェッショナルがん専門診療放射線技師養成コース」で、がん医療に特化した実践的教育を、医師も含め職種を越えて高度な融合型教育を行い、学位の取得とともに、がんチーム医療に積極的に貢献できる職業人の養成を目指すプログラムです。つ目は「北陸がんプロフェッショナル インテンシブ医師コース」、「北陸がんプロフェッショナル インテンシブコメディカルコース」です。対象は、すでに学位や学会の専門医、認定医を取得した医師や一定の実務経験を有するコメディカルで、科目等履修生等により一定期間の講義や臨床実習を受けることにより、がんの診断・治療・研究に必要な高度な知識・技術の修得を目指すコースです。



(選定理由) 北陸3県(福井・石川・富山)の医学系4大学が、大学間、コース間において共通コア・カリキュラムを設定しテレビ会議システム導入による融合教育を目指した意欲的な取組である。本プログラムは、  
 ・プログラムに特化した運営協議会の設置、実績あるLMS(learning management system)による成績評価の導入、プログラム終了後も継続するための教育システムとして NPO 法人による資金調達を視野に入れるなど、計画に具体性があること、  
 ・北陸3県のがん診療連携拠点病院との連携、3県の地方自治体との連携等により地域におけるがん診療体制の充実への貢献が期待できること、などの内容となっており、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師等ががんに関与した医療人材の養成を図るといふ本プランの趣旨・目的に合致するものとして評価できる。

(資料「北陸がんプロHP及び文部科学省HP」から)

平成 20 年度からの ,博士課程の改組後の教育課程及び修士課程の C N S コース  
設置後の教育課程については ,分析項目 【資料 1-2-3:P9 ~ 11,資料 1-2-9:P15】参照。

観点 2-2 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

博士・修士課程ともに授業の夜間開講 ,社会人入学適用 ,長期履修制度導入等 ,  
多様な学生が学ぶにあたり必要な措置を講じており ,適切である【資料 2-2-1,資  
料 2-2-2:P27,資料 2-2-3:P27,資料 2-2-4:P27,資料 2-2-5:P28】。さらに ,博士課程では ,  
秋季入学の適用及び早期修了の制度も設けている【資料 2-2-6:P28,資料 2-2-7:P28】  
また ,基礎医学系分野の研究者を目指す学生のため奨学金制度を設けている【資  
料 2-2-8:P29】。

資料 2-2-1 長期履修学生規程

福井大学大学院長期履修学生規程

平成16年4月1日  
福大規程第62号

(趣旨)

第1条 この規程は,福井大学大学院学則(平成16年福大規程第2号。以下「大学院学則」という。)第35条の規  
定に基づき,長期履修学生について,必要な事項を定める。

(長期履修期間)

第2条 本学大学院が,長期履修学生に対し,その計画的な履修を認める期間(以下「長期履修期間」という。)  
は,教育学研究科修士課程・教職大学院の課程,医学系研究科修士課程及び工学研究科博士前期課程におい  
ては4年以下,医学系研究科博士課程及び工学研究科博士後期課程においては6年以下とする。

(申請)

第3条 長期履修学生として,教育課程を履修することを希望する者は,次の各号に掲げる書類を,所定の期間内  
に,学長に提出しなければならない。

(1) 長期履修願

(2) 勤務先の所属長の承諾書

2 前項の申請ができる者は,本学大学院に入学する者及び本学大学院の学生で入学後1年未満の者とする。

(長期履修期間の変更)

第4条 長期履修学生が,長期履修期間の変更を希望する場合は,次の各号に掲げる書類を,所定の期間内に,  
学長に提出しなければならない。

(1) 長期履修期間変更願

(2) 勤務先の所属長の承諾書

(審査)

第5条 前2条の申請については,別に定めるところにより審査を行い,当該大学院研究科委員会(工学研究科に  
おいては,工学研究科教授会とする。以下同じ。)の議を経て,学長が許可する。

(最長の在学期間)

第6条 長期履修学生が,長期履修期間を超える場合,在学できる最長の在学期間は,教育学研究科修士課程・  
教職大学院の課程,医学系研究科修士課程及び工学研究科博士前期課程においては5年,医学系研究科博士  
課程においては9年,工学研究科博士後期課程においては7年とする。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか,長期履修学生に関し必要な事項は,各研究科委員会において別に定め  
る。

附 則

1 この規程は,平成16年4月1日から施行する。

2 この規程の施行日前に本学大学院の長期履修学生として許可された者は,この規程の規定に基づき許可され  
たものとみなす。

附 則(平成18年3月30日福大規程第46号)

この規程は,平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年9月21日福大規程第49号)

1 この規程は,平成19年9月21日から施行する。

2 この規程による改正後の福井大学大学院長期履修学生規程の規定は,医学系研究科博士課程にあっては,  
平成20年度入学者から適用する。

附 則(平成20年3月25日福大規程第16号)

この規程は,平成20年4月1日から施行する。

(事務局資料)

資料 2-2-2 長期履修学生に関する申合せ

<p>医学系研究科長期履修学生に関する申合せ</p> <p style="text-align: right;">平成19年 6月21日 博士課程委員会承認 平成19年 7月12日 修士課程委員会承認</p> <p>医学系研究科の長期履修学生については、当分の間、次のとおりとする。</p> <p>1 福井大学大学院学則第35条における「職業を有している等」の者とは、次のとおりとする。</p> <p>(1) 正規に雇用されている者又は自ら事業を行っている者 (2) アルバイト、パートタイム等の職業に就いている者で、その負担により修学に重大な影響がある者 (3) 出産、育児又は親族の介護を行う必要がある者 (4) その他やむを得ない事情があると認められる者</p> <p>2 福井大学大学院長期履修学生規程(以下「長期履修学生規程」という。)第3条の「申請」及び第4条の「長期履修期間の変更」にかかる書類の提出期限は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 入学する者は、入学前の3月25日(10月入学者は、9月25日) (2) 在学学生で希望する者は、入学1年目の3月5日(10月入学者は、9月5日) (3) 変更の場合は、修了予定の前年までの3月5日(10月入学者は、9月5日)</p> <p>3 長期履修学生規程第3条の「申請」及び第4条の「長期履修期間の変更」にかかる審査は、当該課程小委員会において審査し、当該課程委員会において承認する。</p> <p>附 則</p> <p>1 この申合せは、平成19年7月12日から施行する。 2 「医学系研究科看護学専攻(修士課程)長期履修学生について(平成18年6月15日修士課程委員会承認)」は廃止する。</p>	
---	--

(事務局資料)

資料 2-2-3 医学系研究科における長期履修制度の適用状況

区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	計	備考
	長期履修者数 (在学者数)	長期履修者数 (在学者数)	長期履修者数 (在学者数)	長期履修者数 (在学者数)	長期履修者数 (在学者数)	
修士課程	18	25	25	1 20	1 88	
博士課程	117	107	107	99	430	
医学研究科 計	135	132	132	1 119	1 518	

\* 修士課程については平成19年度から、博士課程については20年度から適用

(事務局資料)

資料 2-2-4 医学系研究科における社会人入学の状況

区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	計	備考
	社会人入学者数 (全入学者数)	社会人入学者数 (全入学者数)	社会人入学者数 (全入学者数)	社会人入学者数 (全入学者数)	社会人入学者数 (全入学者数)	
修士課程	10	13	10	7	40	
	10	13	10	7	40	
博士課程	13	19	15	18	65	
	13	21	15	18	67	
医学研究科 計	23	32	25	25	105	
	23	34	25	25	107	

(事務局資料)

資料 2-2-5 修士課程授業時間割・1年次生前期（平成19年度）

時限	1	2	3	4	5	6	7
曜日	8:45～10:15	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:00～19:30	19:40～21:10
月		疾病科学論 (石崎)				健康環境論 (出口)	看護研究 (岩田外)
火			成人看護学特論 (岩田, 石崎, 酒井, 松田)			成人看護学特論 (岩田, 石崎, 酒井, 松田)	地域看護学特論 (未定, 長谷川美, 大越)
水	基礎看護学特論 (上野, 長谷川智)	健康環境論 (出口)				老人看護学特論 母子看護学特論 (岩田, 中村) (田邊, 重松, 佐々木)	疾病科学論 (石崎)
木		疾病科学論 (重松外)	老人看護学特論 (岩田, 中村)			基礎看護学特論 (上野, 長谷川智)	疾病科学論 (重松)
金		看護理論 (上野)	母子看護学特論 (田邊, 重松, 佐々木)			看護理論 (上野)	

注 印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

(事務局資料)

資料 2-2-6 博士課程における秋季入学の状況

区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	計	備考
	秋季入学者数 (全入学者数)	秋季入学者数 (全入学者数)	秋季入学者数 (全入学者数)	秋季入学者数 (全入学者数)	秋季入学者数 (全入学者数)	
博士課程	2	5	1	7	15	
	13	21	15	18	67	

(事務局資料)

資料 2-2-7 博士課程における早期修了状況

区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	計	備考
	早期修了者数 入学年度	早期修了者数 入学年度	早期修了者数 入学年度	早期修了者数 入学年度	早期修了者数 入学年度	
博士課程	1	1	*1		3	
	平成14年度	平成15年度	平成15年度			

\*は、9月修了

(事務局資料)

資料 2-2-8 基礎医学振興奨学金取扱要項

大学院医学系研究科基礎医学振興奨学金取扱要項	
	平成20年3月6日 博士課程委員会
(趣旨)	
第1 この要項は、大学院医学系研究科博士課程における基礎医学系分野(基礎医学及び社会医学系分野をいう。以下同じ。)の研究者育成を図ることを目的とし、当該分野に入学した学生に給付する奨学金について必要な事項を定める。	
(対象)	
第2 この奨学金は、日本の医学部医学科を卒業し、かつ、基礎医学系分野に入学し、将来基礎医学系研究者を目指す学生に給付する。ただし、社会人大学院生で常勤職員として本務先を有する者は除く。	
(奨学金の申請)	
第3 前項の資格を有する学生が、奨学金給付を希望する場合は別に定める申請書を医学系研究科長に提出するものとする。	
(給付の決定)	
第4 医学系研究科長は、奨学金給付の申請があった場合には、博士課程委員会の議を経て、給付の有無を決定する。	
(奨学金の額及び給付方法)	
第5 奨学金の額は「国立大学法人福井大学における授業料その他の費用に関する規程(平成16年福大規則第26号)」に規定する、大学院生の入学金及び授業料相当額とする。	
2 奨学金の給付は、学生が入学料または授業料を支払った後、事務が支払い済みであることを確認して当該学生の指定した口座に振り込むものとする。	
3 入学料相当額については入学手続き後、授業料相当額については、年額の二分の一をそれぞれ4月及び10月の授業料納付期間後に支払い済みの確認を行い速やかに振り込むものとする。	
(給付期間)	
第6 授業料相当額は基礎医学系分野に入学後4年間分、入学料相当額は1回限りとする。	
2 留学等のため休学した場合は、休学許可期間の給付を中断する。	
3 入学後の在学期間が4年を超えた場合、または退学した場合は、給付を中止する。	
(奨学金の返還)	
第7 奨学金は、返還を要しない。	
(事務)	
第8 奨学金に関する事務は、学務部松岡キャンパス学務室において処理する。	
(その他)	
第9 この要項に定めるもののほか、実施に関し必要な事項は、医学系研究科長が定める。	
附 則	
1 この要項は、平成20年3月6日から実施する。	
2 この要項により奨学金を給付決定された者が、5名に達した時点で見直しを行う。	

(事務局資料)

博士課程における医学研究総論及び大学院セミナー等の授業に対する学生の評価は高く、教育目的達成に対して一定の効果を上げている【資料 2-2-9】。

資料 2-2-9 博士課程・授業に対する修了生アンケート結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義をしっかりと系統化したことは評価できる。大学院修了の質を高めることにもなるのではないかと思う。</li> <li>・専門外の方の分野の研究手法や研究コンセプト、困難な点が明らかになり、研究遂行の参考になった。</li> <li>・自分の専門以外のことをいろいろ知ることができたのは良い経験となった。他の研究室との交流の契機になった。</li> <li>・論理的な物の考え方や客観的に論文を見る目がやしなわれた。</li> <li>・研究手法が分かってよかったです。論文の書き方なども勉強になりました。</li> <li>・様々な分野の知見を吸収することができて、良かった。</li> <li>・いろいろな内容の研究を勉強できた。</li> <li>・自分の研究の刺激になった。</li> <li>・物事を深く考えることができて良かった。</li> <li>・医学部以外の学部出身で基礎系研究室に所属する者にとって、臨床医学の話に触れる機会は非常に限られているので、それを補完し、幅広い知識を身につけ、自身の研究に生かしていける点が非常に良かったと思う。</li> <li>・臨床では学べない経験ができた。</li> <li>・日々あたり前のような臨床で使用している薬や手技などが、研究の上でどれだけ成り立っているかがわかった。</li> </ul>
--

(事務局資料)

修士課程においては、学生の教育評価アンケートを数年間継続して実施し、率直な意見を収集している。社会のニーズに関しては就業先看護管理者と随時面談し、修了生への能力期待についての情報収集をしている。さらに、学生および看護管理者からの意見も参考に共通科目の再編、専門科目の教育内容・方法等の改善を図っている【資料 1-2-7:P14】。

博士課程では、平成 20 年度に改組を行うこととしている。これは、医科学・生命科学の急激な進歩、国際化に対応するものである【資料 1-2-2:P8,資料 1-2-3:P9～11】。

本学のがん専門職育成のための教育科目開設への取組をもとにした「がんプロフェッショナル養成プログラム」が北陸 3 県連合として採択された。これは本学のがん専門医やがん専門看護師養成の取組が高く評価された証左である。したがって、社会の要請であるがん専門職の育成促進に適切に対応している【資料 1-2-3(3):P11,資料 1-2-9:P15,資料 2-1-8:P25】。

## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

### (水準)

期待される水準を大きく上回る

### (判断理由)

学生の修学ニーズに対応するためにきめ細かな配慮がなされ、実施されていることから適切である。また、教育課程に関する学生の評価も高く、学生等の期待「将来指導的役割を担うことが可能な教育・研究者の養成」に十分応えるものである<sup>1)</sup>。

<sup>1)</sup> 資料 2-2-1: 長期履修学生規程:P26

資料 2-2-2: 長期履修学生に関する申合せ:P27

資料 2-2-3: 医学系研究科における長期履修制度の適用状況:P27

資料 2-2-4: 医学系研究科における社会人入学の状況:P27

資料 2-2-5: 修士課程授業時間割表・1 年次生前期(平成 19 年度):P28

資料 2-2-6: 博士課程における秋季入学者の状況:P28

資料 2-2-7: 博士課程における早期修了者状況:P28

資料 2-1-3: 博士課程・医学研究総論に対する修了生アンケート結果:P21

資料 2-1-6: 修士課程・カリキュラムに対する在学生アンケート結果:P23

資料 2-1-7: 修士課程・シラバスに対する在学生アンケート結果:P24

資料 2-2-9: 博士課程・授業に対する修了生アンケート結果:P29

社会ニーズに速やかに対応し、がん専門医、がん専門看護師の養成の導入準備を順次進め、「がんプロフェッショナル養成プログラム」の実施等社会の要請に的確に対応したことは、特記すべき事項であり、医療機関及び地域社会の期待「将来指導的役割を担うことが可能な医療人の養成」に十分応えるものである<sup>2)</sup>。

<sup>2)</sup> 資料 2-1-8 : 北陸がんプロの概要とコンセプト:P25

資料 1-2-3(3): 改組後の博士課程授業開設表(3)『腫瘍専門科目』:P11

資料 1-2-9 : 修士課程の授業開設表(平成 20 年度～)『CNS(がん看護学)科目』:P15

医科学・生命科学の急激な進歩及び国際化に対応し、博士課程の再編を検

討し，平成 20 年度から実施したことは，特記すべき事項であり，学生等及び教育研究機関の期待「将来指導的役割を担うことが可能な教育・研究者の養成」に十分応えるものである<sup>3)</sup>。

<sup>3)</sup> 資料 1-2-2: 博士課程の組織改革: P8

資料 1-2-3: 改組後の博士課程授業開設表: P9 ~ 11

以上のように，教育目標達成のための適切な教育内容が十分に整備されており，学生や社会からの要請に対応できる体制もよく整備されていることから，全ての関係者の期待に十分応えるものであり，期待される水準を大きく上回ると判断した。

## 分析項目 教育方法

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 3-1 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

##### ( 観点到る状況 )

博士課程では、各専門分野での問題点の抽出、研究テーマの立案、実験プランの作成、実験・調査結果の分析とデータの集積・整理、プレゼンテーション資料の作成、論文の書き方等の指導等を組み合わせた「医学研究総論」を開設している。また、研究成果の発表・討論能力の涵養、他分野教員の助言指導による研究の促進及び発表しない学生を含む学生の相互刺激による研究の進展のため、3年次には研究発表会を定期的で開催している。これらの取組は学生から高い評価を得ている【資料 3-1-1, 資料 3-1-2:P33, 資料 3-1-3:P33, 資料 2-1-3:P21, 別添資料 1-2-4:P75~76, 資料 2-2-9:P29】。さらに、平成 20 年度の改組後のカリキュラムについても、シラバスを作成し、各授業の内容、到達目標、成績評価方法を明確にすることとしている【資料 1-2-3: P9~11, 別添資料 3-1-4:P79~80】。

資料 3-1-1 医学研究総論に係る「大学院発表会(研究経過方向・検討会)」について

#### 医学研究総論に係る「大学院生発表会(研究経過報告・検討会)」について

平成15年 6月 5日

博士課程委員会承認

##### 【目的】

大学院教育の一環として、研究能力の一つとして不可欠である研究成果の発表と討論を遂行する能力の訓練を第一の目的として実施する。さらに研究内容・今後の方針について、広く議論する場を提供する。

併せて、本学の他の教室で行われている研究手法などの情報交換の場とし、学内研究者の交流を図る。

##### 【方法】

学術公開討論会とは別に行う(学術公開討論会は博士課程修了の判定が目的である。)

大学院3年次生が現在取り組んでいる研究内容の概要・結果(場合により今後の展開も含む)を、大学院生(全学年)に対し発表する。

大学院3年次生全員が本年度中に一度は発表する。希望により、他年次生も発表できる。

発表時間10分、質問時間5分程度を目安とする(液晶プロジェクター使用可)。

##### 【発表等】

発表会は公開とする。

一度は発表することを医学研究総論の履修要件とする。

出席者は、その発表方法、研究手法などについて、積極的にコメントする。

##### 【その他】

大学院生(全学年)には出席し、発表に対し積極的に質問・討論することを期待する。

大学院セミナー企画部会が運営にあたり、同部会長(もしくは同部会委員)が司会進行を行う。

教員(とりわけ、博士課程担当教員)も出席し、研究内容について積極的に議論・アドバイスを行う。

発表・討論の様子などは、リサーチアシスタント等の選考の際の参考資料とする。

(事務局資料)



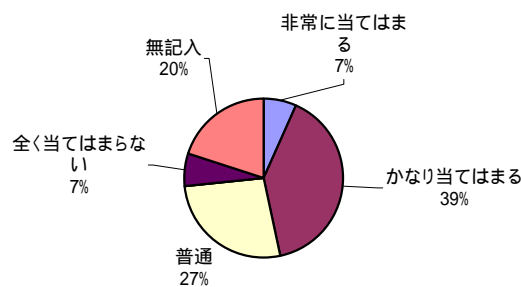
資料 3-1-2 博士課程・3年次生研究発表会実施状況（平成19年度）

月日 (曜日)	発表時間(10分) 質問時間(5分)	専攻	発表テーマ
2月4日 (月)	18:00～18:15	形態系	ラット卵巣におけるP450 oxidoreductase (POR) のホルモンによる発現誘導と aromatase 活性に及ぼす影響
	18:15～18:30	生化系	Cu-ATSM : 腫瘍内の低酸素部位
	18:30～18:45	生理系	大脳皮質形成期におけるDBZ (DISC1 Binding Zinc finger protein) の機能解析
	18:45～19:00	生理系	アルドステロンの血管新生抑制作用についての研究
2月18日 (月)	18:00～18:15	生化系	発達障害の臨床診断と病態生理における統合的研究
	18:15～18:30	生化系	川崎病におけるNO / ADMA系の病態生理学的意義
	18:30～18:45	生理系	高グルコースによるヒト角膜上皮細胞の動態異常に対するアルドース還元酵素阻害剤の抑制効果
	18:45～19:00	生理系	大腸癌におけるNDRG1遺伝子の検討
3月3日 (月)	18:00～18:15	生理系	Chronic Kidney Disease におけるレニン-アンジオテンシン - アルドステロン系遺伝子多型と累積腎生存率
	18:15～18:30	生化系	タンデムダイマー-HERGチャンネルを用いたHERG阻害薬シサブリドの結合トポロジー解明
	18:30～18:45	生化系	In vivo evaluation of adenoviral mediated FES-hERL PET tracer-reporter gene system for monitoring gene therapy
	18:45～19:00	生理系	Utility of N-B ammonia-PET for predicting Short-term Left Ventricular Functional Recovery in Patients with AM - Comparison with FDG-PET -
	19:00～19:15	生理系	高圧空気の反復暴露はPC12細胞の神経細胞様分化を抑制する
	19:15～19:30	生理系	大腸癌におけるCXCR4の検討

(事務局資料)

資料 3-1-3 3年次研究発表会に対する修了生アンケート結果

設問: 3年次研究発表会での発表は、主体的に研究に取り組むことに役に立ちましたか。



3年次研究発表会に対する修了生意見

研究発表会は大変刺激になった。この期日を目標に研究を進めることができるので、ぜひとも継続すべき。参加している教授陣のコメントも核心をついていて適切であった。

他の研究発表が参考になった。

(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

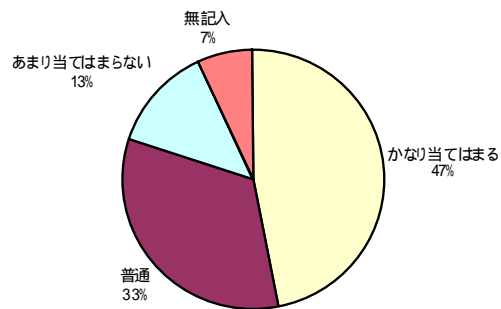
修士課程での授業形態は、講義形式と演習形式を相補的に取り入れている。具体的には、グループ討議やプレゼンテーションを取り入れ、学生の主体的学習に重点を置いている。講義及び演習ともに教育内容・方法に関する学生の評価も良好である【資料 3-1-5:P34～39】。また、修士論文完成のための特別研究では、ゼミ

形式をとり、個別指導を取り入れている。これにより学生の課題探求・解決能力を涵養するとともに、文献検索、統計処理能力、文章の論理構成能力等を伸ばすこととしており、学生からの評価も良好である【資料 3-1-6:P40～41】。シラバスについても、各教育課程の履修を進める上で、必須の指針として、学習目標(G I O, S B O), 授業内容、評価の方法等について記載しており、適切であり、学生からの評価も高い【別添資料 2-1-5:P77～76, 資料 2-1-7:P24】。

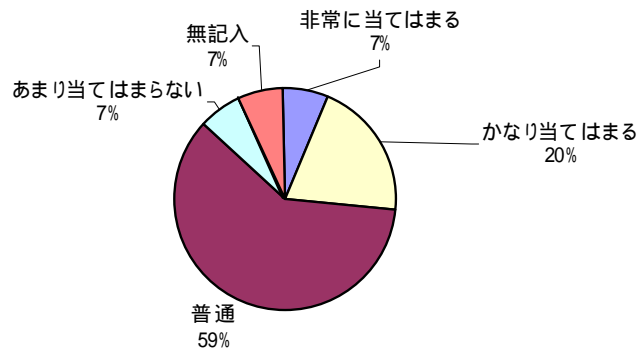
資料 3-1-5(1) 修士課程・教育内容・方法に対する在学生アンケート結果(1)

設問:教育内容は無駄がなく、順序だてて整理されている

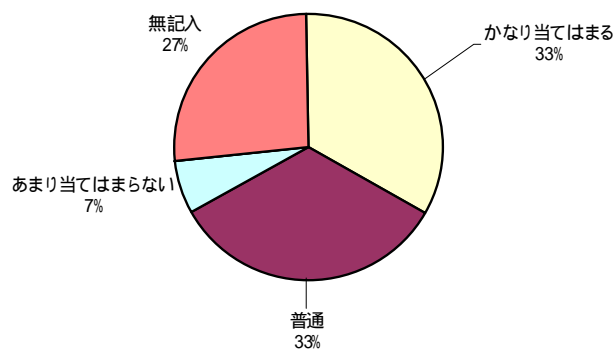
講義(共通科目)



講義(特論)



演習

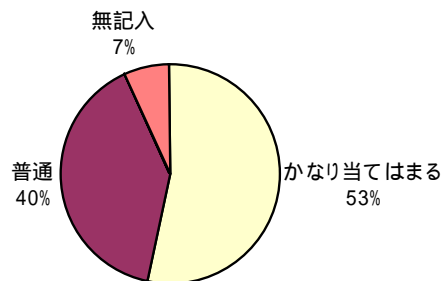


(資料「在学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

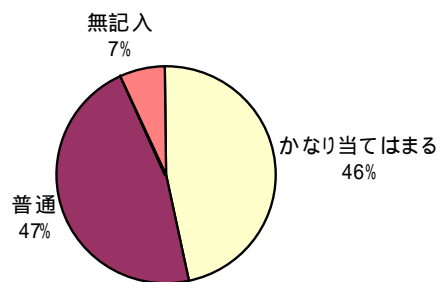
資料 3-1-5(2) 修士課程・教育内容・方法に対する在学生アンケート結果(2)

設問: 学習目標が達成できる内容である。

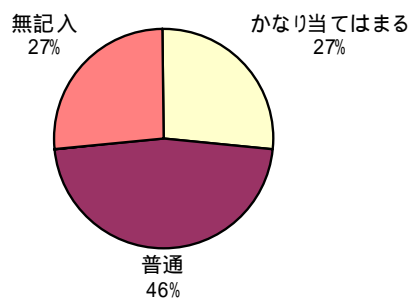
講義(共通科目)



講義(特論)



演習

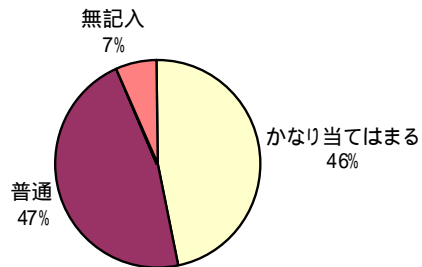


(資料「在学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

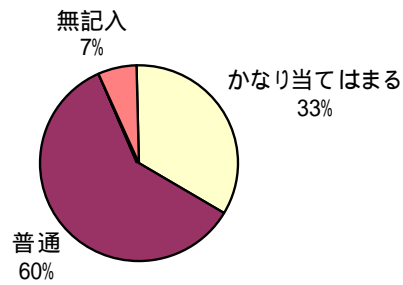
資料 3-1-5(3) 修士課程・教育内容・方法に対する在学生アンケート結果(3)

設問:教育方法は教育内容に適している

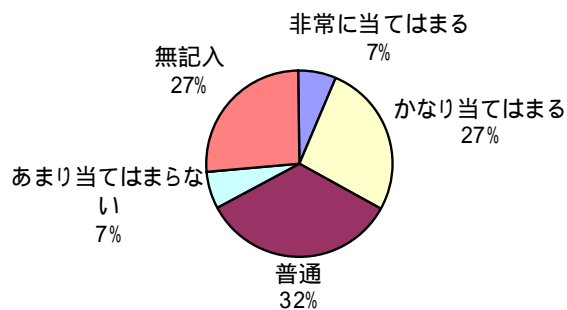
講義(共通科目)



講義(特論)



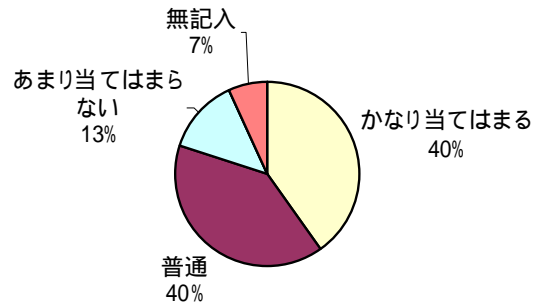
演習



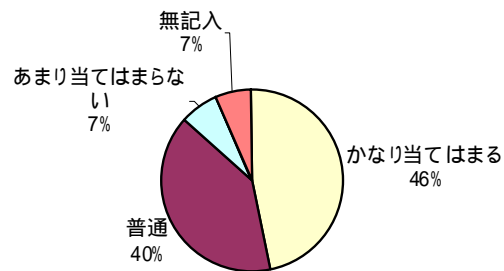
(資料「在学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 3-1-5(4) 修士課程・教育内容・方法に対する在学生アンケート結果(4)

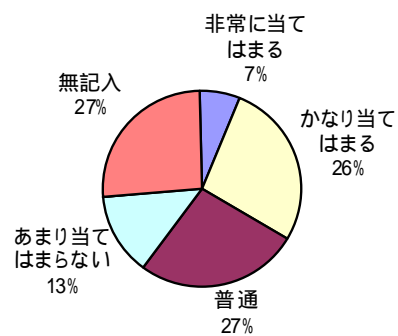
設問:教育内容に満足している  
講義(共通科目)



講義(特論)



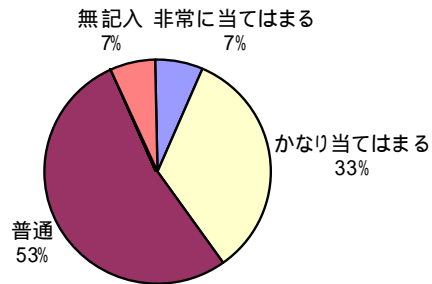
演習



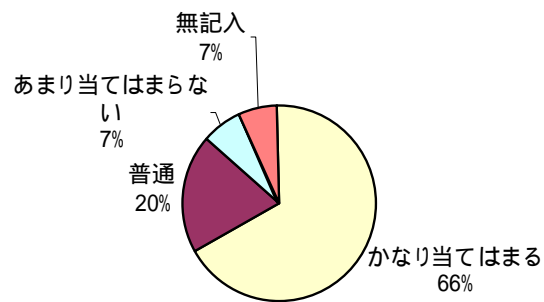
(資料「在学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 3-1-5(5) 修士課程・教育内容・方法に対する在学生アンケート結果(5)

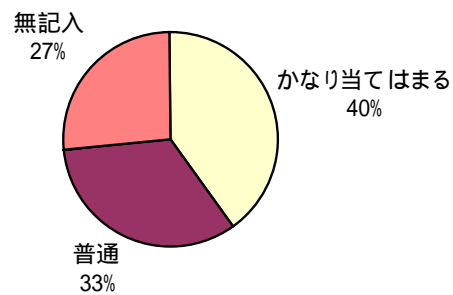
設問: 課題(レポートなど)は適切である  
講義(共通科目)



講義(特論)



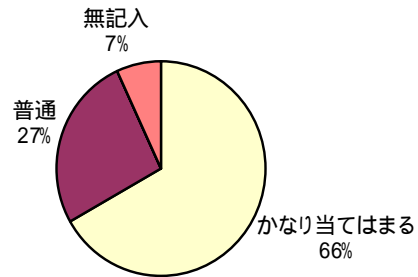
演習



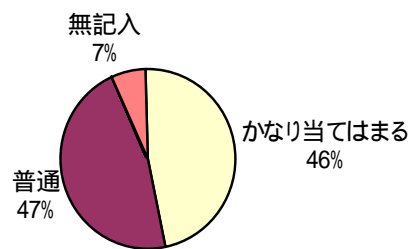
(資料「在学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 3-1-5(6) 修士課程・教育内容・方法に対する在学生アンケート結果(6)

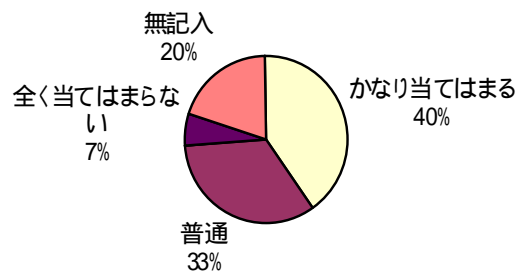
設問: 学習内容について教員と学生の意見交換がなされている  
講義(共通科目)



講義(特論)



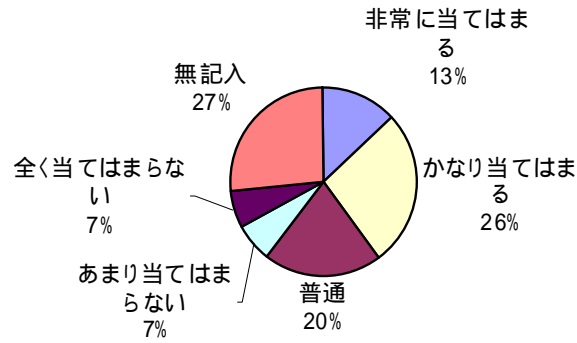
演習



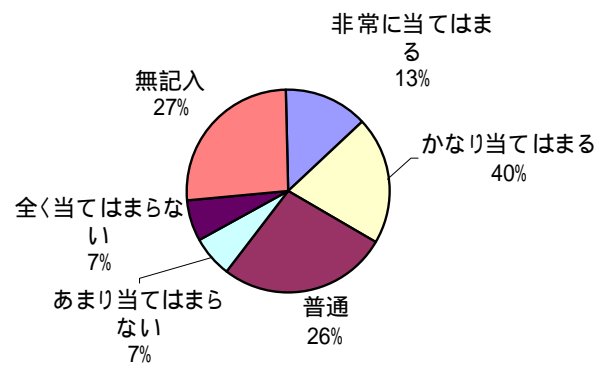
(資料「在学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 3-1-6(1) 修士課程・特別研究に対する在学学生アンケート結果(1)

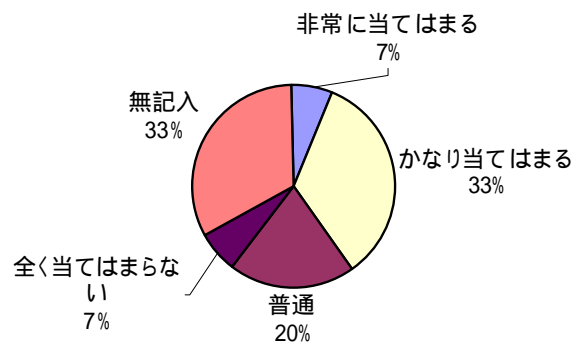
設問: 特別研究(4単位)の指導は十分である。



設問: 研究準備の段階での支援は十分である。



設問: データ収集段階での支援は十分である。

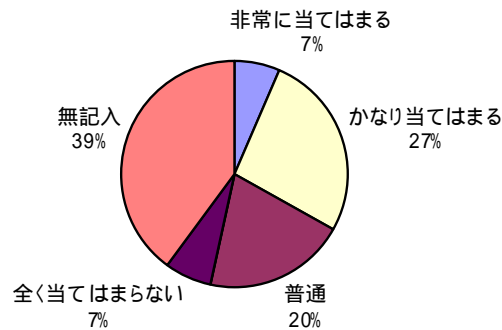


(資料「在学学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

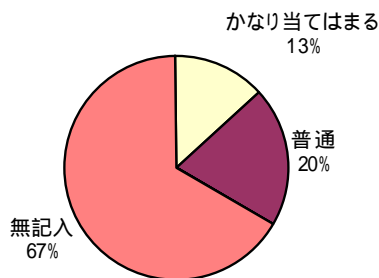


資料 3-1-6(2) 修士課程・特別研究に対する在学生アンケート結果(2)

設問: データ分析段階での支援は十分である。



設問: 研究過程において主体的に学習した。



(注)在学生対象のアンケートのため、特別研究未履修の1年生の回答を含む。

(資料「在学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

博士・修士課程ともに学生ごとに一人の主指導教員を置くだけでなく副指導教員を加え指導できる体制となっている。これは、学生が学位論文作成にあたり、所属領域以外の教員からの指導を受けたいとの要望に対応している。このように学生の研究ニーズに即した研究指導を行っており、これら研究指導に対する学生の評価は高い【資料 3-1-7:P42, 資料 3-1-8:P43, 資料 3-1-6:P40~41】。

資料 3-1-7 副指導教員制度を定めた規則及び副指導教員制度適用状況

大学院博士課程の指導教員の2人制に関する申合せ

平成16年 3月19日  
博士課程委員会承認

大学院医学系研究科博士課程の学生は、学位論文作成に対する指導を受けるため、所属の主指導教員と相談の上1名の副指導教員を当教員了承のもと所属領域外より選ぶことが望ましい。

大学院学生は副指導教員を選んだ場合は、その教員名を学務室へ届け出る。

研究テーマの変更があれば、大学院学生と主指導教員の希望で副指導教員の変更は可能とする。

副指導教員は大学院博士課程の担当教員とし、少なくとも半年に一度は主指導教員とともに大学院学生の指導・相談にあたるものとする。

副指導教員は単なる半年に一度程度の指導・相談によって、当該論文の共著者たることを求めないことを原則とする。

福井大学大学院医学系研究科修士課程担当教員に関する申合せ

平成19年 5月17日  
修士課程委員会承認

福井大学大学院医学系研究科修士課程(以下「修士課程」という。)の教育を担当する教員に関し、必要な事項を定めるものとする。

(略)

(副指導教員)

第3 研究指導を行う上で、指導教員が有益と認める場合は、副指導教員を置くことができる。

2 副指導教員は、「特別研究」を担当する教授、准教授又は講師の中から、修士課程委員会の議を経て、学生ごとに定める。

付 記

1 この申合せは、平成19年5月17日から施行する。

2 この申合せの施行日において、「特別研究」を担当している教授及び准教授は、この申合せ第2に規定する指導教員とする。

副指導教員制度適用状況(入学年度別・H20.3.31現在)

区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	計	備考
修士課程		2	5		7	2年次に副指導教員を決定
	10	13	10	7	40	
博士課程	7	9	8	13	37	
	13	21	15	19	68	
医学系研究科 計	7	11	13	13	44	
	12	34	25	26	108	

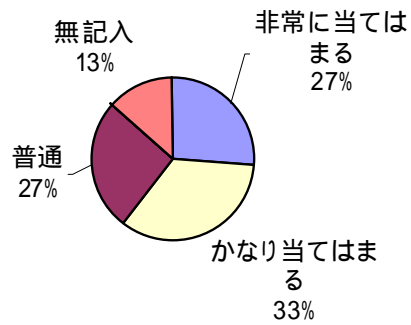
(注)各欄は、各年度の入学者数

博士課程においては、主に臨床医学系領域に所属する学生が基礎医学系領域教員を副指導教員に選ぶことが多い。また、このようにして選ばれた副指導教員は学位論文に共著者になることを求めないこととしているのも特徴である。

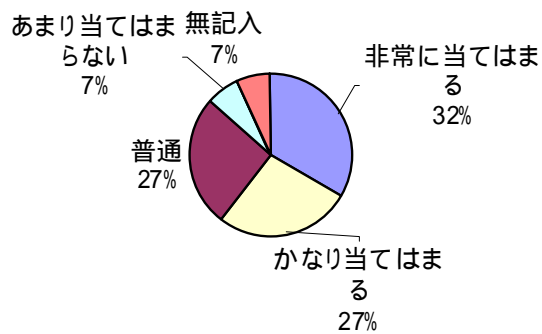
(事務局資料)

資料 3-1-8 博士課程・研究指導に対する修了生アンケート結果

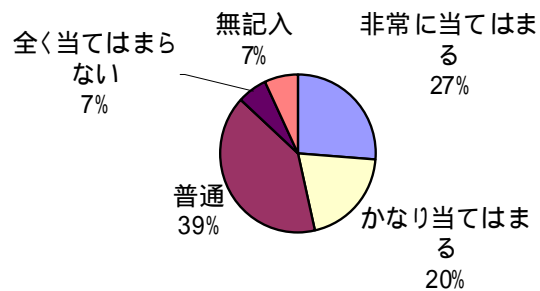
設問: 研究指導の方法は適切でしたか。



設問: 研究指導体制は適切でしたか。



設問: 研究期間は適切でしたか。



(資料「在学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

TA・RA制度を活用した能力の育成，教育的機能の訓練等を積極的に取り入れ，多くの学生を，TA・RAに採用し，これを通じた能力の育成を図っている【資料3-1-9】。

資料3-1-9 TA・RA実績一覧

			16年度	17年度	18年度	19年度	計
修士課程	TA	採用者数(人)	3	2	2	3	10
		総時間数(H)	724	471	494	674	2,363
		一人あたり時間数(H)	241.3	235.5	247	224.7	236.3
博士課程	TA	採用者数(人)	13	12	9	9	43
		総時間数(H)	4,290	3,798	3,032	2,249	13,369
		一人あたり時間数(H)	330	316.5	336.9	249.9	310.9
	RA	採用者数(人)	9	7	9	12	37
		総時間数(H)	3,582	3,454	3,038	3,279	13,353
		一人あたり時間数(H)	398	493.4	337.6	273.3	361.0

TA:ティーチング・アシスタント RA:リサーチ・アシスタント

TA実施後学生の意見・感想例(各月の実施報告書から)

- ・学生同士の筋肉注射・採血という身体に侵襲のある演習であった。学生も大変緊張していたが、それを教える側にとっても緊張する演習であった。
- ・注射など事故もなく無事終えることができた。自らの事故も防ぎながら、患者の安全・安楽に努める大切さを学生達に身を持って伝えることができた。
- ・清拭・洗髪などの全身ケアを科学的根拠とつなげながら、手技を伝えていき、また、それがどの程度理解されているのか確認していくことの困難さ、指導の難しさがあつた。こういった行い方が適切なのか私自身学んでいきたい。
- ・実技テストは様々な状況を設定した上で、学生がどこまでを理解しているかを評価するために細かく確認項目が作成されている事に驚いた。学生の評価を行う上で、教員がどれ位学生に理解しやすく教えているかも問われていることを実感できた。
- ・テュートリアル教育の補助があり、グループ討論などこれまでと異なった指導ができ、勉強になった。
- ・改めて教育する側の難しさを痛感し、自分の足りない部分を補う手助けとなった。
- ・補助業務にも大分慣れてきたが、学生の考え方も一人一人異なるので、それに合わせてきちんと対応していかなければと思った。
- ・そろそろ臨床実習への慣れが出てきたり、暑さによる疲れが出てくる時期で、私も熱意を持って臨床実習へ望む必要を感じた。
- ・検査とそれに伴うadverse effectについて、学生の理解を深めることができた。
- ・クリニカルカンファレンスや入退院カンファレンスに出席し、学生に助言を行った。
- ・学生実習の補助を実施するとともに自分の勉強にもなり有意義であった。

RA実施後学生の意見・感想例(各月の実施報告書から)

- ・ベクター作成の手技を学び、その難しさを痛感しました。
- ・CD8陽性T細胞を輸注することにより食物アレルギー症状の軽減することをマウスを使って実験中。今月～来月にかけてIL-10が症状軽減に重要なサイトカインであることを証明する実験を行う予定である。
- ・薬剤耐性となった白血病細胞にsiRNAを用いてknock downを行い、蛋白の発現の変化及び細胞生存の変化を検討した。
- ・アカルボースの血管保護作用についての検体収集、処理と初期のデータ解析を行った。
- ・今月から新しい細胞系での実験となったが、今までと大きな変更もなく順調に実験を進めることができよかった。
- ・今月は今までの問題点を実験的に解決でき、新たな方向性を決めることができ満足している。
- ・ヘモグロビン小胞を使用して、0-15拘束力のある実験を行いました。さらに最適の結合用の様々なパラメーターを終了させました。現在、動物実験の準備をしています。
- ・ウイルスベクターを用いることにより、レポーター遺伝子のイメージング研究を遺伝子発現のモニタリングのために実行する。昨年度のプラスミドベクターを用いる場合と対照的に、ウイルスベクターを基礎にした系の統合が、より高い遺伝子発現を生ずると期待される。

(事務局資料)

## 観点 3-2 主体的な学習を促す取組

(観点に係る状況)

博士課程では、正規カリキュラムのほかに大学院セミナーを年間 20 回以上開催し、最新かつ最高水準の研究に触れる機会を提供している。教員からの寄付に加え、法人化後新たに医学部長裁量経費の配分を始めた。さらに関係財団に助成を求めた。このような支援のもと招へいする講師の旅費・謝金を確保し、充実したセミナーの継続的实施に努めている。この大学院セミナーについては、学生からの評価も良好であり、研究活動への自主的、能動的アプローチを促すものとなっている【資料 3-2-1, 資料 3-2-2:P46】。

また、3 年次には、主体的な研究と成果発表能力を涵養するため研究発表会を開催し、そこでの発表を義務付けている。このシステムについては、学生から高い評価を得ており、研究への主体的な取組を促している【資料 3-2-3:P47, 資料 3-1-3:P33】。

資料 3-2-1 博士課程・大学院セミナー担当研究者数一覧

	16年度	17年度	18年度	19年度	計
実施回数	30	22	27	28	107
区分					
外国人研究者・教員	12	6	4	6	28
国内大学教員	15	11	13	16	55
国内研究機関・研究員	4	9	8	6	27
本学教員等	5	0	2	1	8
計	36	26	27	29	118

\* 複数研究者によるセミナーを実施する場合があるため、実施回数と研究者数は一致しない。

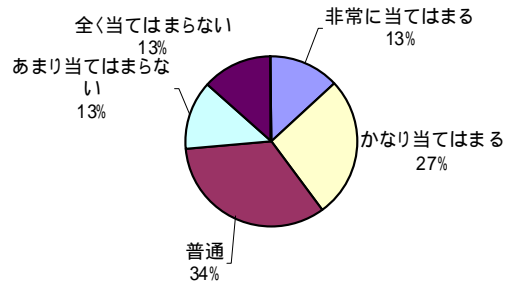
## 主な担当研究者

研究者名	所属	テーマ
Thomas F. Franke	Columbia University	Novel insight into the anti-apoptotic function of Akt in cells
AMSTERDAM ABRAHAM	イスラエル ワイツマン科学研究所	Novel Genes Controlling Physiology and Pathology of the Human Ovary
加藤 茂明	東京大学・分子細胞生物学研究所 / 科学技術振興事業団・ERATO	核内ステロイド受容体群による遺伝子発現制御機構
宮園 浩平	東京大学医学系研究科病理学	TGF- シグナルの制御と臨床応用
中山 敬一	九州大学生体防御医学研究所	細胞増殖のブレーキp27の分解調節と癌
坂口 志文	京都大学再生医科学研究所	制御性T細胞による免疫応答の制御
門脇 孝	東京大学医学部代謝栄養内科学	生活習慣病の制御機構
FREDRIC B. KRAEMER, M.D.	Stanford University Medical Center	Hormone-Sensitive Lipase: Adipocyte Lipolysis and Adrenal Steroidogenesis
Andrew Saxon M.D.	UCLA School of Medicine	Engineering Inhibitory-Signaling Molecules to Regulate Allergic Disease
竹市 雅俊	理化学研究所	細胞接着分子カドヘリン
田賀 哲也	熊本大学発生医学研究センター転写制御部門	中枢神経系の発生と再生を制御するシグナルネットワーク
Morley D. Hollenberg	カルガリー大学	Proteinase-mediated signaling pathways: PARs and more
Paul C. Simpson	カリフォルニア大学サンフランシスコ校	1-Receptors in the Heart
杉田 昌彦	京都大学ウイルス研究所がんウイルス研究部門細胞制御研究分野	脂質を標的にした新しい免疫システム
竹縄 忠臣	神戸大学医学系研究科脂質生化学	イノシトールリン脂質結合ドメインを介するシグナリングネットワーク 膜の形、細胞の形の決定への関与
貝淵 弘三	名古屋大学大学院神経情報薬理学	神経細胞の極性形成機構
三品 昌美	東京大学大学院薬理学	グルタミン酸受容体から脳高次機能へ
山中 伸弥	京都大学再生医科学研究所	人工万能幹(iPS)細胞の可能性と課題

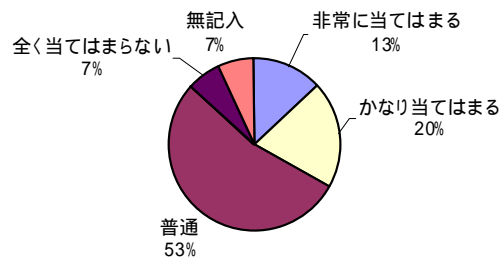
(事務局資料)

資料 3-2-2 博士課程・大学院セミナーに対する修了生アンケート結果

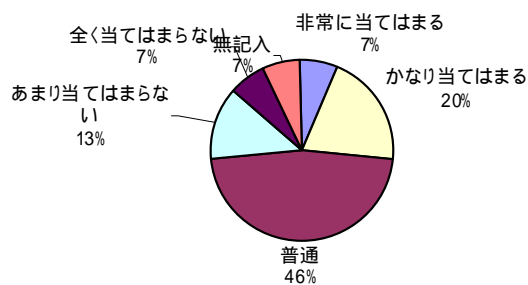
設問: 大学院セミナーは、役にたちましたか。



設問: 内容は適切でしたか。

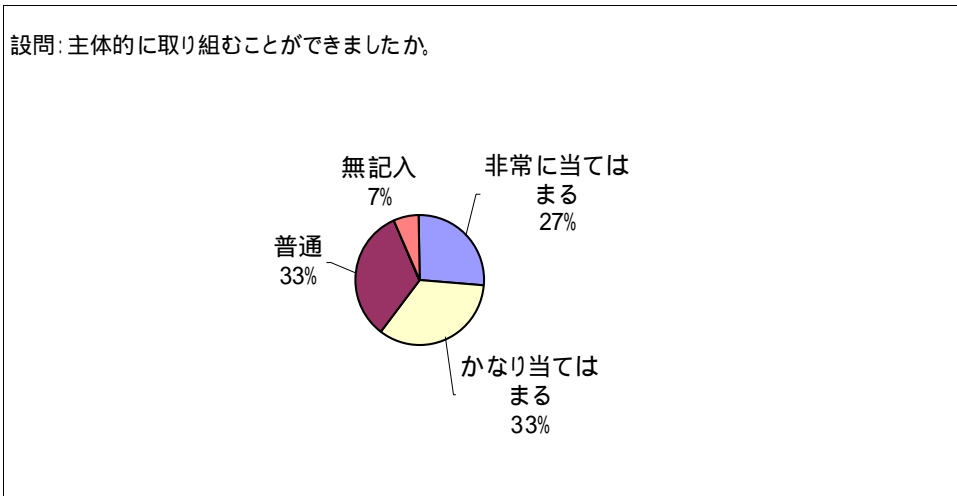


設問: 回数は適切でしたか。



(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 3-2-3 博士課程・研究に対する修了生アンケート結果



(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

修士課程では、主体的取り組みを促進するために、授業形態を講義形式、演習方式を基本に、グループ学習やプレゼンテーションを効果的に取り入れている。特に特別研究においては、2年次6月に中間発表会を開催し、教員・学生相互の情報交換・意見交換を行うことにより、研究計画の修正や方向性について指導するとともに、1年生も参加させ研究に取り組むモチベーションをあげる工夫をしている。学生への修士論文指導は、各領域でのグループ指導あるいは個別指導を実施し、学生への支援を行っている。また、卒業後も学会誌への発表や学会発表ができるようにサポートをしている【資料 3-1-6:P40～41】。

博士・修士課程ともに一定の研究成果を上げた学生は、積極的に関係学会で研究発表あるいは関連雑誌に公表しており、このことは、学生が主体的に研究を行ったことの証左である【資料 3-2-4】。

資料 3-2-4 大学院生の学会発表数，論文発表数一覧

		学会発表回数					論文発表件数				
		16年度	17年度	18年度	19年度	計	16年度	17年度	18年度	19年度	計
修士	看護学専攻	3	10	23	3	39		11	22	9	42
	形態系専攻	32	16	32	40	120	7	1	7	13	28
博士	生理系専攻	314	242	239	158	953	40	25	23	32	120
	生化系専攻	181	178	98	210	667	56	37	52	42	187
	生態系専攻	40	51	40	36	167	17	18	9	2	46
計		570	497	432	447	1946	120	92	113	98	423

(事務局資料)

博士課程においては、平成15年度に採択された21世紀COEプログラムにより、日本学術振興会特別研究員に平成15年度～平成17年度1名、平成18年度～平成19年度1名の計2名の大学院生が「優れた研究能力を有し、21世紀COEプログラムに選定された研究拠点で、主体性をもって研究する者」として採用された。また、同プログラムでは「若手研究者外国派遣支援事業」を企画し、平成18年度及び平成19年度にそれぞれ2名計4名の大学院生に対して国際学会での研究成果発表のための旅費を支援した。これらの制度については、大学院学生の主体的学習を促す制度といえるとともに、これら制度により採用・助成された学生がいることは、主体的学習が実施されたことを示すものである【資料3-2-5,資料3-2-6,資料3-2-7:P49,資料3-2-8:P49】。

資料3-2-5 日本学術振興会特別研究員(21世紀COEプログラム)の募集HP

福井大学医学部  
21世紀COEプログラム

募集、公募

■日本学術振興会特別研究員(21世紀COEプログラム)の補充採用について

この度、本学21世紀COEプログラム「生体機能医学の統合研究プログラム」では、日本学術振興会特別研究員(21世紀COEプログラム)を補充採用することとなりました。

各候補者を採用した翌翌、国際学会発表をはじめとして、本COE実施計画に合致する様々な専門分野とする大学院修士課程在学者の応募をお待ちしています。

- 募集人数：1名
- 応募資格
  - 特別研究員-D01(大学院修士課程在学者)
    - 【年齢】平成18年4月1日現在、34歳未満(医学、歯学または獣医学を専攻する修士課程に在学者は36歳未満)
    - 【身分】平成18年4月1日現在、我が国の大学院修士課程に在学し、次のいずれかに該当する者(外国人も含む)
      - ①区分別の修士課程第1年次に在学する者
      - ②一貫制の修士課程第3年次に在学する者
      - ③他、3年間の課程のみの修士課程第1年次に在学する者
      - ④医学、歯学又は獣医学系の修士課程第2年次に在学する者
 ※D1～D3において、平成18年4月に修士課程修了後に在学する予定の者を含む
  - 特別研究員-D02(大学院博士課程在学者)
    - 【年齢】平成18年4月1日現在、34歳未満(医学、歯学または獣医学を専攻する修士課程に在学する者は36歳未満)
    - 【身分】平成18年4月1日現在、我が国の大学院博士課程に在学し、次のいずれかに該当する者(外国人も含む)
      - ①区分別の博士課程第2年次に在学する者
      - ②一貫制の博士課程第4年次に在学する者
      - ③他、3年間の課程のみの博士課程第2年次に在学する者
      - ④医学、歯学又は獣医学系の博士課程第3年次に在学する者
 ※ただし、平成18年4月1日において博士課程に在学する期間を越えて在学することになる者もD02として応募できます。
- 過去に日本学術振興会特別研究員に採用されたことがある者は、応募することができません。
- 平成18年度日本学術振興会特別研究員に申請し、不採用となった者は、新

期として応募できません。

(5) 受入研究費は、21世紀COEプログラム採択拠点の拠点リーダーまたは事業推進担当者となります。

- 採用期間  
平成18年 4月 1日～平成20年 3月31日
- 研究奨励金、研究費
  - (1) 研究奨励金  
DC1、DC2: 月額200,000円(採用期間中に額が決定された場合はその額を適用します)
  - (2) 研究費  
科学研究費補助金(特別研究員奨励費)の申請資格が与えられます。
- スケジュール
  - (1) 公募締切: 平成18年 1月13日(必着!)
  - (2) 可否決定: 平成18年 1月20日頃
  - (3) 研究開始: 平成18年 4月 1日から
- 応募方法  
応募者は登録内容に十分留意の上、「申請書」等を作成し、平成18年1月13日(金)までに下記応募先まで提出して下さい。  
【上記「申請書」等母フォームを合わせてダウンロードし、「研究費ファイル」をダウンロードして下さい。】  
応募資料は日本学術振興会特別研究員申請資料と同じです。詳しくは日本学術振興会特別研究員ホームページ(<http://www.jsp.or.jp/ps/ps/ps21st.html>)を参照するか応募先にお問い合わせ下さい。

＜提出書類＞

- (1) 特別研究員申請書(紙申請カード)………原本1部、写し2部 (A4判、両面→B)
- (2) 取組の受入研究費の詳述書………原本1部、写し2部 (A4判、両面→B)
- (3) 特別研究員申請カード(1)(1)の1,2ページ目の写しを正準とします)………1部

※「申請書」等の作成の際には、日本語で90ポイント以上の文字で記入すること。

- 応募先  
010-1193 福井県若狭郡若狭町下宮2-3  
新井大学総務部総務センター兼協定(特定研究担当) 窓口  
TEL: 0776-61-8114(内線:2021)  
E-mail: tyochi@fms.fukui-u.ac.jp

ページの先へ

(資料「福井大学HP」から)

資料3-2-6 日本学術振興会特別研究員(21世紀COEプログラム)採用状況

採用年度	資格	研究課題名	採用期間
15年度	DC1	低酸素癌親和性放射薬剤による高度画像診断・治療法の開発研究	H15.10.1～H18.1.31
18年度	DC1	分子イメージングによるエストロゲン依存性細胞増殖分化メカニズムの解析	H18.4.1～H20.3.31

(事務局資料)



資料 3-2-7 若手研究者外国派遣支援事業の募集通知

平成19年 5月11日

若手研究者 各位

医学部COEプログラム運営委員会委員長

21世紀COEプログラム若手研究者外国派遣支援事業の募集について(通知)

このたび、医学部COEプログラム運営委員会において、若手研究者の研究推進を図るため、若手研究者外国派遣支援事業を募集することとなりましたのでご案内いたします。

記

公募内容

(1) 支援事項 国際学会等に出席し発表するために必要な研究旅費  
(平成19年度内)

(2) 対象者 原則として外国へ出発する日に満40歳未満である若手研究者

(3) 配分総額及び件数 配分総額:150万円、採択件数:若干数  
(1件当たりの申請額の上限は、30万円程度とします。)

申請の要領  
別紙申請書により、国際学会プログラム、旅費計算書、航空運賃見積書及び旅行日程表(詳細)を添付のうえ、5月25日(金)までに松岡キャンパス総務室学術支援係(内線:2022)へ提出願います。

(事務局資料)

資料 3-2-8 若手研究者外国派遣支援事業への大学院生採択状況

年度	参加国際学会等名	用務地	旅行日程	発表日	演題
18年度	ヨーロッパ糖尿病学会	デンマーク コペンハーゲン	H18.9.11 ~ H18.9.17	H18.9.14	Cardiac overexpression of adipose differentiation-related protein(ADRP) leads to myocardial steatosis(口演)
18年度	ヨーロッパ核医学会	ギリシア アテネ	H18.9.29 ~ H18.10.6	H18.10.2	Double Tracer Autoradiography with 18FDG/64Cu-ATSM and Cell Proliferation in tumor(口演)
19年度	第67回アメリカ糖尿病学会	アメリカ シカゴ、パッファロー	H19.6.21 ~ H19.6.29	H19.6.23 ~ H19.6.25	Low glucose accelerates VLDL receptor-mediated lipoprotein uptake in skeletal muscle cells(ポスター発表)
19年度	ヨーロッパ呼吸学会2007	スウェーデン ストックホルム	H19.9.14 ~ H19.9.20	H19.9.16	Assessment with STIR MR imaging and PET-CT for malignant or benign lesion in the mediastinal and hilar lymph nodes(口演)

(事務局資料)

学習環境については、博士・修士課程ともに医学部附属図書館の24時間開館やシラバス掲載資料の積極的購入等による学生の図書館利用の促進等、学生の主体的学習の基盤となるインフラを積極的に整備しており、適切である【資料3-2-9 P50】。また、学習・研究環境に関する学生の評価も高く適切である【資料3-2-10:P51~52,資料3-2-11:P53】。

資料 3-2-9 学生による図書館利用状況（平成 18 年度）

時間帯	曜日	学 生	総利用者数	学生 / 総利用者数	1日当たりの学生利用者数
時間内	平日	64,145	69,629	92%	259
	土曜	3,995	4,227	95%	80
	日曜	4,758	4,904	97%	92
	祝日	2,088	2,158	97%	139
	小計	74,986	80,918	93%	205
時間外*	平日	26,825	27,761	97%	108
	土曜	6,622	6,755	98%	132
	日曜	7,598	7,743	98%	146
	祝日	3,239	3,314	98%	216
	小計	44,284	45,573	97%	121
合 計		119,270	126,491	94%	327

\*20:00以降 利用席は205席

年度別の医学部・医学系研究科（病院含む）の蔵書数と医学図書館蔵書数について

	医学部全蔵書	医図購入図書冊数
平成15年度	111,388	936
平成16年度	114,667	1,087
平成17年度	120,232	1,816
平成18年度	120,956	1,480

\*古くなった図書の廃棄(3,260冊)を18年度で計上しておりますので、医学部全蔵書ではあまり増えておりません。

全蔵書数には毎年製本する雑誌も製本単位で1冊として蔵書数に累計されるので、例年3,000から4,000冊程度の全蔵書の増加となり、結果的に18年度は大量の廃棄にもかかわらず全蔵書はマイナスにはなりませんでした。

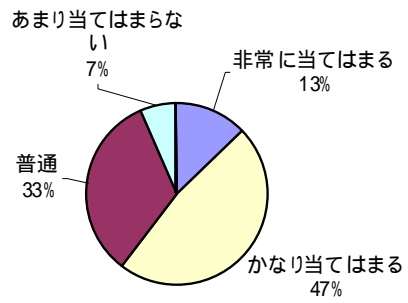
\*通常の予算構造ですと医学図書館は外国雑誌にウエイトをおいて図書を購入する予算が年々減少し、5年程度で耐えきれなくなったところに雑誌を見直すようなパターンをとっていましたが、医学図書館の図書が古いものも多く学生さんたちからの強い不満もあり、17,18年度は図書の購入に力をいれております。

(しかしながら電子ジャーナルやデータベースの値上がりにより今後は図書購入経費が圧迫されると推定しております。)

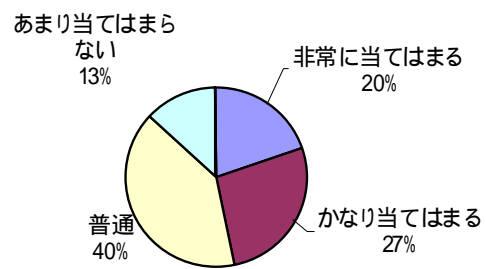
(事務局資料)

資料 3-2-10(1) 修士課程・学習環境に対する在学生アンケート結果(1)

設問: 図書館は利用しやすい。



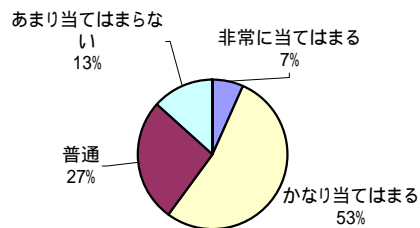
設問: 図書館をよく利用している。



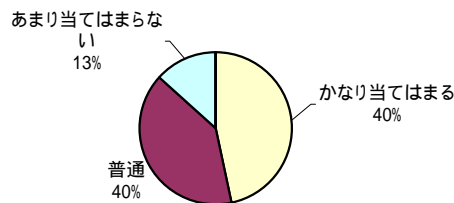
(資料「在学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 3-2-10(2) 修士課程・学習環境に対する在学生アンケート結果(2)

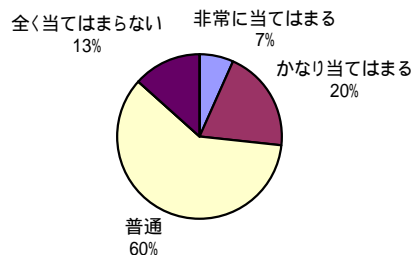
設問: 講義室の環境に満足している。



設問: 院生室の環境(備品、照明、広さ等)に満足している。



設問: 学習環境に関して学生の意見が反映されている。



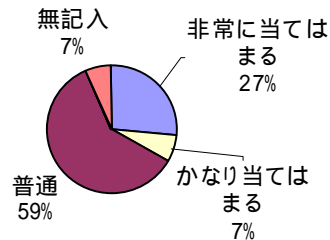
学習環境についての学生要望への対応例

学生の要望	対応
・院生用のコピーカードを用意して欲しい。(看護事務室のカード式の共通コピー機を使用していたことに対して) [H17.10アンケート結果]	・大学院講義室にコピー機を設置 [H18.3措置]
・暖房が効かない時期でも夜間の講義中は冷え込みが厳しく、辛かった。 [H19.10アンケート結果]	・オイルヒーター5台を院生室、大学院講義室等に設置 [H20.3措置]
・院生室にパソコンを設置して欲しい。 [H19.10アンケート結果]	・研究及び学習のためのパソコン使用については、各領域の研究室に設置されているものを活用できるように各領域教授に周知している。 [H19.12修士課程委員会確認]

(資料「在学生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

## 資料 3-2-11 博士課程・研究環境に対する修了生アンケート結果

設問: 研究環境は適切でしたか。



(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

## (水準)

期待される水準を大きく上回る

## (判断理由)

博士課程では、教育目標達成のために、医学研究総論の開設、3年次研究発表会の実施、主・副の複数指導教員による研究指導の実施、T A・R A制度の活用、大学院セミナーの開催など多様な授業形態、学習指導を実施しているほか、21世紀C O Eプログラムによる大学院生を含む若手研究者外国派遣事業を実施するなど学生の主体的学習を促す取組を行い、院生による学会発表・論文発表が活発に行われており、学生等の期待「将来指導的役割を担うことが可能な教育・研究者の養成」に十分応えるものである<sup>1)</sup>。

<sup>1)</sup> 別添資料 1-2-4: 平成 19 年度「医学研究総論」アンケート結果:P75～76

資料 2-1-3: 博士課程・医学研究総論に対する修了生アンケート結果:P21

資料 3-1-1: 医学研究総論に係る「大学院生発表会」について:P32

資料 3-1-2: 博士課程・3年次研究発表会実施状況(平成 19 年度):P33

資料 3-1-3: 3年次研究発表会の修了生アンケート結果:P33

資料 3-1-7: 副指導教員制度を定めた規則及び副指導教員制度適用状況:P42

資料 3-1-8: 博士課程・研究指導に対する修了生アンケート結果:P43

資料 3-1-9: T A・R A実績一覧:P44

資料 3-2-1: 博士課程・大学院セミナーの担当研究者数一覧:P45

資料 3-2-2: 博士課程・大学院セミナーに対する修了生アンケート結果:P46

資料 3-2-4: 大学院生の学会発表数、論文発表数一覧:P47

資料 3-2-7: 若手研究者外国派遣支援事業の募集通知:P49

資料 3-2-8: 若手研究者外国派遣支援事業への大学院生採択状況:P49

修士課程では、教育目標達成のために、講義、演習等の授業形態がバランスよく組み立てられ、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫が適切に行われている。また、教育課程編成の趣旨にそったシラバスが作成・活用されており、学生の評価も高く、適切である。また、主体的取り組みを促進するために、特別研究を始めとして、グループ学習やプレゼンテーションを効果的に取り入れ、学生の主体的学習を促進しており、学生の評価も高く、学生等の期待に十分応えるものである<sup>2)</sup>。

<sup>2)</sup> 資料 3-1-5: 修士課程・教育内容・方法に対する在学生アンケート結果:P34～39

資料 2-1-7: 修士課程・シラバスに対する在学生アンケート結果:P24

資料 3-1-6: 修士課程・特別研究に対する在学生アンケート結果:P40～41

資料 3-1-9: T A・R A実績一覧:P44

資料 3-2-4:大学院生の学会発表数,論文発表数一覧:P47

博士・修士課程ともに学習環境についても,自己学習できる環境を整えており,学生の評価も高く,学生等の期待に十分応えるものである<sup>3)</sup>。

<sup>3)</sup>資料 3-2-9 :学生による図書館利用状況(平成 18 年度):P50

資料 3-2-10:修士課程・学習環境に対する在学生アンケート結果:P51~52

資料 3-2-11:博士課程・研究環境に対する修了生アンケート結果:P53

以上のように,教育方法の適切な工夫は,学生等の期待に十分応えるものであり,期待される水準を大きく上回ると判断した。

## 分析項目 学業の成果

## (1) 観点ごとの分析

## 観点 4-1 学生が身に付けた学力や資質・能力

## (観点に係る状況)

博士課程の学位論文については、殆どの学位論文が欧文のレフェリー制度のある国際的な一流学術誌に掲載されている。全学位論文のインパクトファクターは平成16年度～19年度の平均で2.89と極めて高い。これは、修了時点で高水準の教育成果、効果があがっていることの証左であるとともに欧文雑誌のレフェリーの審査を受け、国際的な通用性・信頼性も確保されている論文であることを示している。また、当該論文の審査にあたっては、公開討論会を必須とし、周辺学問分野の知識を含め、厳格な審査を経て、大学院博士課程委員会の投票により、学位授与を決定している【別添資料4-1-1:P81～83,資料4-1-2,資料4-1-3:P55】。

修士課程での修了に際しては、学生の学位論文について修士論文公開発表会を開催した後、複数の審査教員による口頭試問等を行った上で審査を行うという厳格な体制をとっている。各学生の学位論文は、その研究成果の多くが学会で発表されており、レフェリー制度のある一流の学会雑誌に掲載されているものもある【別添資料4-1-1:P83～84,資料4-1-4:P56,資料4-1-5:P57】。

これらのことから、大学院教育において高水準の教育成果、効果があがっており適切である。

資料 4-1-2 博士課程の修了状況（入学年度別）

	入学年度								計
	9年度以前	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	
平成16年度	2	3	3	7	4	1			20
平成17年度	1		3	1	3	3	1		12
平成18年度	3				4	6	5		18
平成19年度	1		1		2	3	10	1	18

(事務局資料)

資料 4-1-3 博士課程・学位論文掲載雑誌一覧

年度	論文掲載誌名	IF	備考
16年度	The Journal of Allergy and Clinical Immunology	6.831	2件
	Endocrinology	5.063	
	Journal of Neurochemistry	4.969	
	Ganes to Cells	4.402	
	International Journal of Cancer	4.375	
	World Journal of Gastroenterology	3.318	
	Biochemical Phaemacology	2.993	
	Biochemical and Biophysical Research Communications	2.836	
	Experimental Eye Research	2.611	
	Archives of Biochemistry and Biophysics	2.606	
	Biochimica et Biophysica Acta-General Subjects	2.557	
	Archives of Ophthalmology	2.337	
	International Journal of Psychophysiology	2.014	
	その他6誌	9.166	
	小計(20件)	62.909	
	平均(20件)	3.145	
17年度	European Heart Journal	6.247	
	Journal of General Physiology	5.105	
	Kidney International	4.790	
	European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging	3.935	
	Journal of Neuroimmunology	3.054	
	Clinical Immunology	3.034	
	Journal of Neurological Sciences	2.366	
	Spine	2.299	
	International Journal of Cardiology	2.095	
	その他3誌	4.384	
		小計(12件)	37.309
	平均(12件)	3.109	
18年度	European Heart Journal	7.341	
	Journal of Immunology	6.387	
	FEBS Letters	3.843	
	Biology of Reproduction	3.583	
	J Cardiovasc Electrophysiol	3.285	
	Journal of Neurotraum	2.574	
	Nuclear Medicine and Biology	2.129	
	International Journal of Cardiology	2.095	
	Trenslational Research	2.023	
	その他9誌	14.160	
	小計(18件)	47.420	
	平均(18件)	2.634	
19年度	European Heart Journal	7.286	
	Journal of Biological Chemistry	5.808	
	Endocrinology	5.313	
	Clinical Immunology	3.606	
	Biochemical and Biophysical Research Communications	2.855	
	Experimental Eye Research	2.776	2件
	Respiratory Research	2.335	
	Clinical Experimental Rheumatology	2.189	
	Nuclear Medicine and Biology	2.129	
	その他8誌	11.821	
	小計(18件)	48.894	
	平均(18件)	2.716	
合計(68件)		196.532	
平均(68件)		2.890	

・IF値については、学位論文提出時のものである。

(事務局資料)

資料 4-1-4 修士課程の修了状況(入学年度別)

	入学年度						計
	13年度以前	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	
平成16年度			5				5
平成17年度				9			9
平成18年度				1	10		11
平成19年度					2	7	9

(事務局資料)



資料 4-1-5 修士課程・学位論文関連業績の論文等発表状況

【発表雑誌一覧】			【発表学会一覧】		
年度	発表雑誌名	発表者数	年度	発表学会名	発表者数
16年度	老年看護学	1	16年度	第30回日本看護研究学会学術集会	2
	日本地域看護学会誌	1		第24回日本看護科学学会学術集会	1
17年度	日本看護医療学会雑誌	1		第6回日本救急看護学会学術集会	1
	看護管理	1		第9回日本難病看護学会学術集会	1
	日本母性看護学会誌	1		第6回日本母性看護学会	3
	日本公衆衛生雑誌	1		第63回日本公衆衛生学会総会	4
18年度	日本地域看護学会誌	1		第7回日本地域看護学会学術集会	1
19年度	日本救急看護学会誌	1	17年度	第36回日本看護学会	1
	脳死・蘇生	1	第31回日本看護研究学会学術集会	1	
			第25回日本看護科学学会学術集会	3	
			第21回日本健康科学学会学術大会	1	
			第10回日本老年看護学会学術集会	1	
			第7回日本母性看護学会	1	
			第64回日本公衆衛生学会総会	1	
			American Public Health Association 133rd Annual Meeting and Exposition	1	
			27th ICM Congress	2	
			18年度	第32回日本看護研究学会学術集会	7
			第26回日本看護科学学会学術集会	4	
			第19回脳死・脳蘇生学会総会・学術集会	1	
			第8回日本救急看護学会学術集会	1	
			第48回日本母性衛生学会	1	
			第8回日本母性看護学会	1	
			19年度	第33回日本看護研究学会学術集会	4
			第66回日本公衆衛生学会	2	

\* 修士課程看護学専攻では、学位論文関連業績は翌年度以降の学術雑誌に発表することになる。

\* 修士課程看護学専攻では、学位論文関連業績は翌年度の学会で発表することになる。1名の修了者が、複数の学会発表を行う場合がある。

(事務局資料)

博士・修士課程ともに学位論文の作成にあたり、3年次（修士は2年次）に研究発表会を実施している。この時点で学生が到達している学力レベル及び獲得した研究者としての資質・能力を主・副指導教員だけでなく他分野の教員を含め検証している。また、在学中、殆どの学生が学会で研究発表をしている。これは、一定の研究成果を上げた学生が多数いることを示すものであり、学生が一定の研究能力を身に付けたことを示す証左である【資料 3-2-4:P47】。その他、科学研究費補助金及び学内の競争的配分経費を受け、研究活動を実施している者もあり、これは、これら学生の研究を行う一定の資質・能力を証明するものである【資料 4-1-6:P58】。また、修士課程では、厳密な単位認定を行っており、学生の「優」の成績の割合は高く、このことは学業の到達度が高いことを示す証左である【資料 4-1-7:P58】。

これらのことから、学生は各学年で十分な学力や資質・能力を身につけており、適切である。

資料 4-1-6 大学院生が獲得した科学研究費補助金等の一覧

大学院生が獲得した科学研究費補助金一覧						
		16年度	17年度	18年度	19年度	計
修課 士程	萌芽・代表			1		1
	基礎(C)・分担			1	2	3
博士 課程	若手(B)・代表	1	5	4	2	12
	特別研究奨励費・代表	1	1	1	1	4
	基盤(A)・分担	0	1	1	0	2
	基盤(B)・分担	0	2	0	0	2
	基盤(C)・分担	1	5	7	3	16
	萌芽・分担	0	1	0	0	1
	計	3	15	15	8	41

大学院生が獲得したその他の競争的経費一覧						
		16年度	17年度	18年度	19年度	計
修士 課程	日本看護協会出版会 研究助成金・代表		1			1
	日本看護協会出版会 研究助成金・分担		3			3
	学内 競争的配分経費・分担			1		1
博士 課程	学内 競争的配分経費・代表		1	2	1	4
	学内 学部間共同研究・代表			1		1
	計	0	5	4	1	10

15年度 修士 日本救急看護学会研究助成金1件

(事務局資料)

資料 4-1-7 修士課程修了生成績状況(修了年度別)

	16年度	17年度	18年度	19年度	計
94以上					0
92~93					0
90~91		1		1	2
88~89	1	3	1	3	8
86~87	2	3	3		8
84~85	1		2	3	6
82~83	1	1	3		5
80~82		1		1	2
75~79			2		2
70~74				1	1
69以下					0
計	5	9	11	9	34
平均	85.91	86.59	84.28	84.79	85.27

成績 = (科目成績(100点満点) × 科目単位数) / 修得単位数計  
 「優」は85点、「良」は75点で換算

(事務局資料)

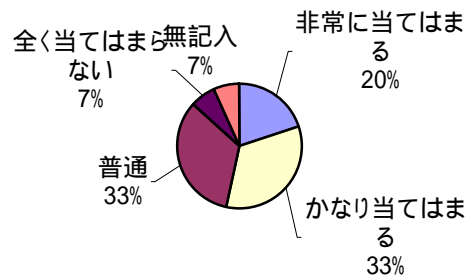
#### 観点 4-2 学業の成果に関する学生の評価

(観点に係る状況)

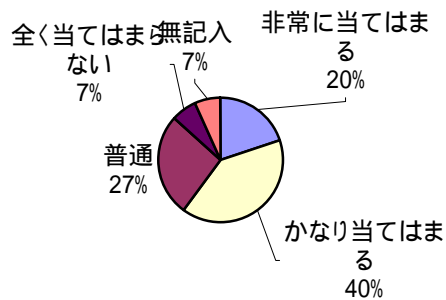
博士課程では、授業及び研究指導等の大学院教育に対する学生の評価は高く【別添資料 1-2-4:P75~76, 資料 2-1-3:P21, 資料 2-2-9:P29, 資料 3-1-3:P33, 資料 3-1-8:P43, 資料 3-2-2:P46】, また、大学院教育により得られた修了時の資質・能力及び学位論文の満足度に対する学生の評価も良好であり、学業の最終成果の満足度は高く、適切である【資料 4-2-1:P59~61】。

資料 4-2-1(1) 博士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果(1)

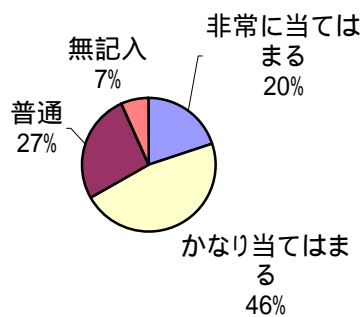
設問: 大学院教育(全般)は役にたちましたか。



設問: 高度の知識の習得に役にたちましたか。



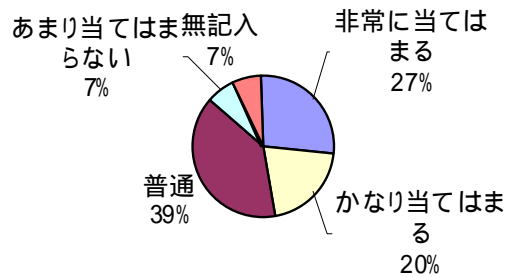
設問: 科学的・論理的思考の獲得に役にたちましたか。



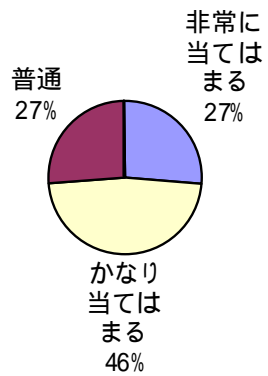
(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 4-2-1(2) 博士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果(2)

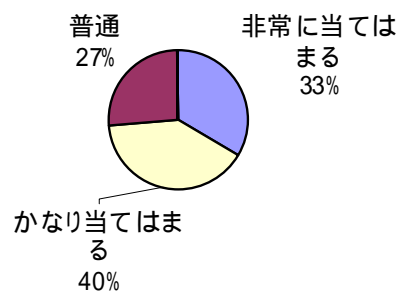
設問: 研究能力の獲得に役にたちましたか。



設問: 大学院入学前に比べ、修了後は成長したと思いますか。

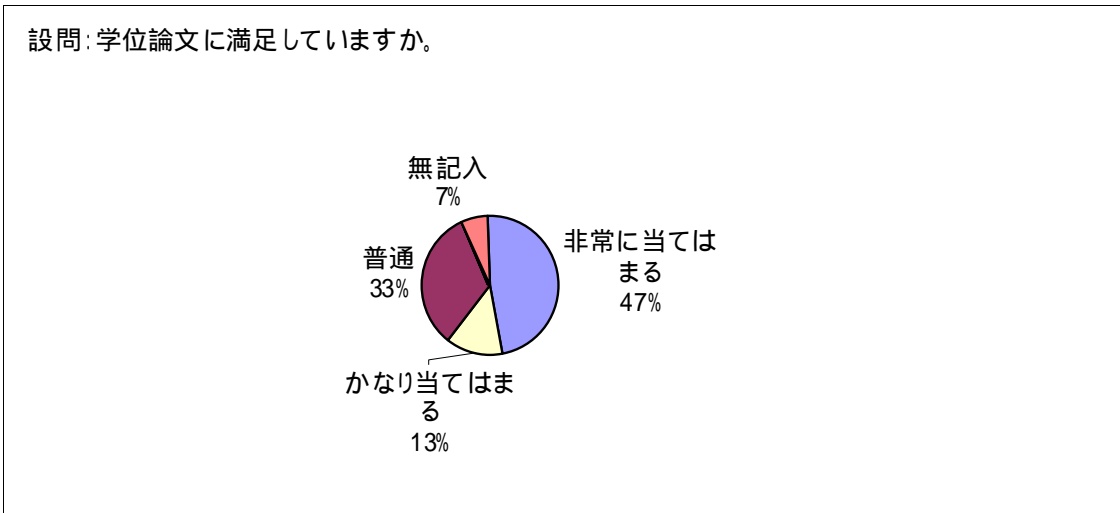


設問: 大学院を修了(学位を取得)したことに満足していますか。



(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

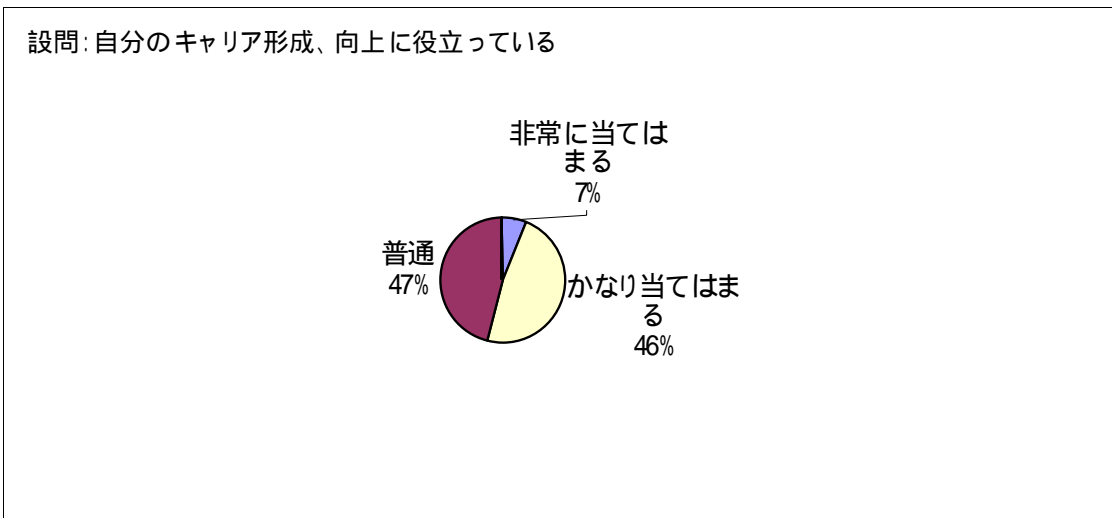
資料 4-2-1(3) 博士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果(3)



(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

修士課程在学中の学生を対象とした大学院教育に関するアンケート調査では、授業(共通科目, 特論, 演習), 研究活動及びキャリア形成・向上に関する評価は高く, 適切である【資料 4-2-2, 資料 3-1-5:P34~39, 資料 3-1-6:P40~41】。また, 修了学生に対する大学院教育に関するアンケート調査では, 大学院で身に付けた学力や能力が修了後に活用されていると評価する修了生が多く, 適切である【資料 4-2-3:P61~62】。

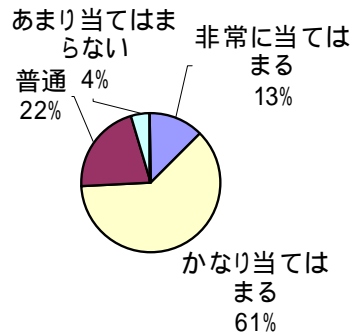
資料 4-2-2 修士課程・キャリア形成, 向上に対する在学学生アンケート結果



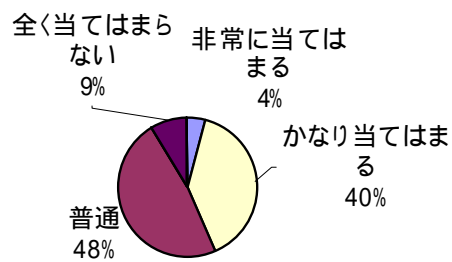
(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 4-2-3(1) 修士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果(1)

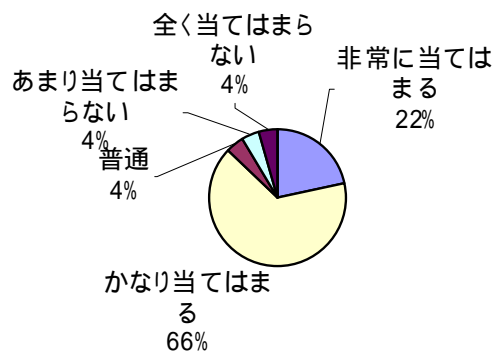
設問: 大学院での学習は実践活動に役立っている。



設問: 現在研究活動を継続している。



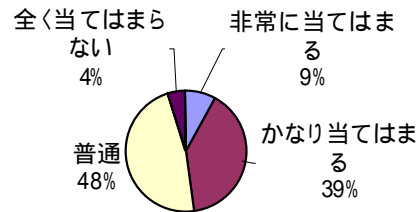
設問: 大学院での学習は教育活動に役立っている。



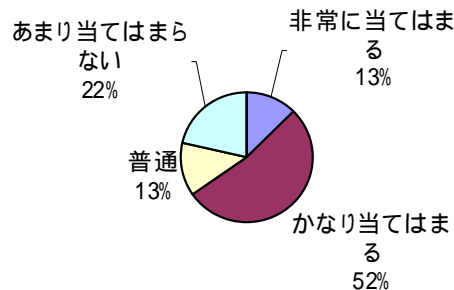
(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

## 資料 4-2-3(2) 修士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果(2)

設問:大学院での学習に満足している。



設問:大学院での学習はキャリア向上に役立っている。



(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

## (水準)

期待される水準を大きく上回る

## (判断理由)

博士・修士課程ともに修了に際しては、厳格な学位論文審査体制が整備されており、国際的な一流雑誌に公表されるなど学位論文の水準は高い、これは修了生が十分な学力や資質・能力を身に付けている証左であり、全ての関係者の期待「将来指導的役割を担うことが可能な教育・研究者及び医療人の養成」に十分応えるものである。また、学位論文の高い水準は特記できる<sup>1)</sup>。

<sup>1)</sup> 別添資料 4-1-1: 博士論文審査実施細則及び修士論文審査実施細則:P81~84

資料 4-1-3: 博士課程・学位論文掲載雑誌一覧:P56

資料 4-1-5: 修士課程・学位論文関連業績の論文等発表状況:P57

資料 4-1-6: 大学院生が獲得した科学研究費補助金等の一覧:P58

資料 4-1-7: 修士課程修了生成績状況:P59

資料 3-2-4: 大学院生の学会発表数, 論文発表数一覧:P47

博士・修士課程ともに在学時点及び修了時点におけるアンケート結果から鑑み学生は十分な学力や資質・能力を身に付けており、さらに学業成果に対

する満足度も高く，全ての関係者の期待に十分応えるものである<sup>2)</sup>。

<sup>2)</sup> 資料 4-2-1：博士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果：P59～61

資料 4-2-2：修士課程・キャリア形成，向上に対する在学生アンケート結果 P61

資料 4-2-3：修士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果：P62～63

以上のように，良好な学生・卒業生の学業成果は，全ての関係者の期待に十分応えるものであり，期待される水準を大きく上回ると判断した。



分析項目 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 5-1 卒業（修了）後の進路の状況

( 観点に係る状況 )

博士課程の平成 16 年度～平成 19 年度の修了者の進路は、本学教員、県内医療機関（本学医学部附属病院を含む）及び県外医療機関医師等となっており、100%が就職している。また、福井県内への就職率は、80%を超えており、地域社会の期待に十分応えている【資料 5-1-1】。

資料 5-1-1 博士課程修了者の進路状況

修了年度	修了者数	福井県内					県外					
		福井大学		医療機関 医師	計	県内就 職率	大学		医療 機関 医師	国内・ 研究 機関	国外・ 大学 等	計
		教員	医員				教員	医師				
平成16年度	20	5	3	8	16	80.0%		1	2		1	4
平成17年度	12	5	1	4	10	83.3%			1	1		2
平成18年度	18	4	5	7	16	88.9%			1		1	2
平成19年度	18	4	6	6	16	88.9%			1		1	2
計	68	18	15	25	58	85.3%	0	1	5	1	3	10

( 事務局資料 )

修士課程の平成 16 年度～平成 19 年度の修了者の進路は、本学教員、県内医療機関（本学医学部附属病院を含む）看護職員等であり、100%が就職している。また、福井県内への就職率も、100%であり、地域社会の期待に十分応えている【資料 5-1-2】。

資料 5-1-2 修士課程修了者の進路状況

修了年度	修了者数	福井県内					県外					
		福井大学		教育機 関教員	医療機 関看護 師等	計	県内就 職率	大学		医療機 関看護 師等	保健医 療機関 保健師	計
		教員	看護師等					教員	看護師等			
平成16年度	5	2	1		2	5	100.0%					
平成17年度	9	1	5		3	9	100.0%					
平成18年度	11		4		7	11	100.0%					
平成19年度	9	3	2	2	2	9	100.0%					
計	34	6	12	2	14	34	100.0%	0	0	0	0	0

( 事務局資料 )

観点 5-2 関係者からの評価

(観点に係る状況)

博士・修士課程ともに就職についての修了者の満足度は高い。特に修士課程では、大学院で学んだことが現職に活かされていると評価するものが多く適切である【資料 5-2-1】。

資料 5-2-1 修士課程・現在の仕事に役立っている教育内容(科目)アンケート結果

5名以上の修了生が「現在の仕事に役立っている」とした科目			
科目名	人数	%	理由
看護研究	17	73.9%	看護研究においては、その方法論を実践することで覚えることが出来た。看護研究の基本が理解でき、現在の教育(院内、病棟内)指導に役立てられている。大学院で学ぶまで、看護研究とはどういったものかなんとかでしか捉えられなかったものが、文献を読むことや研究に取り組む意義を知ることができたため。
特別研究	13	56.5%	勤務先病院で、研究をしている時リーダー的役割を担うことができた。
生命倫理	10	43.5%	
地域看護学特論	7	30.4%	地域看護学特論ではすばらしい教科書を紹介してもらい、地域看護で最も大切にすべき内容は何かをということを深く考えるきっかけになった。卒業後も学生実習等でかなり役立たせていると思う。
基礎・地域看護学特論	5	21.7%	
成人看護学特論	5	21.7%	
演習	5	21.7%	

上記の他、複数の科目に対して役立ったとする理由は以下のものがある。

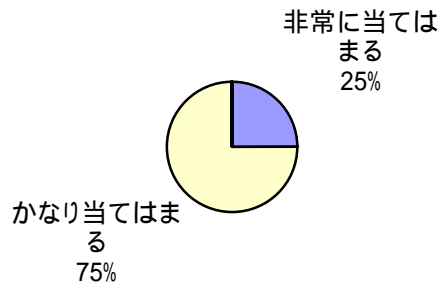
- ・現在の仕事上でのマネジメントに活用できる。(看護管理ほか3科目)
- ・社会人として修士課程で学ぶことは、学部卒業かなり貴重な学習経験であり、新しい専門的知識を得て、現場に参考となる情報提供をできる。(生命倫理及び基礎・地域看護学特論ほか5科目)
- ・仕事上何かを企画したり、業務改善やアンケート調査を行ったり、様々な事があるが、それらを行う上での根拠となるデータの収集方法や示し方、文献検索方法をなどを学ぶことができ、仕事に役立っている。(演習ほか5科目)
- ・スタッフの教育に関わっているので、大人の教育・アンドロゴジーは大活躍。(看護教育ほか1科目)
- ・現場の事象を理論と結びつけ、考える時間を持てたことが、問題を整理し、対処することに役だっている。(老人看護学特論ほか6科目)
- ・院生の時には、十分に読めなかった文献も研究を継続していると、紹介されている文献などを改めて読み、学習が深まる。(成人看護学特論ほか4科目)

(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

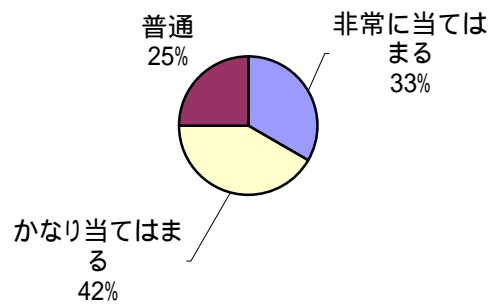
博士・修士課程ともに修了者の就職先機関からの評価も高く、大学院教育で得た資質・能力が適切であるといえる【資料 5-2-2:P67～70,資料 5-2-3:P71】。

資料 5-2-2(1) 博士課程修了者に関するアンケート結果 ( 1 )

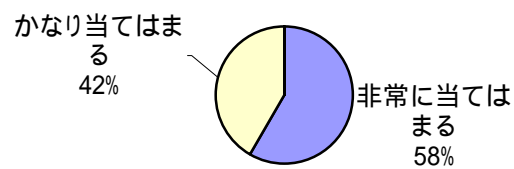
設問: 高度な医学知識を有している



設問: 高度な臨床能力・医療技能を有している



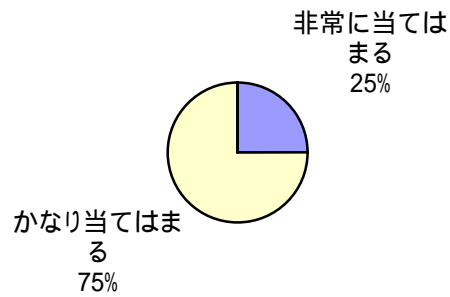
設問: 新しい知識・技術の修得に対する積極性を有している



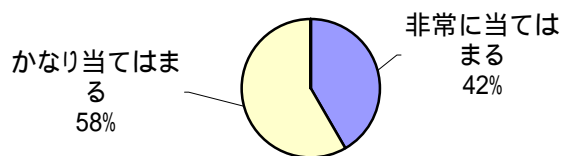
( 資料「修了生に関するアンケート集計結果・抜粋」から )

資料 5-2-2(2) 博士課程修了者に関するアンケート結果(2)

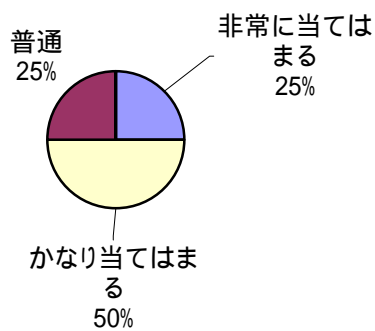
設問: 医学知識・臨床能力を応用する能力を有している



設問: 科学的・論理的思考の能力を有している



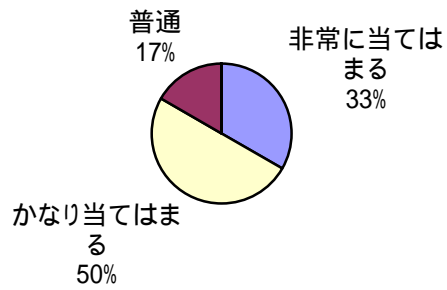
設問: 十分な医療倫理観を有している



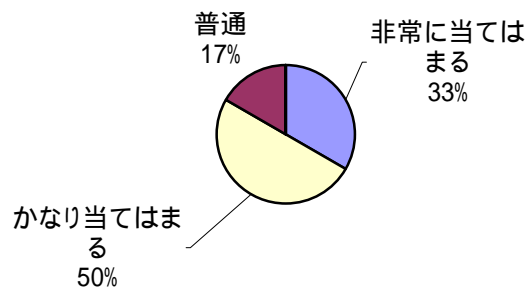
(資料「修了生に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 5-2-2(3) 博士課程修了者に関するアンケート結果 ( 3 )

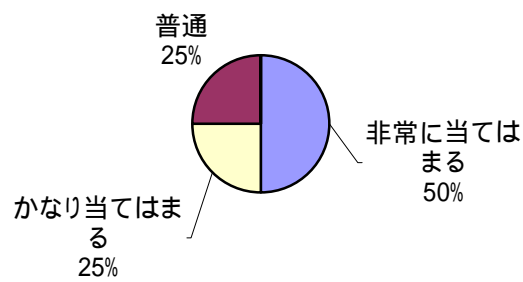
設問:医療チーム内での指導力を有している



設問:独創的な研究を遂行する能力を有している



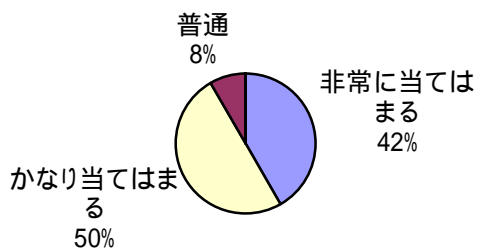
設問:国際的な水準の研究を遂行する能力を有している



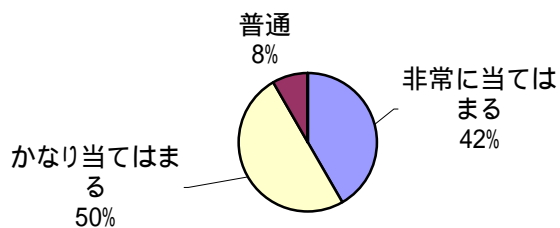
(資料「修了生に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 5-2-2(4) 博士課程修了者に関するアンケート結果 ( 4 )

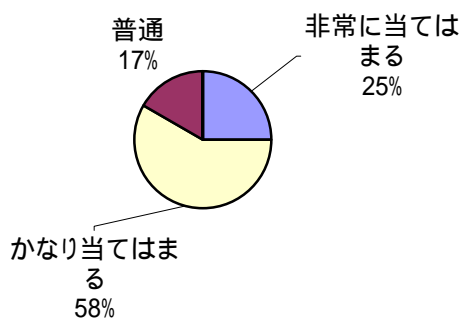
設問:教育について、将来指導的な役割を担う能力を有している



設問:研究について、将来指導的な役割を担う能力を有している



設問:診療について、将来指導的な役割を担う能力を有している



( 資料「修了生に関するアンケート集計結果・抜粋」から )

## 資料 5-2-3 修士課程修了者の就職先機関へのアンケート結果

就業先，意見聴取者： A病院 看護部長

1. 本学修了生の全体的印象
  - ・本院から大学院に進学している看護師は、現場を離れて（休職）学習している。修了後は本人の勤務希望を優先して配置している。
  - ・教育場面では大学院生として学習者の立場を経験してきたことを生かして、看護学生の気持ちが変わり、よく声をかけている。
  - ・臨床活動では、知識を系統立てて思考することのトレーニングがなされているので根拠を持って説明できる。
  - ・実践していることや他の看護師が実施していることや指示されたことなどに関して、疑問を持つことができ、時間がかかることはあるがエビデンスをもった実践に努力が見られる。
2. 本学修了生の全体的評価
  - ・同上
  - ・臨床看護研究を担当している看護師は相談者として頼りにし、相談役になってもらっている。
3. 本学修了生の活用
  - ・研究のプロセスをきちんと修得しているので、教育委員会の院内講師として活用していきたい。
  - ・EBNを実施できる看護師としての役割モデルとしても期待している。

就業先，意見聴取者： B病院 看護部長

1. 本学修了生の全体的印象
  - ・看護研究活動や院外での責任ある活動を担い、附属病院の名前をPRしてくれている。
  - ・看護実践活動について研究的な視点を持ち、看護を科学的視点で思考することができる。
 これらの能力は単に看護実践の場のみならず、会議などの場面における意見等から判断できる。
  - ・現在の附属病院の看護職の教育背景は多様化し、大学卒の看護師の比率も増加している中で、修了生は職位の役割を確実に遂行するだけでなく、全体としてのリーダーシップをとることができる。
2. 本学修了生の全体的評価
  - ・期待している役割を担い、十分に満足する活躍をしている。
3. 本学修了生の活用
  - ・院内研究の推進や査読を担当してもらい、学外研究発表に向けての役割を検討している。
  - ・1.2.との関連で、修士に進学する人が増えていくことを期待している。
  - ・臨床看護学研究の更なる発展や看護学科との連携なども考えたい。
  - ・院内研修の講師や教育担当者として活躍してもらっている。

就業先，意見聴取者： C病院 看護部長 ， D病院 看護部長の共通意見

1. 本学修了生の全体的印象
  - ・基本的に修士課程で学びたい意欲のある人に機会を与え人材育成をはかっている。
  - ・修了生に共通して言えることは、非常にしっかりとした考えをもち、指導力がついてきた。
  - ・発言内容には客観性、説得力があり、委員会等のリーダーとして信頼されている。
  - ・院内の執行部や看護部内で評価が高く、今後の活躍を期待されている。
2. 本学修了生の全体的評価
  - ・修了後の仕事の仕方に着目するような活躍ぶりであり、本学の修士課程で学ぶ意欲をもつ看護師に良い影響を与えている。
  - ・個人レベルで学ぶのにはあるが、院内の研究指導や査読委員としての役割を担当し、積極的な研究の取り組みが推進されてきた。
  - ・院内の他職種との協働する機会が増えてきているが、看護部の意見を明確に発言し、将来への展望や幅広い視野をもっているため将来を期待したい。
3. 本学修了生の活用
  - ・院内委員会等のリーダーとして活躍している。
  - ・院内の研究指導や査読委員としての役割を担当し、看護学研究の推進役を期待している。

（資料「修了生に関する聞き取り調査集計結果・抜粋」から）

( 2 ) 分析項目の水準及びその判断理由

( 水準 )

期待される水準を大きく上回る

( 判断理由 )

博士・修士課程ともに修了者は、卒業後の進路について、満足しており、学生等の期待「将来指導的役割を担うことが可能な教育・研究者の養成」に十分応えるものである<sup>1)</sup>。

<sup>1)</sup> 資料 5-1-1: 博士課程修了者の進路状況:P65

資料 5-1-2: 修士課程修了者進路状況:P65

資料 5-2-1: 修士課程・現在の仕事に役立っている教育内容アンケート結果:P66

博士・修士課程ともにそれぞれの教育目的に応じた人材の養成ができており、相応の機関に就職し、指導的役割を果たしていることは、医療機関及び教育研究機関の期待「将来指導的役割を担うことが可能な医療人及び教育・研究者の養成」に十分応えるものである<sup>2)</sup>。

<sup>2)</sup> 資料 5-2-2: 博士課程修了者に関するアンケート結果:P67～70

資料 5-2-3: 修士課程修了者の就職先機関へのアンケート結果:P71

博士・修士課程ともに修了者の県内医療機関等への高い就職率は、地域医療・保健に貢献している、また、修了者の就職先機関から、修了生は教育目的に対応した学力・能力・資質を十分有していることが高く評価されており、医療機関及び地域社会の期待「将来指導的役割を担うことが可能な医療人の養成」に十分応えるものである。また、福井県内への高い就職率は、特記できる<sup>3)</sup>。

<sup>3)</sup> 資料 5-1-1: 博士課程修了者の進路状況:P65

資料 5-1-2: 修士課程修了者進路状況 P65

資料 5-2-2: 博士課程修了者に関するアンケート結果:P67～70

資料 5-2-3: 修士課程修了者の就職先機関へのアンケート結果:P71

以上のように、進路・就職の状況は全ての関係者の期待に十分応えたものであり、期待される水準を大きく上回ると判断した。



## 質の向上度の判断

事例1「優れた臨床能力と高度な医療技術・技能を備えた地域医療に貢献できる優秀な医療人の育成推進」(分析項目 , , )

(質の向上があったと判断する取組)

### 【取り組んだ具体的内容】

博士・修士課程ともに学生の多様なニーズに対応し、職に就きながら学ぶ社会人学生(大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者)に配慮した授業を開設するなどの教育課程の編成に適切に対応して、地域医療に貢献できる優秀な医療人の育成を推進している<sup>1)</sup>。

<sup>1)</sup> 資料 2-2-1:長期履修学生規程:P26

資料 2-2-2:長期履修学生に関する申合せ:P27

資料 2-2-3:医学系研究科における長期履修制度の適用状況:P27

資料 2-2-4:医学系研究科における社会人入学の状況:P27

資料 2-2-5:修士課程授業時間割表・1年次生前期(平成19年度):P28

資料 2-2-6:博士課程における秋季入学者の状況:P28

資料 4-2-1:博士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果:P59~61

資料 4-2-2:修士課程・キャリア形成、向上に対する在学生アンケート結果:P61

資料 4-2-3:修士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果:P62~63

資料 5-2-1:修士課程・現在の仕事に役立っている教育内容アンケート結果:P66

### 【法人化時点及び評価時点の状況】

博士・修士課程ともに平成16年度~平成19年度の福井県内への就職率は80%を超えている<sup>2)</sup>。とりわけ修士課程においては、4年間全ての年度で100%となっている。

<sup>2)</sup> 資料 5-1-1:博士課程修了者の進路状況:P65

資料 5-1-2:修士課程修了者の進路状況:P65

### 【得られた具体的な成果】

博士・修士課程ともに平成16年度~平成19年度の4年間において、福井県内への高い就職率を維持している。このことは、地域医療に貢献でき、かつ、将来指導的役割を担うことが可能な優秀な医療人育成という地域医療機関からの期待に十分応えるものである。このことは、就職先からの修了生に対する高い評価結果からも裏づけられるものである<sup>3)</sup>。

<sup>3)</sup> 資料 5-2-2:博士課程修了者に関するアンケート結果:P67~70

資料 5-2-3:修士課程修了者の就職先機関へのアンケート結果:P71

事例2「高度の知識、科学的・論理的思考を備え、独創的な研究を遂行できる優秀な教育・研究者の育成推進」(分析項目 , , )

(質の向上があったと判断する取組)

### 【取り組んだ具体的内容】

博士・修士課程ともに適切な教育課程を整備し、研究にあたっては学生の主体的取り組みを促すよう事前発表会を義務付けるとともに厳格な学位論文審査体制を整備している<sup>4)</sup>。

<sup>4)</sup> 資料 3-1-1:医学研究総論に係る「大学院生発表会」について:P32

資料 3-1-2:博士課程・3年次研究発表会実施状況(平成19年度):P33

資料 3-1-3:3年次研究発表会の修了生アンケート結果:P33

資料 3-1-6:修士課程・特別研究に対する在学生アンケート結果:P40~41

資料 3-1-7:副指導教員制度を定めた規則及び副指導教員制度適用状況:P42

資料 3-2-3:博士課程・研究に対する修了生アンケート結果:P47

別添資料 4-1-1:博士論文審査実施細則及び修士論文審査実施細則:P81~84

### 【法人化時点及び評価時点の状況】

博士課程にあっては、学位論文は、欧文のレフェリー制度のある国際的な一流学術誌に公表されている。これら雑誌の平成16年度~平成19年度のインパ

クトファクター値は平均 2.89 であり、各年度とも高い水準を維持している。修士課程においても学位論文は、各年度とも多くが学会発表され、レフェリー制度のある雑誌に掲載されているものもある<sup>5)</sup>。

<sup>5)</sup> 資料 4-1-3: 博士課程・学位論文掲載雑誌一覧:P56

資料 4-1-5: 修士課程・学位論文関連業績の論文等発表状況:P57

#### 【得られた具体的な成果】

修了時点における学生が身に付けた学力や資質・能力について、博士課程、修士課程ともに高い水準を維持していると判断できる。このことは、就職先からの修了生に対する高い評価結果からも裏づけられるものである<sup>6)</sup>。

<sup>6)</sup> 資料 5-2-2: 博士課程修了者に関するアンケート結果:P67～70

資料 5-2-3: 修士課程修了者の就職先機関へのアンケート結果:P71

事例 3 「社会ニーズを踏まえた教育課程及び教育内容・方法に対する改善の実施」(分析項目 , )

(質の向上があったと判断する取組)

#### 【取り組んだ具体的な内容】

博士・修士課程ともに、ワーキンググループを設置するなど、教育課程及び教育内容・方法の改善を検討してきている。その際には、医科学・生命科学及び看護学の急速な進歩や、医学・看護学に対する社会のニーズに適切に対応することも考慮し、実施している<sup>7)</sup>。

<sup>7)</sup> 資料 1-1-2: 医学系研究科の運営体制:P4～5

資料 1-2-1: 大学院改革WGの主な検討内容:P8

資料 1-2-7: 修士課程における教育内容・方法の改善の具体的取組例:P14

資料 1-2-8: CNS コース設置に関する検討経過:P14

#### 【法人化時点及び評価時点の状況】

博士課程においては、平成 17 年度から医科学・生命科学の急速な進歩や国際化に適切に対応するため組織改革の検討が行われ、平成 20 年度から従来の 4 専攻を 2 専攻に改組することとした<sup>8)</sup>。また、がん専門医の育成の観点から、腫瘍専門科目を配置することとした。修士課程においては、平成 15 年度から、CNS(がん看護学)コースの設置について検討し、平成 20 年度から当該コースを設置した<sup>9)</sup>。

<sup>8)</sup> 資料 1-2-2: 博士課程の組織改革:P8

資料 1-2-3: 改組後の博士課程授業開設表 P9～11

別添資料 3-1-4: 改組後の博士課程のシラバス抜粋 P79～80

<sup>9)</sup> 資料 1-2-9: 修士課程の授業開設表(平成 20 年度～):P15

#### 【得られた具体的な成果】

医学系研究科を取り巻く諸情勢に対して、的確に対応し、博士課程の改組を実施したこと、がんの克服という国民的課題に対応するため、「がんプロフェッショナル養成プログラム」に申請・採択され、がん専門医及びがん専門看護師の育成のコースを設置したことは、社会の要請に対して、適切に対応しており、質の高い取り組みであると判断できる<sup>10)</sup>。

<sup>10)</sup> 資料 2-1-8: 北陸がんプロの概要とコンセプト:P25

(別添資料 1-2-4)

平成19年度「医学研究総論」アンケート結果

月	日	曜日	講義等内容	担当領域等名	学生アンケート結果(抜粋)
4	9	月	実験基礎 (実験概説)	分子生体情報学領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の進め方、特に結果が出なくてつまずいた時の解決法が特に参考になりました。よく考えながらこれから積極的に頑張っていこうと思います。</li> <li>・コントロールの必要性を改めて認識できました。思うようにいけない実験ももう一度見直します。</li> <li>・簡明瞭で極めてわかりやすい講義でした。大学勤務の経験、研究の経験のない自分にとって研究のイロハを知ることができました。(・結果を急いで求めてはいけいない、・丁寧にステップを踏み手抜きをしない、・客観性を常に意識する。)</li> </ul>
4	16	月	実験基礎 (動物の倫理・患者標本の扱い)	法医学・人類遺伝学領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃意識することの少ない倫理的な観点からの話であり、非常に参考になりました。</li> <li>・実験を行う前に臨床の場合は、倫理委員会を事前に通しておく必要があることなどについて非常にわかりました。</li> <li>・私は、研究内容上、動物実験を行っていますが、今回の授業は大変参考になるものでした。今年度から実験動物に関する規定がより厳しいものになっているので、気を付けていかなければならないと思いました。</li> <li>・人に限らず生命あるものに対しては研究上、臨床上也倫理的な面が重要である。動物実験においても最近のRefinement,Replacement,Reductionは大切である。インターネットで十分情報収集に努めたい。</li> </ul>
4	19	木	ガイダンス (人数により2回に分ける)	総合実験研究支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用の仕方と設置機器に関してわかりやすく説明していただき、ありがとうございます。</li> <li>・福井大学は他大学に比べ、共通で利用できる機器は大変充実しており、非常に実験が行いやすく、優れていると思います。先端の研究は機器に大変コストがかかるものなので、試薬代だけで研究ができるにはありがたいです。</li> <li>・実際にバイオ実験機器を使用してresearchをするイメージがまだ思い浮かばないが、これらの機器を駆使することで様々な分野での研究が可能ということが理解できた。</li> </ul>
5	7	月	実験基礎 (医学統計)パラメトリックとノン・パラ検定法	環境保健学領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多変量解析を含め例をあげて説明していただきわかり易かったです。SPSSは使用したことがないですが、使いやすそうでした。今後の研究に活用させていただきます。</li> <li>・統計でいつも苦労しますので、非常にわかり易く、有意義でした。</li> <li>・内容が豊富で勉強になりました。2回に分けていただいたほうが良かったかと感じました。</li> <li>・練習問題が多すぎると考えます。プリントに行う内容があまり反映されていないようなので、例えば行う項目のリスト等があればわかりやすいと思います。</li> </ul>
5	14	月	1-Receptors in the Heart	特別講義(大学院セミナー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・RAR receptorのサブタイプに関する説明が分かりやすかった。私は消化管の研究をしているのですが、RAR receptorと平滑筋のシグナル伝達についての説明の所は参考になりました。また、receptorの解析方法の説明が具体的だったので分かりやすかったと思います。</li> <li>・専門外で英語の講義で難しかったです。</li> </ul>
5	21	月	薬物受容体の最近の話題	薬理学領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常にわかり易く、面白い内容でした。Blockerの話は、inverseのことまで考えたことはありませんでした。気をつけます。</li> <li>・非常にわかりやすかったです。1つの遺伝子からいくつかの表現型ができることを学びました。プロトコルとインバースの違いもよくわかりました。</li> <li>・培養実験がそのまま生体での反応を反映しているのかなど実験の方法についての考え方など大変参考になりました。また、今回のような最近の話題を取り上げてくれる授業は大変おもしろいです。</li> </ul>
5	28	月	アルドステロンの心血管作用と鉱質コルチコイド受容体	内科学(3)領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある実験から結論が導きだされるプロセスを分かりやすく説明していただきました。大変勉強になりました。</li> <li>・アルドステロンの作用機序など実験でより明らかにになってきていることはよく良かった。臨床上の有効性、害なども少し詳しく知りたかったです。</li> </ul>
6	11	月	実験基礎 (コンピューター・データベース)	総合実験研究支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験を行っていく上で、コンピュータ検索は非常に重要だと思っています。今までは、自分でいろいろ調べていましたが、今回の授業でわかり易く教えていただいたので、これからの実験で、検索を行う時やりやすくなると思います。</li> <li>・遺伝子情報の検索の仕方が非常に良く分かり有意義でした。</li> </ul>
6	18	月	細胞の分化と増殖の制御機構	分子遺伝学領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小腸腫瘍の話は大変興味深く聞かせて頂きました。病理との対比はさらに免疫染色などもからめると面白く感じました。</li> <li>・Id2の細胞分化、増殖抑制機構について、考察のプロセス、実験の組み方等分かり易く説明していただき興味深かったです。</li> </ul>
6	25	月	脊髄・馬尾血管閉鎖の超微構造と機能	整形外科学領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的にはあまりなじみのない分野ながら、実験内容、画像所見を含め非常にわかり易く興味深く聞かせていただきました。</li> <li>・内容が多かったものの、マクロ、ミクロ像、MR、術中画像が非常に効果的に使用され、興味深く、理解しやすかったです。</li> <li>・神経根に対する血管支配、また、毛細血管の構造の解析から、それを基にして脊柱管狭窄やヘルニアにおける病態が分かり易く解説され、理解が深まりました。</li> </ul>
7	2	月	実験基礎 (論文作成法1)	分子遺伝学領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験を進めていく中で今日学んだことを念頭において、また、論文を書く前に必ず今日のことを復習しようと思いました。</li> <li>・非常に実践的な内容で興味深く、また、有用でした。ご教示いただいたことを念頭にこれからの実験の計画を立てていきたいと思っています。</li> <li>・論文の書き方、投稿の仕方をよく理解することができました。プリント、スライドも明快な講義でした。</li> </ul>
7	9	月	交感神経節内の局所神経回路の観察とその解析	人体解剖学・神経科学領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践上役立つ内容で美しい写真が非常に興味深かったです。</li> <li>・形態学的手法の具体的な説明は実際に実験を行う上で大変参考になりました。免疫染色とin situの選択のコツなどわかり易かったです。</li> </ul>
7	23	月	糖尿病実験動物モデル	眼科学領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明瞭なデータと解説でわかりやすかったです。</li> <li>・糖尿病モデルが5種類もあってなるほどと思った。FDG-PETと組み合わせできないかと考えてみます。</li> </ul>
7	30	月	PETの基礎と定量的生体機能測定への応用	高エネルギー医学研究センター生体イメージング部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に興味深く聴講いたしました。以前から当科の教員の研究を見ておまして、PETに興味を持っていました。私の専門とする周産期領域でPETを応用できないかと考えています。機会がありましたら、アドバイスをください。</li> <li>・脳疾患や心疾患など腫瘍以外の疾患に対してもPETが有用であることがよくわかりました。</li> </ul>

9	3	月	神経内分泌学研究の手法	統合生理学領域	・レプチンのことだけでなく、研究へのモチベーションが上がるいい話をしていただきました。 ・大変興味深い内容で面白かったです。オキシトシン 射乳反射のように直ちに起きる反射も内分泌が関与しているのには驚きました。	2年次生 1年次生
10	5	金	染色体工学・発生工学的手法を用いた新しい筋ジストロフィーモデルマウスの作製と解析	特別講義 (18:15～ 研究棟3階会議室)	・スライドが鮮明で、対比画像説明もあり、理解しやすかった。 ・基礎実験レベルの話は、臨床の者には、普段触れない分野であり、理解しづらい点もありました。 ・今回のような遺伝子解析に関する研究内容の講義が充実する事を期待します。	1年次生 1年次生 1年次生
10	15	月	インシトルリン脂質結合ドメインを介するシグナリングネットワーク 膜の形、細胞の形の決定への関与	特別講義 (17:30～ 研究棟3階会議室)	・研究の哲学が聞けてよかった。最新の研究内容までとてもわかりやすかった。メモする時間がないので、簡単なプリントでもいいので欲しい。 ・講義を何とかして自分の論文に役立てたい。	1年次生 3年次生
10	22	月	実験基礎 (論文作成法2)	高エネルギー医学研究センター 分子イメージング	・まずは自分に分かって、他人に分からない事を早く見つけたい。それを論理的に証明できる方法を見つけ、論理的な文章を書きたい。しかし、を見つけるには1年以上はかかりそうである。第2弾の講義をよろしく願います。 ・今日の授業全体が非常に分かり易いひとつの論文を読んだように思えました。実験を進めるとき、自分が論文を書くとき今日の授業を軸に頑張りたいと思います。 ・論文作成の抵抗感が薄れました。参考になりました。	1年次生 3年次生 3年次生
10	29	月	実験基礎 (発表方法・グラント執筆法)	組織細胞形態学・神経科学領域 (研究棟3階会議室)	・11月の発表を皮切りに今後の参考にさせていただきます。 ・わかりやすかったです。もう少し研究を進めてから聞きたかったです。 ・研究テーマの発表の際にスライド作りの工夫ひとつでどれだけインパクトを与えることができるかという事がとてもためになった。グラントに出来れば応募したいと思う。	2年次生 1年次生 1年次生
11	5	月	アダプター蛋白質の構造と機能	微生物学領域	・内容は難解でしたが、大変明確で聞き易い講義でした。考えの進め方は今後の自分の研究にも役立つものと思います。 ・内容は難しかったですが、どのように考え研究を進めていったのかの過程がよくわかりました。	2年次生 1年次生
11	12	月	卵巣機能調節のメカニズム	産科婦人科学領域	・仮説を理論立てて証明していく過程が大変興味深く聞かせていただきました。 ・莖膜細胞について、少ししることができました。基礎的な研究から臨床につながる所までその過程も知れてよかったです。	1年次生 2年次生
11	19	月	神経細胞の極性形成機構	特別講義 (18:00～ 研究棟3階会議室)	・難解な内容ではありませんでしたが、適切なfigure等を示していただき理解の助けとなりました。非常に興味深い内容でした。 ・神経細胞という生命の中心について、その形成等分かりやすく教えていただきありがとうございます。	2年次生 1年次生
11	26	月	バイオ関連データベース利用法	バイオ実験機器部門	・昨年も参加して大変ためになったので、今回も参加しました。また新しいことがわかりよかったです。今後の実験に役立ちそうです。 ・参考になりました。早速あとで試してみます。 ・非常に役立つ内容でおもしろかったです。もう少し時間が必要です。	2年次生 3年次生 1年次生
12	3	月	イオンチャンネル研究法	分子生理学領域	・電気生理現象の理解には、イオンチャンネルの構造・動きを知る必要のあることはよくわかった。臨床現場でもっと薬剤(チャンネル作動、チャンネルブロッカー)を理解する必要があると実感した。 ・タンデム形成で試みるというのは簡単なようでコロソブスの卵のようだと感じました。K+channelは実際にイオンを通す様子が実際の固体が通るようなイメージで非常にわかりやすかったです。	1年次生 1年次生
12	10	月	大脳皮質形成・発達分子機構	組織細胞形態学・神経科学領域	・先生の研究室で行われている子宮内エレクトロポレーション法に関心を持ちました。LL5 を探した際の実験法やその後のアッセイは大変参考になりました。 ・スライドと講義内容がとてもわかりやすかった。	1年次生 1年次生
12	17	月	内耳有毛細胞の電気生理	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域	・前回の授業を実験の実験の場で見せてもらい実感を持ちました。 ・パッチクランプ法の実際的な応用が示されており興味もてました。	1年次生 2年次生
1	7	月	ヒト症例に酷似した先天性水腎症モデルマウスとその解析	泌尿器科学領域	・大学院時代の経験を含めた内容でとても参考になった。 ・ld2と水腎症の発症について、改めて直接おききすることができ、大変勉強になりました。	1年次生 2年次生
1	21	月	細胞周期と抗腫瘍剤	内科学(1)領域	・難しいながらも非常に理解し易い講義内容であり、興味も持てました。 ・とても論理的なお話の進め方で分かり易かったです。	2年次生 1年次生
2	4	月	大学院生研究発表会 (発表者:3年次生:5名)	大学院セミナー企画部会(中2講義室)	・発表された方はよく計画された実験で大変参考になるものでした。いい部分を自分の研究にも役立てたいです。 ・1年後に発表する側になる立場で見せていただきましたが、プレゼンテーション、論理構成の参考になりました。	3年次生 2年次生
2	18	月	大学院生研究発表会 (発表者:3年次生:5名)	大学院セミナー企画部会(中2講義室)	・他の先生方の研究などを見て、またアドバイスをいただき大変参考になりました。 ・今回は臨床を対象とした研究も発表されていましたが、基礎系の実験とは異なる部分があって参考になりました。	3年次生 1年次生
2	25	月	NOと腎臓・血管生理	小児科学領域	・先生の研究の厚みを感じました。勉強になりました。 ・自分の研究の関係でNOには関心がありました。年齢によってNOのバイオマーカーの基準値が違うというのは参考になりました。	3年次生 1年次生
3	3	月	大学院生研究発表会 (発表者:3年次生:5名)	大学院セミナー企画部会(中2講義室)	・全体的に大学院生の発表の後に先生方が実験のアドバイスをされていて、参考になりました。 ・ネガティブデータの取り扱いについて考えさせられました。今後の戦略の参考にさせていただきます。	1年次生 2年次生
3	10	月	血小板由来内皮細胞成長因子を用いた重症虚血肢に対する遺伝子治療	外科学(2)領域	・血管再生の仕組みが興味深かった。 ・CLIについての内容で臨床と関連があり、面白い講義でした。	1年次生 1年次生
3	17	月	ベクター研究法	免疫学・寄生虫学領域	・タニからの病原生物の感染、その他の検出については全く知らなかったためとても興味深かったです。 ・ベクタタニになり易い種や系統などに何らかの遺伝子のホモロジーがあるのか、また、現在感染された患者に用いている治療は新薬を用いなければならないのか等についても知りたかった。	2年次生 1年次生

(別添資料 2-1-5)

# 成人看護学特論

科目名		単位数又はコマ数	開講時期
成人看護学特論		2単位	1年次前期
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス	科目等履修生
岩田 浩子	教授/成人・老人看護学	hiwata@fmsrsa.fukui-med.ac.jp	否
石崎 武志	教授/健康科学	takeshi@fmsrsa.fukui-med.ac.jp	
酒井 明子	助教授/成人・老人看護学	sakaiaki@fmsrsa.fukui-med.ac.jp	
松田 光信	助教授/精神看護学	mmatsuda@fmsrsa.fukui-med.ac.jp	
千崎美登子	非常勤講師		

## 1. 講義概要

### 1) 学習目的

成人期の対象についてのストレス・危機・適応理論，成長・発達に伴う社会心理的問題および身体的問題についての基礎的な理論，精神看護学領域における看護実践モデルを理解し，研究の視点と概要について基本的な体系付けおよび研究を展開する基礎を修得する。

### 2) 目標

- (1) 成人期の成長・発達に関する理論を理解し，成人期にある対象を総合的に把握し，成人発達とエイジングに関する理解を深めることができる。
- (2) 成人期にある対象をストレス・危機・適応理論を活用して理解し，健康障害を持ちつつ生きる対象への看護の課題を探究することができる。
- (3) 成人期の健康障害の特徴，身体的・心理・社会的問題について理解を深め，研究的視点を形成することができる。
- (4) 精神看護領域におけるアセスメントの方法，事例の分析方法を理解し研究的視点を形成することができる。
- (5) 理論を活用し，成人看護学領域及び精神看護学領域の健康問題に関する看護論文をクリティークすることにより，看護学研究を展開する基礎を形成することができる。

## 2. 講義内容及び形式

### 1) 成長・発達理論

岩田

成長・発達について代表的な理論を多面的に学修し，成人期にある対象についての理解を深める。

身体的側面の成長・発達と成人期の課題

心理・社会的側面の成長・発達と成人期の課題

### 2) ストレス・危機・適応理論

岩田・酒井

ストレス・危機・適応についての代表的な理論を多面的に学修し，成人期にある人間の適応について理解を深める。

ストレスによる生理的反応のメカニズムを，成人期における健康問題との関連で探求し，成人期における健康問題を明らかにする。

ストレスによる心理・社会的影響について，成人期における健康問題との関連と課題を明らかにする。

- 1) 成人期の慢性的健康障害における課題 石崎・岩田  
成人期にある対象の慢性的な健康障害の実践的な知識及び理論を学修し、看護の課題を探求する。
- 2) 成人期の急性的健康障害における課題 酒井  
成人期にある対象の急性期の健康障害のクリティカル領域についての実践的知識および理論を学修し、看護の課題を探求する。
- 5) 成人期の精神障害者の課題 松田  
成人期にある精神障害者についてのアセスメント方法、事例の分析方法を探求し、臨床看護実践の質的向上に貢献できるケア方法を理論的に学修する。
- 6) 専門看護師としてのがん看護 千崎  
がん看護領域における専門看護師としての看護援助の専門性と今後の課題を学修する。
- 7) 成人期における健康障害についての検討 岩田・石崎・酒井・松田  
各自文献を検索し、成人期にある対象（個人又は集団）の健康障害（身体的・精神的）について理論の活用を基盤とする検討を通して研究課題に関する理解を深める。

### 3. 授業の形式

講義・プレゼンテーションおよび検討

### 4. 評価方法

レポート及び講義参加状況

### 5. 参考図書等

講義時提示

(別添資料 3-1-4)

医科学専攻・先端応用医学専攻（共通科目）		
授業科目名	教員名	職名/所属
医科学基礎総論	医科学専攻全教員	
単位数 4単位	(コーディネーター) 佐藤 真	教授/組織細胞形態学・神経科学
コマ数 30コマ		
開講時期 1～3年次		
キーワード		
<b>学習目標</b>		
「医科学基礎総論」では、医科学の研究活動実施に必要な事項を学ぶとともに、実験実施に必要な基礎的知識、機器使用法などをあわせて学ぶ。		
<b>授業の内容</b>		
1. 大学院授業ガイダンス・実験概説		医学科長
2. 実験倫理学・安全学		小泉
3. 論文読解法		森島
4. 論文作成法 1		横田
5. 論文作成法 2		藤林
6. 発表方法、グラント執筆法		佐藤
7. 遺伝医学概論：基本的人類遺伝学の素養		安田
8. イオンチャネルに対する電気生理学研究：実験手技・研究の流れとその現状・展望		老木
9. 生体分子の構造・物性研究：分光法と熱力学的データ解析の基礎		今野
10. 酵素化学実験法の概要		藤井
11. 顕微鏡観察の基本事項		野条
12. 組織細胞化学：原理と実例を用いた応用		飯野
13. 分子神経科学・発達神経科学研究：実験手技・研究の流れとその現状・展望		佐藤
14. 哺乳動物における細胞の分化制御機構		横田
15. 分子機能生物学：転写因子の機能調節による細胞増殖制御について		黒岡
16. 薬物受容体の基礎および最近の展開		村松
17. 内分泌学の歴史；患者の症状の記載から始まった内分泌学が、分子内分泌学にまで発展してきた軌跡を振り返る。		樋口
18. 内分泌学研究：生殖系の研究の流れと今後		村田
19. 分子内分泌学研究：内分泌に係る遺伝子発現解析等の概説		宮本
20. 微生物学・感染免疫学研究入門		定
21. Introduction to Immunology		友成
22. 新興再興感染症の分子疫学とベクター研究法概説		高田
23. 放射線の取扱手技・研究の流れ		藤林
24. 生命科学における R I 利用法		清野
25. 分子放射線生物学：研究の流れとその現状および展望		松本
26. 放射性同位元素を用いた臨床診断と治療の基礎		工藤
27. PET を用いた生体イメージングと定量測定の基礎		岡沢
28. 大学院生研究発表会		
29. 大学院生研究発表会		
30. 大学院生研究発表会		
<b>講義室：院生棟 1 階セミナー室</b>		
<b>授業の形式</b>		
講義形式で行う。		
<b>到達目標</b>		
各担当教員の説明する医科学の研究活動実施に必要な基礎的知識を説明でき、主な研究機器を使用することができる。		
<b>総合評価割合</b>		

<b>評価方法</b> 出席重視	
<b>教科書及び参考書</b> 各担当教員からの指示による。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<b>代表者 E-Mail</b>	makosato@u-fukui.ac.jp



(別添資料 4-1-1)

福井大学大学院医学系研究科博士論文審査実施細則

平成 16 年 4 月 1 日  
大院医細則第 2 号

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この細則は、福井大学学位規程(平成 16 年規程第 30 号。以下「規程」という。)第 31 条の規定に基づき、博士の学位に係る学位論文審査の実施及び学位記の授与に関する取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

第 2 章 博士課程修了による学位論文審査の出願

(出願者の資格及び提出期限)

第 2 条 規程第 3 条第 2 項の規定による学位論文審査を願い出ることができる者は、福井大学大学院医学系研究科博士課程(以下「博士課程」という。)の最終学年(福井大学大学院学則(平成 16 年 4 月 1 日制定)第 38 条ただし書の規定に該当する場合を含む。)に在学し、所定の単位を修得した者で、かつ、必要な研究指導を受けた者とする。

2 規程第 14 条第 1 項の提出期限は、最終学年の冬季休業の前日とする。この場合において、指導教員が認めるときは、提出期限を猶予することができる。

(出願のための提出書類等)

第 3 条 規程第 14 条第 1 項に規定する提出書類の様式及び部数は、次の各号に掲げるとおりとし、提出する際には、指導教員の承認を得るものとする。

- (1) 学位論文審査願(別紙様式第 1 号) 1 部
- (2) 論文目録(別紙様式第 2 号) 5 部
- (3) 学位論文 5 部
- (4) 学位論文の要旨(別紙様式第 3 号) 4 5 部
- (5) 参考論文がある場合は、当該論文 各 5 部
- (6) 学位論文が共著論文である場合は、自己の担当部分についての報告書 5 部
- (7) 学位論文が未公表の場合は、掲載予定証明書 1 部
- (8) 履歴書(別紙様式第 4 号) 1 部
- (9) 外国人の場合は、外国人登録済証明書 1 部

第 3 章 学位論文提出による学位の申請

(申請者の資格)

第 4 条 規程第 3 条第 3 項の規定による学位の授与を申請できる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、別に定める外国語試験に合格した者とする。

(1) 博士課程に 4 年以上在学し、所定の単位を修得して退学した者(以下「単位修得退学者」という。)ただし、第 2 条第 2 項後段の提出期限の猶予願いを提出し退学した者を除く。

(2) 大学の医学部又は歯学部を卒業した者で、基礎医学においては 5 年以上、臨床医学においては 6 年以上の研究歴を有するもの

(3) 前号の学部以外の学部の卒業生又は大学卒業生と同等以上の学力があると認められる者で、前号にそれぞれ 2 年を加算した研究歴を有するもの

2 前項第 2 号及び第 3 号の研究歴とは、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 大学の医学部又は歯学部の専任職員として研究に従事した期間
- (2) 大学院の医学研究科又は歯学研究科を退学した者の場合は、大学院に在学した期間
- (3) 大学の研究生、専攻生等として医学又は歯学の研究に従事した期間
- (4) 医学系研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)が権威あると認める研究機関において、専任職員として医学又は歯学の研究に従事した期間
- (5) 大学の附属病院又は研究科委員会がこれに準ずると認める医療機関において、医員、医員(研修医)等として研究に従事した期間
- (6) 研究科委員会が前各号と同等以上と認めるもので、医学又は歯学若しくはこれらに関連する分野の研究に従事した期間  
(申請のための提出書類等)

第 5 条 規程第 14 条第 2 項に規定する提出書類の様式及び部数は、次の各号に掲げるとおりとし、提出する際には、指導教員の承認を得るものとする。

- (1) 学位申請書(別紙様式第 5 号) 1 部
- (2) 論文目録(別紙様式第 2 号) 5 部
- (3) 学位論文 5 部
- (4) 学位論文の要旨(別紙様式第 3 号) 4 5 部
- (5) 参考論文がある場合は、当該論文 各 5 部
- (6) 学位論文が共著論文である場合は、自己の担当部分についての報告書 5 部
- (7) 学位論文が未公表の場合は、掲載予定証明書 1 部
- (8) 履歴書(別紙様式第 4 号) 1 部
- (9) 資格審査願(別紙様式第 6 号) 1 部
- (10) 大学卒業証明書 1 部
- (11) 研究歴証明書 1 部
- (12) 外国語試験合格証明書 1 部
- (13) 外国人の場合は、外国人登録済証明書 1 部  
(学位論文審査手数料等)

第 6 条 規程第 14 条第 2 項の学位論文審査手数料(以下「手数料」という。)は、57,000 円とし、学位論文受理決定後に財務部経理課に納入しなければならない。

2 単位修得退学者が、退学後 1 年以内に学位論文を提出する場合には、手数料を免除することができる。

#### 第4章 学位論文

##### (学位論文)

第7条 規程第14条第1項及び第2項の規定により提出する学位論文は、原則として単著とする。ただし、学位論文が共著の場合は、次の各号に掲げる条件を満たしているものとする。

- (1) 学位論文提出者は、筆頭著者であること。
- (2) 学位論文提出者は、他の共著者から当該論文を学位論文として使用しても差し支えない旨の承諾を得ていること。
- (3) 学位論文提出者は、他の共著者が当該論文を学位論文として使用しない旨の承諾を得ていること。
- (4) 学位論文提出者は、その研究において自ら担当した部分を和文による論文形式でまとめた報告書を作成し、その報告書に、研究及び学位論文作成において中心的な役割を果たしたことを明確に記載すること。

##### (学位論文の公表)

第8条 前条の学位論文は、審査のある学術誌に公表された論文とする。

2 前項の場合において、審査のある学術誌に公表が予定されているときは、当該編集委員会等の掲載予定証明書により公表論文とみなすものとする。

#### 第5章 学位論文の審査等

##### (資格等審査)

第9条 医学系研究科博士課程小委員会(以下「博士課程小委員会」という。)は、学位論文提出者の次に掲げる事項について資格等審査を行うものとする。

(1) 博士課程修了による学位論文審査願出の場合

- ア 在学年数
- イ 単位修得状況
- ウ その他必要と認める事項

(2) 学位論文提出による学位申請の場合

- ア 研究歴
- イ 外国語試験合格の有無
- ウ その他必要と認める事項

##### (学位論文の受理)

第10条 医学系研究科長は、博士課程小委員会の資格等審査の報告に基づき、研究科委員会の議を経た上で学位論文を受理する。

##### (審査委員会の構成)

第11条 規程第18条第1項に規定する審査委員会は、研究科委員会委員3名で構成する。

2 前項に規定する審査委員会は、研究科委員会において学位論文の要旨を配布し、指導教員が説明を行った後、連記無記名投票により選出された2名及び指導教員1名で構成する。

3 前項の審査委員会は、研究科委員会で選出された2名の委員のうち委員の互選により1名を主査とし、他の2名を副査とする。

##### (最終試験及び学力の確認)

第12条 審査委員会は、学位論文の審査をし、併せて博士課程修了による審査にあつては規程第19条第1項に規定する最終試験を、学位論文提出による審査にあつては同条第2項に規定する学力の確認を、行うものとする。

2 前項の規定にかかわらず、単位修得退学者が、再入学しないで学位論文提出による学位を申請する場合は、退学後3年以内に申請するときに限り規程第19条第2項に規定する学力の確認のうち、外国語及び専攻学術全般に関する試問を免除することができる。

##### (公開発表会)

第13条 審査委員会は、学位論文の審査の過程において、学位論文についての公開発表会を開催するものとする。

##### (学位論文審査等の報告文書)

第14条 規程第21条の規定により審査委員会が研究科委員会に報告する文書の様式は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 学位論文審査の結果の要旨(別紙様式第7号)

(2) 博士課程修了による学位論文の審査にあつては、最終試験の結果の要旨(別紙様式第8号)

(3) 学位論文提出による学位論文の審査にあつては、学力の確認の結果の要旨(別紙様式第9号)

##### (学位授与の議決方法)

第15条 規程第22条第2項に規定する議決は、単記無記名投票により行うものとする。

##### (学位授与の可否の通知)

第16条 医学系研究科長は、研究科委員会の議に基づき、学位授与の可否について本人及び指導教員に通知するものとする。

#### 第6章 学位記の授与

##### (学位記及びその授与日)

第17条 医学系研究科博士課程において授与する学位記の取扱いについては、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 博士の学位記は、次の者に授与し、当該学位記の授与の日は、それぞれに定める日とする。

ア 博士課程の在学期間中に学位論文が受理され、審査に合格した者は、3月23日、6月30日、9月30日及び12月27日

イ 博士課程の在学期間中に学位論文が受理され、当該年度末に退学した者で、退学した後に審査に合格した者は、退学した日

(2) 博士の学位記(学位論文提出による場合)は、規程第3条第3項に規定する者に授与し、当該学位記の

授与の日は、3月23日、6月30日、9月30日及び12月27日とする。

第7章 雑則

(雑則)

第18条 この細則に定めるもののほか、学位論文審査の実施に関し必要な事項は、研究科委員会の議を経て、別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成19年7月5日から施行する。

福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施細則

平成16年4月1日  
大院医細則第3号

(趣旨)

第1条 この細則は、福井大学学位規程(平成16年福大規程第30号。以下「規程」という。)第31条の規定に基づき、修士の学位に係る学位論文(以下「修士論文」という。)審査の実施及び学位記授与に関する取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

(出願者の資格及び提出期限)

第2条 規程第3条第2項の規定による修士論文の審査を願うことができる者は、福井大学大学院医学系研究科修士課程の最終学年(福井大学大学院学則(平成16年4月1日制定)第36条第1項ただし書の規定に該当する場合を含む。)に在学し、所定の単位を修得した者で、かつ、必要な研究指導を受けた者とする。

2 規程第4条の提出期限は、次のとおりとする。

(1)3月修了予定者 1月末日

(2)9月修了予定者 6月末日

3 前項に定める日が日曜日のときは翌月1日、土曜日のときは翌月2日を提出期限とする。

(出願のための提出書類等)

第3条 規程第4条に規定する提出書類の様式及び部数は、次の各号に掲げるとおりとし、提出する際には、指導教員の承認を得て学務部松岡キャンパス学務室に提出する。

(1) 修士論文審査願(別紙様式第1号) 1部

(2) 論文目録(別紙様式第2号) 4部

(3) 修士論文 4部

(4) 論文内容要旨(別紙様式第3号) 4部

(5) 参考論文がある場合は当該論文 4部

(6) 履歴書(別紙様式第4号)

1部

(修士論文)

第4条 規程第4条の規定により提出する修士論文は、単著とする。

2 CNS(がん看護学)を専門とする学生は、課題研究の論文をもって修士論文に代えることができる。

(修士論文の受理)

第5条 医学系研究科長は、修士論文の審査の出願があったときは、医学系研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)の議を経て修士論文を受理する。

(審査委員会の構成)

第6条 規程第7条第1項に規定する審査委員会委員は、3名で構成する。

2 前項に規定する審査委員会は、研究科委員会で協議のうえ選出した大学院担当教授2名及び指導教員1名で構成

3 前項の研究科委員会で選出される2名の委員のうち1名は、提出論文の内容に応じた関連分野の助教授をもって代えることができる。

3 第1項の審査委員会は、研究科委員会で選出された2名の委員のうち委員の互選により1名を主査とし、他の2名を副査とする。

(公開発表会)

第7条 審査委員会は、修士論文の審査の過程において、修士論文についての公開発表会を開催するものとする。

(最終試験)

第8条 審査委員会は、規程第8条に規定する最終試験を行うものとする。

(修士論文審査等の結果の報告)

第9条 審査委員会は、論文審査等の結果を、修士論文審査結果報告書(別紙様式第5号)により、研究科委員会に報告するものとする。

(学位の授与決定)

第10条 研究科委員会は、前条の報告に基づき、学位を授与すべきか否かを審議し、決議するものとする。

(学位授与の可否の通知)

第11条 医学系研究科長は、研究科委員会の議に基づき、学位授与の可否について本人及び指導教員に通知する。

(修士論文の最終提出)

第12条 学位授与決定の通知を受けた者は、修士論文に表紙をつけて製本したものを2部を学位記授与日の前日までに医学系研究科長に提出するものとする。

(学位記授与日)

第13条 学位記の授与の日は、原則として、3月23日及び9月30日とする。

(雑則)

第14条 この細則に定めるもののほか、修士論文審査の実施に関し必要な事項は、研究科委員会の議を経て、別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日福大院医細則第1号)

この細則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成18年7月13日福大院医細則第2号)

この細則は、平成18年7月13日から施行する。

附 則

この細則は、平成19年4月12日から施行する。

附 則

この細則は、平成20年4月1日から施行する。